（丙寅カ）
甲寅秋改

万　覚

利　通

八月七日、

夜半暴風雨、市中諸所家吹倒、死人三十余人、桂川筋・淀川筋暴漲、近来希有之大風洪水之由実可謂天変、

同　八日、

一、橋中納言（慶喜）参　内　御剣拝領、

但朝廷ニ振有之名刀之由也

同十一日、

一、橋来ル十二日西下発足之筈候処俄ニ延引相成、桑名（松平定敬）早天ニ下坂トカ、子細は於小倉小笠原（壱岐守）閣老江肥之長岡（是容）監物より屢及議論、同藩惣引取相成諸藩出張人数も同様ニ而、閣老一人ニ而無致方長崎江出張、船より華城江参候はんと之噂、尤板倉（勝静）乗切ニ而昨朝上京、

肥後　宮川小源太

右伏見大山彦八面会云々、

大原　中御門　庭田

肥宮川小源太長岡監物より相含上京、浅井（新九郎）井ノ口江一橋・桑・會之説ニ随従、不及条理ニ付而周旋いたし候様申越候由、

一、七月廿七日於小倉戦争平戸藩浦熊沢咄ニ御座候次第ハ熊本兵大里ヲ守居地雷仕懸相待候処、長兵千許上陸及砲戦、右ノ虚ニ乗し幕熊本ノ蒸艦三艘関地（下関）ニ向乗出シ、砲発候処関地よりも手強打出し三艘共痛損、二艘は下之方ニ引取、一艘は上江乗出シ佐賀之関江碇泊、右艦江乗付居候者咄ニ長之蒸艦も一艦ハ打沈メ候様ニ見留

候、長兵熊本兵ト戦ニ及居候付、他分ハ地雷ニ長兵死亡候半ト、

一小倉藤田如助と申者咄ハ、先月廿八日戦争ニ而大里江熊本勢陣取候処、長兵船ヨリ寄懸ケ大合戦、勝敗ハ不相分、九州ノ諸家之人数ハ悉解兵相成候趣迄ハ、大坂留主居より一封遣候との咄ニ而、勝負ケハ不存とノ由、どふやら答出来兼タル様子、

八月十四日、富田状之内、

一江戸表御普代衆一橋公にハ御奉公得不仕候と、結党候企も御座候哉ニ内評有之由、

柳川藩家老立花駿介　堀　鎌藏

戸川登三郎

一八月十四日右柳藩堀鎌藏入来、小倉之事情左之通承候、

一先月廿八日戦ハ相違無之由、乍併肥藩接戦ハ無覚束候、全体同人も小倉江出屢長岡監物も面会合議之上小閣老江及議論、別而被及困究候形之由、固より出兵いたし候而も戦ハ不接含ニ而候由、

一同人義奉主命重役同伴上京、㊟二条斉敬殿下・一橋江も出候由殿下之処ハ既ニ　朝命違背付一橋江御委任被成候間、今更無致方ニ付尚宜尽力いたし候様御沙汰候由、橋ハ既ニ　朝命ヲ奉し候故無致方ト申御事ニ候由、

一同晦日　大樹〔家茂〕御他界之事相聞得、其名トシテ肥藩始其外一同解兵相成、小閣老〔小笠原〕ハ蒸艦ニ而長崎江廻船、同所より幕船ニ而上坂之賦、

一翌朔日早天より彦島ノ大砲声ヲ相図ニ大里より長兵押出シ、小倉人数可也ニ相防候内、横矢ニ而打タレ小倉勢大敗北、自ラ放火シ落城、武家市中尽ク焼失、小倉ハ妙見山トカ云田舎へ落去之由、

八月十三日、中條左衛門督　山階宮〔晃親王〕江参殿、大樹公喪ヲ発シ開兵之儀御尽力奉願候由、尤板倉其説ヲ以大ニ尽力いたし候由、

同日不時御参

内、別段御評議不被為在、　殿下より小倉之形行云々御咄被為在候由、

八月十六日、市橋・板倉参　内書面差上候由、其趣は長防之義是迄度々
勅諚ニも相成既ニ御暇参　内、且御剣迄も拝領、則発足可仕候処、段々諸藩より申出趣も有之、不図も九州之諸軍尽ク解兵相成候由相聞得、此ニ至テハ迚も微力ニ及兼候間御免被仰付一応解兵被　仰渡度、尤大樹ニも段々病気大切相成候段申越、若事切れ相成候ハヽ、喪ヲ発シ、喪中解兵と御達相成候様と之大意之趣ニ而候由、然処
殿下・尹宮（朝彦親王）なとの処別而案外之御様子ニ而、何様之訳ヲ以テケ様之存慮ニ相成候やと御不審之体ニ而候由、乍併別ニ御評議も不被為在言上通と申事ニ相成候、
但何れ諸藩ヲ召呼篤と公評ヲ尽シ、至当之処置ヲ施度と之事候由、小笠原上坂いたし段々申出趣も有之と之事も有之由、
右
内府（近衛忠房）公より之御説、
一一橋参　内、国事掛小御所江御出席、
主上　出御、従一橋公言上仕候趣、長防之儀ニ付言上仕候趣も有之、今更申上候義甚以奉恐入候得共、九州之形行云々之次第ニ而、迚も只今之次第ニ而は、諸藩一同徳川ヲ見捨候勢ニ相成、中々成算無覚束候間、大樹ノ喪ヲ発シ其名ヲ以テ開（解）兵相成候様奉願候、然上天下ノ牧伯ヲ被召、公評ヲ以可討不可討之論ヲ定、御処置被為在度と之大意之趣ニ而言上之由、
殿下御沙汰ニ以之外成次第ニ而、先日迄ハ段々言上之趣も有之、亦今日変シテ論ヲ立候事不得其意、如何之趣意ニ候ヤト
御返詞被為在候処、御尤之御儀ニ奉存恐入たる次第ニ御座候、乍併仮令して申上候得は先夜之暴風も同様ニ而、前日迄は無事之処一夜にして草木ヲ倒し、小路を荒し候も同様なる訳にて、先達迄ハ先可討見留も有之候得共、九州之変ヲ以俄ニ見留も変り候訳ニ御座候、仍而此上ハ於幕府も段々失体も有之候付、凡而御断申上御委任之筋をも返上仕、諸侯と共ニ天下ノ心ヲ心として変革いたし申度、左候而将軍職之儀は何く迄も御

断申上、可然其任ニ堪候者被命度と之義も申上、終言上通被　聞召通ト申事ニ相成候由、

但橋之所存薩・熊本・肥前・因・備・宇和島・藝州・阿州・土佐九藩之賦ニ候由、

一去ル五日、六日、七日藝州合戦初長兵寡兵ヲ出及敗走候由、幕議是より至ル所台場築造寸歩も不退賦ニ候処、七日夜風雨ニ乗シ夜討ヲ懸候処、幕兵不意ヲ打レ大敗北、終ニ五日市迄引取本之通取返サレ、長兵廿日市迄押寄候由、

但藝州ハ人数出シなから傍観いたし、井伊・榊原より及懸合候処、初より戦之賦ニ無之、自国警衛之為ニ候段返詞にて、大ニ立腹いたし候由、

八月八日長防御首途ニ付御暇参　内之砌被　仰出候由

一橋中納言（慶喜）

大樹先達而已来所労之処追々差重り候ニ付、危篤之節は相続之義奉命之趣相受、猶又防長之義至急ニ付為名代、近々出陣之事大儀ニ　思食候、将軍職之義兼而御断申上候旨申立之次第、難被　聞食筋ニ候得共、段々申願候趣も有之無余義被

聞食候、乍去大樹同様厚被遊

御依頼候間、

朝家之御為竭力速ニ奏追討之功、愈可励誠忠、依之

御剣一腰賜之候事、

一小倉戦争之義先月廿七日之由、長兵海手より内裏江之内何とかいへる所ニ押寄、陸ハ延明寺と云寺江埋伏百人位いたし候処、肥後勢より見付られ及砲戦、肥兵二三方より取懸打死三四十人位も有之由、海手之方も別而苦戦ニ而、明六ツより七ツ時分迄ニ而相引と成候由四分六分ト申戦ニ候由、即夜内裏之長兵篝火盛ニ燃し、小倉之方も同断之由、

一翌日廿八日小倉之方江長兵押寄候勢之所兵散シ候由、

一晦日小倉何となく騒動、市中之老若家片付道具等相運、諸藩旅宿之者は相迦候向之由、然処昼時分より肥後ヲ初諸藩尽解兵いたし候由、

小笠原閣老（壱岐守長行）は長崎江出帆、軍目付も尽ク引取候由、

一八月朔日小倉城自焼落去之由、城中も評議有之たる向

ニ而、家老比志村志津馬重役外ニ両三人割腹自焼之由、

一藝州表井伊・榊原・宮内迄出張、当月二日方より日々小戦有之、六日晩長より五百之人数二手ニ分、井伊之陣所ニ夜討いたし候由、尤風雨も烈敷不意ヲ打レ別而狼狽、長兵三人五人待伏逃る者ヲ討、陣所を逃出るものハ陣外へ待伏、散々打成サレ敗走之由、長兵ハ山上ニ兵引キ候処、榊原之兵騒動ヲ聞引候処、明石外ニ一藩敵之寄るト心得同死(士)討チニ而死傷数ヲ不知候由、長兵ハ榊原陣所ヲ乗取候処、即夜榊原等三藩合して榊原陣所要所故、取返さんと押寄候処亦大敗走、殊ニ追討せられ十分死傷も有之たる由、

一市橋より桑・會両公江帰国之義ヲ御進メ相成候由、

以上八月十九日門脇少造(重綱)入来咄之内也、

一八月十九日、山階宮江(晃親王)　大蔵大輔様(慶永)御参　段、段々御噺も被為在、會・橋此上虚心平気にして、諸藩之説ヲ容るゝといへる所ハ御懸念被成候由、

一烏丸様(光徳)・萬里小路様(博房)御正議之由、

以上高左京(高崎正風)咄、

一八月十九日橋之用人梅沢孫太郎(亮)為御使従今日発足、肥後・肥前・御国元江参、御直書持参拝謁も願候趣、御留守居江御用ニ而懸合有之候也、

一諸藩御召ハ薩・両肥・土藩・阿州・宇和島・尾之七藩之由、

一二条殿下之方江去ル十八日柳藩宮川登三郎相伺候処、諸藩　御召ハ従　朝廷ハ御召不相成と申事之由、同人廿日入来ニ而咄也、

一八月十九日市橋江国事御委任と被　仰出候由、本文御辞退ニ而御依頼之御文言ニ相替候由、因州(池)因伊王野咄、

一同日伊藤(俊)ヲ友四郎

尹宮(朝彦親王)より被召云々御噺被為在、會之説ニ御信用ひとく御歎息被成候由、

一同大樹(家茂)危篤之御届申上候由、

一同廿日市橋下坂板倉随従、

一大蔵大輔(松平慶永)様ニも同夜御下坂、

一廿日黒田〔了介〕・篠原〔国幹〕今日着、中国之模様相分り、藝州口之方先月廿七八日比より屢戦争、去ル二日ニハ小方ニ而別而難戦之由、六日明方之戦ニ宮内・井伊・榊原ハ敗走之由、大野方ハ五部位之戦之由、

一廿一日左之通、

大樹様〔徳川家茂〕昨廿日卯上刻薨去、仍三ヶ日廃

朝之事、

花山院前右府〔家厚〕様昨日薨、仍三ヶ日廃

朝之事、

一會不平ヲ生、橋ヲ恨ミ内輪沸騰、是非干戈ヲ以迫ルト云程之勢ニ候由、若其迄ニ至らすハ全橋ノ意不述様、先将軍同様ニいたし度と之趣意ニ而、段々尽力いたし候由、

一尹之御趣意諸藩御召之事も橋江御委任、坂城江召会議之上橋〔慶喜〕より言上ヲ　御聞届といへる御趣意之よし、

以上因門脇・伊王野之噺也、

一私義大樹為名代出陳之義被

聞食、此程賜　御暇不日発途可仕奉存候処、大樹病体追々候重り候趣、諸藩一統伝聞仕　九州口俄ニ解兵ニ及候趣、兼而為指揮出陳罷在候小笠原壱岐〔長行〕守儀も引揚帰坂可仕段申越、私義征長之大任素より行届不申候故御断申上候処、目前急務国家之御安危之界ト奉存候付、其旨ヲ不量一身ニ引受、勉強仕候心得ニ御座候処ニ、前段事情ニ立至り諸藩引退候上は、兼而言上仕候通り薄力非才之私、此上諸藩之指揮所詮無覚束、尚又諸藩ニ於而も兼而之御趣意ニ御座候折柄、俄ニ解兵仕候は必定、夫々之見繕も可有之御座候、就而は此場ニ於テ急速諸藩呼集、銘々見込も得と承り、届ヶ筋々利害得失論定之上、天下公論之人心帰着ヲ以進退仕度奉存候、私義是迄格別之御寵恩近比厚蒙　御沙汰、出陳ニ臨ミ今更右様之儀言上仕候而、

朝廷ニ奉対実ニ恐懼千万奉存候得共、此上御大事ヲ誤候而は如何ト恐入候付、至情難黙止言上仕候、此段寛大之以　思召、微衷之程宜舗被為

聞召、分御許容之

御沙汰被及下候様奉頼、前件之次第畢竟諸事不行届よ

り差起り候儀ハ、私ニ於テも奉恐入候、依之罪ヲ闕下ニ奉待候、誠恐誠惶頓首謹言、

八月　　慶喜

右十六日奏聞之書面、

一廿日大蔵大輔様（松平慶永）即日中條御同行　殿下江御参殿、朝命ヲ以諸藩御召不相成候而不相済段委曲言上相成候処、条公左様之訳候ハヽ、於朝廷御子細無之、しかし橋之趣意（一橋慶喜）夫丈之事と不被思召と之御事ニ而候処、夫ハ少も相替候義無御座、御請合申上候段被仰上、一応橋江御懸合之上と申事ニ相成、道島八左衛門江一封御渡廿一日下坂之事、

一道島下坂形行言上之処、大事之訳故篤と御熟考、追而御答可被成と之御事ニ而廿二日道島上京、

一（原書ノマヽ）□具ニ言上仕候処、尚昨夜中御勘弁被為在候との御事ニ而、今朝ニ至り御別封御返翰御下ケ付則相廻申候、今朝迄も御地被相達候御都合ニ無之候而は、関白様思召ニ相叶申間舗候得共、後ニ大関係有之様ニ付、厚御勘考被為在候而、段々御延引ニ相成候次第、程克御取繕御不都合無之様被仰上可被下候、且御趣意柄委敷相伺申さす候得共、諸藩召之義断然　朝廷より　御沙汰ニ而は、後々ハ悉皆御引受相成候様之事ニ可立至、左候而は御不都合ニ付、此程被仰上候御趣意ニ基キ、右之御挨拶かてら之御沙汰被仰出候方ニも可有之哉との御事ニ粗相伺申候、右之段八左衛門へ被申聞、友四郎所江可然相答候様御取計可被下候、此段御答旁如此御座候、以上、

八月廿三日朝　　原　市之進（忠虎）

辰上刻

一大樹（徳川家茂）薨逝上下哀情之程も御察被遊候、暫兵事見合候様可致旨　御沙汰ニ候、就而ハ是迄長防ニおひて隣境侵掠之地早々引払、鎮定罷在様可被取計候事、

別紙之通申達、自然長防ニおひて背命候ハヽ、早々討入候様可被致事、

一大蔵大輔様尚於浪華御尽力、廿五六日御上京之賦候事、

一橋より

殿下江返翰廿四日相達候事、

但趣意不相分候へとも大事ニ関係いたし候付、上京之上委曲可申上と之事候由、

一廿五日、新納大夫（刑部）・吉井着京之事、（幸介）

一大蔵大輔様（松平慶永）御下坂之処原市（忠成）之進上京、行違ニ相成

大蔵大輔様橋拝謁御用ニ而御逢無之、八月廿五日御帰京、

一廿六日、原　殿下江被召候事、別段原ヲ以御召之一条御願相成候事、　殿下ハ弥御決シ内実ハ昨日御評議之筈候得共、　尹宮（朝彦親王）御不参故廿八日御評議之筈候事、

一廿八日、

朝議之趣

此程徳川中納言より言上之趣被　聞召候、就而ハ神速諸藩京師江呼集、一致之力を以早々鎮定、朝威凛然ト相立奉安叡慮候様可取計被　仰出候事、

別紙ニ

諸藩呼集之事遅延ニも可相成候間御直にも可被達哉、左候ハヽ誰々と申辺相調早々言上可致事、

一一致之力ヲ以早々鎮定、　朝威凛然ト相立右十七字無之方可然、

八月廿八日　晃（山階宮）

柳原殿

一被尋下候旨承候、別存無之候、併呼集人数中納言江被尋下義にハ候得共、公平至当之処ニ無之而は大ニ紛乱可生篤と御勘考云々、

公純（徳大寺）

柳原殿

一諸藩京師江被召集、以至誠至公之御趣意、御国是被相立候間、各一致之力ヲ尽し、皇威凛然神州安泰之様可取計被仰出候事、

右之通被
仰下相当と奉存候、且列藩ハ国主各可被召是至公之義
と存候、但御目的之方有之候ハ、其分可被召候得共、
国主一同之方公平ト存候、

実愛〔正親町三条〕

柳原殿

右之通ニ而廿八日御決議ニ不至、御再評之上相決候由、
一同晦日、大原卿（重徳）・中御門卿（経之）以下廿二人、国事言上之旨
ヲ以不時
御参相成候事、
一中御門卿二条家江御参殿、御趣意御演説御参御願相成
候由、
一国事掛御一同議伝（議奏伝奏）御参被為在、野々宮（野宮定功）は不参、
一御一同御参御詰所江大原卿御出、今日国事ニ付言上仕
度義有之同列申合列参仕候、御一同御揃之処ニ而言上
仕度、御直言上奉願候旨御演説之処、　殿下御承知ニ
而被遂言上候処、無程出御被為在、御一同御列席之処
ニ大原卿以下廿二人被為召、左之ヶ条大原卿より言上
之由、
一諸藩御召之儀片時も難差置急務ニ候処、先日も御評議
被為在なから、未今日迄も御達も無御座由、誠ニ以案
外之儀と奉存候、早々
御決定断然
御達相成度云々、
一当時多端之時節、人材御用ひ不相成候而ハ不被為済候
付、戌年（文久二年）以来幽閉被仰付候面々御赦免出仕被仰付候様、
別段人材と申丈之者も有御座間舗候得共、夫々御用相
立可申云々、
一長防解兵之事以
朝命断然
御沙汰相成候様、無左候而は人心不相定云々、
以上今日中御決議被為在、御首尾相伺退朝仕決心ニ御
座候、
一是迄
朝廷御失体不少より今日之次第ニ立至り候、適
議ヲ以御決定之事も、幕府より言上ヲ以御転移相成、

則長防之事ニおひても寛大之御趣意之処言上ニ付、云々ト

御沙汰ニ相成候様之義、大ニ人心疑惑仕候次第ニ而御座候、

倫(論)言不可返ものと克々御熟考、以来

朝廷之

朝廷たる御体裁被為立候様、屹度御変革被為在度、しかし此儀は急速ハ(ニ脱カ)出来申間舗候間、克御評議も有御座度云々、

右四ヶ条言上相成候処、

御上よりヶ条一々

御承知不被為遊候、勿論此位之義言上いたし候に、事々舗列参ニ不及事甚不敬之至と

御沙汰、暫時して亦此義左様言上いたし候ハヽ、昨年兵庫開港之節は実ニ神州之御一大事ニ付、其時社可申上事ト

御沙汰も被為在候由、一同御平伏ニ而候由、

殿下より御沙汰ニ申立之条々一々尤之至、畢竟今日之御失体ニいたり候義、其罪御自身ニ帰シ候段　御沙汰有之候処、大原卿より夫は決而左様ニ無御座云々被仰上候処、

賀陽宮(久邇宮)より畢竟御自身ニ罪ハ帰シ候段御沙汰有之候処決而其通ニ御座候、全体粟田宮(久邇宮)ニ而御法体被為在候ニ、何ノ為

御帰俗被為在候哉、然ニ今日人心一同不伏御失徳ヲ生候ニいたり、実ニ其罪御一人ニ帰シ候段御面折被成候、

一諸藩御召之儀尤之事ニ候、早々御召不相成候而不相済事候得共、中納言より言上之趣も有之、原市之進よりも其為上京言上之次第も有之、全御聞セ不相成候而は信義ヲ背キ候間、一応御申聞之上早々御発相成可然と之趣、殿下より御論ニ而其通相決候由、

但大原卿御説ニ、

朝廷断然御発相成候ニ付、中納言江ハ諸藩上京之上は共ニ尽力いたし候様、御沙汰相成候筋御決定ニ而候由、

一御上より幽閉之堂上御宥免之義御承知難相成、夫程議

論いたし候ハヽ、不日ニ大原江
御直ニ論被
聞召度候間、一人参
内相成候様
御沙汰ニ而、御一同退
朝之由、
一一同退出之上小御所江
殿下始御出席ニ而、尚幽閉堂上方
御宥免之義御願相成候得共、今晩ニ限り候義ニ無之と
御許容無之由、
一大原卿可被為
召候義気受ニも可相抱(拘)候間、早目之処　殿下より御願
相成二日ニ御決定之由、
一九月朔日、大原卿江野津(鎮雄)ヲ以云々書面ヲ以申上候事、
一二日、八時大原前左衛門(重徳)督様御参
内、無程
御前江被召先日言上之条々委曲
御尋問も被為在度候処、一同列座も有之候付
御憚被遊候ニ付、今日巨細申上候様
御沙汰ニ而、
御膝下ニ被召、無残所言上相成候由、
八月晦日列参之公卿方左之通、
中御門左大弁宰相経之卿
大原　前左衛門督重徳卿
北小路左京権大夫随光卿
高野三位保美卿
穂波三位経度卿
高倉三位永祐卿
櫛笥中将隆韶朝臣
愛宕中将通致朝臣
植松少将雅言朝臣
園池少将公静朝臣
高辻少納言修長朝臣
千種侍従有任朝臣

長谷美濃權介信成朝臣
岩倉侍従具綱朝臣
四条大夫隆平
西洞院大夫信愛
西四辻大夫公業
愛宕大夫通旭
澤主水正宣種
大原左馬頭重朝
岩倉大夫具定
高野少将雅言朝臣園池頭ニ入
以上廿二人、

当日参

内之御人数、

関白殿下
尹（朝彦親王）宮
常陸宮（山階宮）
内府（近衛忠房）公
九条大納言（道孝）
正親町三条大納言（実愛）
柳原大納言
飛鳥井中納言（雅典）
六條中納言（有容）
久世前宰相中将（通思）

尾張前大納言（徳川慶勝）
紀伊中納言（徳川茂承）
松平加賀守（前田慶寧・加賀藩主）

右自身上京候様、

松平閑叟（鍋島直正・佐賀藩主）
松平容堂（山内豊信・土佐藩主）
伊達伊与守（宗城・宇和島藩主）
島津大隅守（久光）

右銘々当主可被召之処御用筋御都合も有之ニ付
当主代りとして上京候様、

細川越中守（韶邦・熊本藩主）

右御用筋御都合も有之ニ付、

長岡良之介（護美）も

一同上京候様、

松平阿波守（蜂須賀斉裕・徳島藩主）
淡路守（茂韶）
松平美濃守（黒田長溥・福岡藩主）

（長知）
下野守
（浅野長訓・広島藩主）
松平安藝守
（長懋）
紀伊守
（高猷・津藩主）
藤堂和泉守
（高潔）
大学頭
（久松勝成・松山藩主）
松平隠岐守
（定昭）
式部大輔

右父子之内上京候様、

（伊達慶邦・仙台藩主）
松平陸奥守
（池田慶徳・鳥取藩主）
松平因幡守
（慶倫・津山藩主）
松平三河守
（定安・松江藩主）
松平出羽守
（慶頼・久留米藩主）
有馬中務大輔
（池田茂政）
松平備前守
（鍋寛・柳川藩主）
立花飛騨守

右面々上京候様自然病気等候ハ、御用筋請答出来候重臣之内差出候様、

右之外上京之分

（慶永）
松平大蔵大輔
（容保）
松平肥後守
（定敬・桑名藩主）
松平越中守
（斉憲・米沢藩主）
上杉式部大輔

已上

右原市之進（忠成）より差上候由、九月四日夜藤井方（良蔵）より、

一今日尹宮国事御扶助も御断のよし、

一徳氏九月五日上京之事、

但御遣（将軍家茂）骸二日晩方御発船之由、

一一昨五日方内府（慶喜）公ニも二条家江御参候得共、御逢不被為在候由、

九月七日

島津大隅（久光）守

徳川中納言言上之趣も有之、諸藩衆議可被聞食候間、速ニ上京致、決議之趣は中納言を以可有奏聞旨被

仰出候事、

九月

追而修理太夫(茂久)可被　召之処、御用筋御都合も有之ニ付上京可有之候、

此度関白殿下・賀陽宮(朝彦親王)御辞職被仰立候よし、当今内外紛乱之御時勢、枢要之御職務万一御動揺ニ相成候様ニ而は、天下之動静ニ相抱(抱)り、国家之御為以之外なる御儀と深ク痛心仕候、殊ニ此程言上之通諸藩参集利害論定可仕折柄、総而変遷之儀御座候而は不都合之儀ト奉存候、まして万機之任ヲ補翼(輔)之御辞職被仰立候段、朝廷如何様之御混雑有之儀と諸藩之疑惑を開キ、此上意外之事変相生候様罷成候而は、折角言上之素意も不相貫、且おい〳〵の御勲労も有之格別御信任も被為在候事故、此場ニ於テ彼是之御次第も可有之筈も無御座候、旁早々被召留候儀勿論之御事ト奉存候へ共、実ニ国家之御一大事ニ可相抱(抱)過慮仕候付、何卒速ニ右之御沙汰被成下、上下安堵仕候様御取計之程奉願候、何分切迫之御時勢此段難黙止言上仕候事、

九月六日松平越中守を以飛鳥井中納言江差出ス、

加茂
谷森大和介(善臣)
木屋町二条上ル辺
野口隆正

九月十一日晩裏辻中将(実公愛)殿御宅江投書写、

草莽之小臣等謹而裏辻中将殿閣下ニ白ス、閣下御事元来

朝廷良位之御方故、天下之為御尽力被為在候事と、憂国之士民挙而渇望罷在候処、近来如何被為迷候ヤ、

朝廷之御恢復ハ毫も御懸念無之、却而賊徒一・會・桑等之逆意を御助被遊、甚舗に至而は尹宮と御同謀之上深　宮へ御取入、官女を以密々

天皇を奉欺、逆臣徳川をして永ク天下之大政を執しめんとの奸謀何事そや、恐多も

後白川天皇以来武臣之為に

朝廷之御衰弱ニ相成候段、有人心者誰か涕泣悲歎せらんや、徳川ニ至り逆意日ニ増長し、終ニ今日ニ至り候段実ニ千載迄之遺憾ニ御座候、依之英明之公卿方御憤

発被遊、御大政之御基本条理相立候様との御赤心より、去月晦日御列参御建白被為在候処、閣下ニおゐて佞奸百出、是を拒剰奸曲之賊等へ諂諛隠謀を以御妨被成候件々、天下之有志挙而所知ニ御座候、実ニ天地不可容之大罪也、　雲上之御身ニ無之候得ハ天誅不可免候得共、飽迄被蒙
朝恩候御方ニ御座候へハ、此節迄は指扣罷在義ニ御座候、今日旁屹度御悔悟御改心　尹宮幕府之念を絶チ、雲上方を邪道ニ引入候奸謀ハ勿論、御所労と称し参
朝を被為止候様仕度奉存候、既ニ勇壮之者共憤懣堪兼甚敷議論も有之候付而は、奉穢御衣裳にも至り可申は必然之義故、我々共暫取鎮メ置奉諫言候、若又御改心不被為在候得は、天下之御為不得止我々共右壮士等同様、白刃ヲ以奉拝謁候外無御座候、何分にも此段御賢慮を以御改心被為在候様仕度奉言上候、頓首謹言、

慶応二年丙寅九月憂国之士等

一九月十日后徳川中納言除服出仕之義、　殿下より御封中ヲ以　内府公　山階宮江被仰進候、（晃親王）

但将軍同様御会釈之義頻原市周（市之進）旋いたし候事、

一九日、山階宮殿下江
御出御辞職御留之事被仰入云々之事、

一同十日、従内府公藤井ヲ以御相談被為在、云々御返詞申上候事、

一同十四日、徳大寺殿　陽明家（近衛）江御出被為召罷出云々之事、

一十六日（安房守）、勝房州帰京、書面青山小三郎より十六日持参、中国筋都合も宜舗引取之由、藝州寄手も追々引取之模様、長兵も境内江引取候由、

但休戦之義等最初之訳とハ相違、房州も不平之由、

人物之由、

廣澤兵助（寅臣）
太田市之進（※）
春木強四郎

(井上馨)
高田春太郎
長松文輔(幹)

右談判之人数本藩用人辺之由、

一方今不容易世態ニ付不顧恐言上候、関白ニモ辞職出仕モ無之、且諸藩ニも被　召寄候

御沙汰も有之、旁関白出仕、且諸藩上京迄之処大小共国事関係之儀ハ暫被差置、尚諸藩上京之上厚被尽衆議、天下之公論ヲ以被

聞食度奉願候事、

九月十六日

(九条)道孝
(一条)實良
(近衛)忠房
(山階宮)晃
(徳大寺)公純

議衆中

右十六日朝被差出、同日内府公・山階宮其外御参、御直奏被為在候処、別而克御都合ニ而言上之通被為

聞食候由、

尤　除服出仕之事も不免之筋御吟味之事、

一同十七日、

(晃親王)山階宮江

(仁和寺宮)仁門公被為入、御召ニ而参殿、段々国事之御議論被為在候事、

(徳大寺公純)右府已下言上之趣一昨日被

聞食候、其後　御熟考被為在候処、雖関白不参於里亭内覧執政先蹤候、旁於国事被差置候得は国政暫被廃候様相聞抱(拘)

朝憲候間、矢張小事は依緩急可処置、尚重事は諸藩上京之上衆議被

聞食度、更

御沙汰候事、

一昨日御連名ニ而御建白之末、(晃親王)常陸宮以下被及言上被

聞食候処、尚又

御熟考別紙之趣被仰出候、尤御書取ニ而被仰出と申訳ニは無之候得共、為不間違御趣意柄御回達可被成下候、此段宜預洩達者也、

九月十八日　　両役

右大臣殿
諸太夫中

一九月廿三日海江田(信義)出立ニ付御国元江問合差出、尚左手扣書相渡、

一九月十日前后除服出仕前将軍同様之御会釈向之義、原市等内々周旋いたし候事、

一尾・紀・芸・因・備・阿・肥後・肥前・上杉・川越右外十藩余及会議、川越藩久松某諸藩　御召ヲ止、将軍推任を図らんと議し、因藩某大ニ論破シ其説瓦解ニ而退散之事、

但諸藩をして推任ヲ尽力せしめ候義、其根拠畢竟原等より起り候事と被察候、

一本一橋御附穂積良之介当分旗下ニ被召出、前条推任一条等諸藩ニ説客いたし、宇都宮藩某江正三卿幕府之事御引受尽力被下候様周旋ヲ頼候事、

一去ル十六日別紙之通内府公　山階宮御談合ニ而、諸藩来会迄国事無大小不被議筋　御連署ヲ以御建白、尚即日

御参之上被及
奏聞候処、言上之通被為　聞食候事、

一同十八日、

御別紙之通小事ハ被　聞候筋、両役より回達相成候事、

大山彌(厳)介廿三日出立、右趣之書面長江(長州)持参之事、

一西郷信吾(従道)・石川誠(中岡慎太郎変名)之助(義邦)同道也、廿四日上京、廿五日入来、事情承ル、勝房州談判之趣ニ而ハ、是迄段々相違いたし候義有之、解兵之義御請難仕段返答之趣ニ候事、

波多野金吾変名(貫臣)
廣澤兵助
太田市之進か
春木強四郎
井上文太(聞多カ)
髙田春太郎
川瀬弥七郎か
長松文輔(幹)

一近々筑前より出京之由、

家老一人　川村五太夫
用人

柳藩　十時無事老
小松　一松
岡　啓三郎
武島鎌三郎
梶山安三郎

右大坂より蒸艦便舟願

一小倉落渋谷舎人妻、

右小倉落城之折一人戦死、

會津　木村銀右衛門
藝藩　船越洋之介（衛）
立野一郎
小林柔吉

一越老公建白之由、

此度御再討被仰出候砌如何之御次第ニ候ヤ、恐歎之余り不取敢奉伺候処、再発之趣有之遂ニ天下之大兵ヲ被動御糺問之処、其実なく随而
御所より被仰渡候得共、大兵境ニ臨ミ御武威ヲ以令承服候様之御仕向ニ而紛議相起り、諸侯も名分正否彼是疑惑ヲ抱候様ニ相成、遂ニ今日ニ立至り候儀ト奉恐入候、傍熟慮仕候ニ外夷ノ事起より以来、乍恐公辺ニ而も御失体之義も被為在、人心不平之情遂ニ長防征伐之可否と相成来ル事候得共、広ク天下之侯伯ニ相議シ、私政ヲ去リ公平ニ御従ひ被成候義大御急務と奉存候、就中異（議）儀ある諸侯ニハ早々御推問有之、御平心を以御聴納御反正ニ相成候様願度、左候得は自然公平之理明寛猛至当之御所置相定り、御国是爰ニ立可申と奉存候、近来英・仏二国各其好ニスル処ヲ益親睦を結ひ、我国をして分崩離折せしめんとする勢も有之、鷸蚌之利ヲ納ノ術ニ陥候も難被計哉ニ被存尤可恐之至ニ候、是等ヲ以テ考候得は、外国之侮ヲ禦候ニハ、
皇国を一致ニ被成候儀御根本ニ有之、長防之事件ハ諸

藩之実議御推問御講究被為在、心志ヲ御合セ被成候義御先務ト奉存候、本末先後之分瞭然と御弁別被為在候ハヽ、仮令御征伐中と雖、順序を追而之御処置は如何程も可有之儀ト奉存候、只今之姿ニ而は奉勅とハ乍申、何処迄も尽力ヲ以屈服仕候様被成候儀ニ而、正大之理ニ非れは諸侯も各隠然と一趣向を立候様ニ相成、仮令一長は亡候共又一長を生シ可申、且士民困究より禍蕭牆之内ニ起候儀等ハ篤と先日申上候通り之儀ニ御座候付、何分正大ニ御襟懐を被為開御政令御一新上奉安

宸襟、下蒼生之若を被為救候儀必至奉仰願候、非才浅見之私殊ニ隠居之身として、毎々御大政ヲ議し候儀毎々奉恐入候得共、国家之危急ニ迫候儀奉対　祖宗之神霊候而不忍沈黙冒万死及建言候、幾重ニも御採用被成下候様伏而奉冀候、誠恐誠惶謹言、

八月　　松平大蔵大輔（慶永）

一九月廿七日、土藩武市八十衛・酒井藤蔵、越藩伊東友四郎取会之事、

一九月廿九日、内膳殿（町田）より御口上ヲ以御内達左之通、

内府公（近衛）御使者として藤井（良節）宮内より当時段々不容易時体ニ相成、追々諸藩上京等有之候得ハ、御多端之御事ニ而別而御配慮被遊候付、去ル戌年（文久二年）以来帯刀殿（小松）両人は、御馴親も被為在候得は、邸内之事も繁用可有之候得共、時々参　殿いたし御次江も御案内なしニ罷通呉、何篇無御遠慮申上諸事御相談も可被遊と之御趣意ニ而内膳殿被致承知、就右表通被　仰付儀は、御国元江伺之上ならてハ難相成候得共、御由緒も有之

御家之事候得は、内々ニ而御受申上御用透ヲ以相勤候様可致と之趣承知候事、

一　　御勘定奉行　　小栗上野介（忠順）

右幕役ニ而当分手延候由此内上京、

一九月廿九日吉井幸輔（友実）京着、

一同日

陽明家江参　殿、御用人取次ヲ以御礼申上御近習江罷

通拝　謁被仰付、以来家中同様存シ無伏臓万事申上呉候様、是迄志之次第

御感被遊候趣云々

御沙汰ニ而、難有御礼申上置候事、

一十月二日新納(刑部)家着京、

一十月朔日、越藩青山小三郎(貞)入来、今朝

大蔵太輔(松平慶永)様御出立、就而御引合いたし置候様、

御沙汰之趣ハ無御拠御訳柄ニ付一応御帰国相成候次第ハ、伊東より巨細御承知通之事ニ而候、尤

大隅守(久光)様江御直書ヲ以被仰進候趣も有之、其外宇和島(宗城)等江も御同様之事候得は、只今御帰国之事甚御不本意之次第故、則御書ニ而も被進筈候得共、早々之御立ニ而其御都合不被為出来候間、其辺宜舗申上越呉候様、

且亦　大隅守様御上京之御模様相分候次第ニハ、御道中江振向申上越賦候間為知呉候様、

一宇和島侯御上京之事、

山階宮(晃親王)江云々御書も参候付、是非御上京不相成候而は相済兼候ニ付、御国よりも御直書且御使ニ而も被差向御周旋被下候様云々、

右之趣小子迄引合置候様御沙汰之由、

一八月廿五日　御花畠二条殿高塀等張紙写、

尹宮・関白・野宮・広橋四奸之儀、従来橋・會両賊ニ相結ヒ、正義忠直之徒ヲ陥れ、邪諂奸曲之輩ヲ用ヒ、廟堂之大事ヲ誤候条、其罪不遑枚挙候得共、差当此度一橋(慶喜)中納言前悪ヲ悔悟致シ、罪ヲ朝廷ニ謝シ征夷之職ヲ奉辞、天下列侯ヲ　闕下ニ被召寄正評勅裁被為在、防長之御処置御定ニ相成候様申立も有之候所、右四人之意列侯ヲ　闕下ニ集候者可然とハ、一人も申者有之間敷、既ニ先日薩・肥・藝・備・越・阿等より建言も有之、必定寛大之御処置ニ可相成候間、皆利害禍福ヲ考へ己ニ不便成ヲ憂ヒ、強而幕府へ御倚頼被遊、列侯大坂城迄召寄候議論可否曖昧糊塗可致様取計、専ラ私権ヲ振ハシ

王家之衰弊ヲ利ト致候、既ニ奸迹顕然ニ而此上ハ橋(一橋)納

慶喜）言之例ニ倣ヒ、悔悟謝罪其職ヲ奉辞退テ、天下之公論ヲ待可申候、若其儀無之候は天地神人不容罪、如何様之戮刑ヲ蒙り候共不可計、幸ニ可被熟察候者也、

一列参大意書之写、

八月晦日大原卿始二十弐人堂上方御参

内、即刻中御門二条殿下江御出御拝謁之上中卿曰、今日は宮中ニ於テ建言仕次第有之、三番所（内外御近衆外様衆）之同列参

朝罷在候ニ付、早々御参被成候様被仰上候処、殿下曰、朝廷ニテ建言之次第は定而、尹宮（朝彦親王）且我身ニ相係り候儀ニ可有之、弥我身上ニも関係致候儀ニ候ハヽ、無遠慮申聞られ候様御尋之処、中卿曰、尤仰之通ニ御座候、尤御前之上ニハ決而相係り候様之儀ハ無御座候得共、尹宮にハ定テ御参も相成可申候ニ付、御廊下ニおひて御関留メ申上候手筈ニ決議ニ相成居候と被仰上候処、殿下曰、建言之次第ハ如何之事柄ニヤト御尋之処、中卿曰、　朝廷御失体之儀ニ付尹宮・野宮之両奸ヲ退職被命候様仕度、次ニ幽閉之堂上方被免方等之儀言上可仕様と被申上候処、殿下曰、其儀ニ候ハヽ尹宮に不限我迚も同罪、今更歎息之至是迄着眼一々相違、失策ニ出テ

朝廷御失体ト相成候義、実ニ我罪也ト、只管御悔悟之体ニ而被仰出候ハヽ、尹宮迚も天下之混乱　朝廷之御失体を被為好候訳ニハ決而無之、唯上下安堵之道ヲ被尽候事一々失策ニ相成候事ニ候得ハ、格別其志ハ可悪訳ニハ無之、何分当今之形勢ト相成致方も無之、建言上之次第ハ尤至極之事也、我迚も辞職より外無之儀ニ候得は誠幸之事、今日申立之儀ハ何分尽力いたし、幽閉之堂上丈ハ今日中被免候様取計可申候付、尹宮之儀は御廊下ニ差留候儀ハ、不容易都合ニも可至ヤト甚心配いたし候付其儀ハ相見合、何れも列席之上主上御前ニおひて

朝廷之御失体ヲ言上之時ハ、其罪之帰スル処尹宮・我両人ニ有之事故、御前ニおひて伏罪自分辞職不被致時は、我明日を限り退職可致候付、尹宮とても一職は難相成、若其儀も齟齬いたし候時ハ幽閉堂上をハ被免候

得ハ、其内ニハ秀才の仁も有御事故、何分何分相退候様にハ如何様とも相成可申、何分其都合に相心得呉候様被仰含付、中卿御帰宮御列参之方々御一同御請ニ相成候、夫より殿下御参

内之上、右三番所より国事掛建白之趣ニ而、御参り有之候様尹宮初御已下江被相達、午剋より申下刻迄摂家宮方以下御参　内也、

御不参之御方鷹司(輔熙)殿・徳大寺殿之外、国事ニ掛関係之御方不残御参之由也、

一宮方三卿以下御列参之上中卿・大原卿より殿下江言上ニは、今日は国事之儀ニ付言上仕度次第有之、三番所之内同列中参　朝罷出候、尤

主上御前ニおひて言上仕度候付、御列席被成下候様被仰上候処、殿下より直ニ奏聞、夫より

主上御前江被為召、何れも列席之上大原卿より言上有之候ハ、列藩被召方之義ハ追々　朝議も有之候様承り居候処、今日迄も御因循被為在、天下之形勢実以切迫之頂上、此上御因循被為在候而は不容易御国難も可相生、何分今日中御決議右

勅命御下シニ相成度段被仰立候、

一甲子以来幽閉之堂上早々被免度、今日之儘ニ被召置候而は不宜候段、

一征長之儀早々解兵被　命度段、

一朝廷御失体論云々不論定、朝ニ令シ夕ニ変スル等之事件一々被仰立候由、右言上之処

主上殊之外　御逆鱗被為遊、四ヶ条件々何れも

御不承知之由被

仰出処、殿下云、大原左衛門督(重徳)より言上之件々何れも尤至極之次第ニ御座候、

朝廷御失体之儀ハ実ニ我罪也ト被仰候処、大原曰、夫ハ決而御前之御罪ニハ無御座候、御前之御職掌ハ天下万機之為御長御職任ニ御座候得ハ、強而国事而已ニ御関係被遊儀は無御座、是ハ国事而已ニ御係り被成候御方之罪ニ候旨、得ト被仰上候処、尹宮(朝彦親王)曰、調度其通是ハ我罪也ト被仰候処、大原曰、尤仰之通り斯ク　朝廷御失体被為至候義ハ皆御前之罪なり、如何トならハ

主上ニ而凡而御寛大之
叡慮ニ被為在候処、幕府一橋以下之　朝議ト相成、御
失体相成候事ニ候、是ハ何分早々御改政不被為遊候而
は一日も難相済、此上
主上之御失徳ヲ天下ニ顕シ候而已ニ而、実以痛心仕候
次第ト被仰上候所、尹宮曰、如何にも我罪也、今更先
非ヲ悔ミ候外無之、実以恐入候と被仰、伏罪被為在候
由也、
一主上宣ク　朕ニおひて一々不承知、夫程国事懸念之儀
心屈(本ノママ)も有之候而は、昨年摂海江異船来候時こそ何ヲ欤
申出さる、其節は何事も不申して、今日ニ至り横行ニ
企申立之儀何共難解、依而明後日大原一人可罷出、一
々　朕ト議論可相試(ママ)トとの段被
仰出候也、然る所(処)殿下より諸侯被召方之儀は、何分不
被命候而は難相協段　奏聞之処、　御聞済ニ相成同夜
御決議ニ相成候由也、尤元来一橋より依　奏聞　朝議
ニも追々相成居候事、且同日朝　市之進(原)を以殿下江右諸
侯召之
勅命若シ下り候様相成候ハ、、其以前ニ御通達被成下
候様願出居候付、旁以一橋江御通達之上、右
勅命ハ下り候様御評決ニ相成候由也、
主上御逆鱗之儀ハ御深意可被為在候事ト被考候、其証
ハ二日大原卿御一人被為召候訳ニ而考へし、
一九月廿三日御封書之写、
上包　　内密
此書取決而此通りニ願度と申次第ニ而は更ニ無之候、
勿論下官限りニ先々ケ様之振ニ被
仰出候ハ、、可然ヤニ申居候間、同日此儘打明申入候、
一防長鎮定候模様無之内、国是等之
御沙汰差支候事、
一諸藩江　御沙汰之趣ヲ以御取調奉願候事、
徳川中納言(慶喜)言上之趣も有之、諸藩衆議可被　聞召候間、
速ニ致上京決議之趣ハ中納言ヲ以可有言上旨被仰出候
事、
過日徳川中納言へ及内話候返答　市之進(原)演舌ニ而申出候
右手扣其儘内々御伝達申入候事、

上包　　手扣

防長之儀追討被　仰出、既ニ賜御暇候上は彼是と言上可仕筋無御座候得共、何分諸藩之形勢一様ならす、従而種々之風説も相聞甚以痛心之次第、右ニ付再三勘弁仕候処、所詮一致之力ニ無之而は、国家之大事此上成し遂ケ候見据も無之瓦解ニ及ヒ、挽回難計事ニ落入候ハ、不容易儀ニ奉存候ニ付、急速諸藩呼集利害得失論定之上、尚伺、

叡慮万事所(処)置可仕決心ニ而、其儘過日言上仕委細被聞召候儀ニ御座候得共、追々人心疑惑之折柄別段朝命無之而は、急速参集如何ト懸念之向も有之、即今之事勢遅緩ニ及候は不可然相考候付、何卒前顕速ニ取計候様、訳而　御沙汰被成下度旨尚亦奉願候儀ニ御座候、然ル処此度　朝議之上是非朝命ヲ以御直ニ可被為召哉之趣　御内意被　仰聞候、夫は過日言上仕候素意ニハ無之候得共、従　朝廷被為召敢而差支之筋ハ無御座候、只今前文言上仕候儀ト、自然御異同之御趣意之趣、諸藩伺取候て人心却而疑惑を開キ候程無覚束過慮仕候付、右申上候迄は無御座候得共、是等之事情篤ト御斟酌之上、宜舗御取計被為在候様仕度奉存候事、

一拾万石以上之諸藩遍被為　召候は公平之筋ニ御座候得共、諸藩疲弊之折柄中ニハ幼若之者も御座候間、国持并防長関係御座候有名之者共呼集候積ニ御座候、右姓名別紙ヲ以申上候、

別紙名前書頭江留有之候、

議奏衆より一条殿江封書之写、

諸藩食之儀別紙之通被　仰出候、即写差上申候、於此度ハ殿下御不参御衆説紛々ニ付、全以叡断御治定ニ相成候此旨申上候也、

九月八日

徳川中納言言上之趣有之云々前ニ留有之、

一中納言過日言上之趣被　聞召、別紙諸藩江御沙汰相成候ニ付而は、上京候ハ、早々決議可有言上旨　御沙汰候事、

一十月五日、伊王野・宮原大輔入来説、
原市之進殿下御出職無之候而、中納言参内有之候而も無益ニ付、近々周旋ニ取掛候と之趣、
一土藩武市八十衛入来、
一今朝中御門卿より御直書被下候、尤御相談被為在候事件御到来ニ付参　殿候様と之趣ニ而、今晩参殿仕候処段々御噺有之、一向御国江御依頼被遊以来万事無御伏臓申上、御忠魂貫徹候様助補可仕候間、段々御懇命承知、以来御書通申上候節ハ左之名前之者ニ宛差上候様、

城　連

奥沢要人

一今夜伊藤友四郎より勝房州書翰相達ス、昨四日朝出立之由也、
一同日伊十院（直右衛門・兼寛）・中村帰京、品川外（弥二郎）ニ伊原小七郎（井原師敬）・清水二三郎（平次郎・桐野晋作）両人同行、
一九月五日於れうぜん越藩・土藩ニ会ス、
一同六日
内府公江当職御出仕御尽力被為在候様、　真翰ヲ以被仰下候一条ニ付参
殿、愚存云々言上いたし候事、
一同七日尚一封ヲ以内府公江建言いたし置候、
一中御門卿
陽明家（近衛）江参　殿、藤井（良蔭）江一封御渡、小子江御逢之賦之処外出之由故御伝言有之、
一八日、柳藩十時（摂津）等宇治同行、
一九日、訪土藩竹市氏、
一山階宮二条家江参殿被為在候由、
一十日、高崎子同道謁　内府公、　徳中（徳川慶喜）参
内一条、且今日二条家御参殿一条云々言上、克御受合ニ而候、

一条公江御参殿、公ヲ以　御出仕御進メ、私ヲ以不可然利害御存寄被仰上候処、条公御得心之由、

一今晩飛鳥井・柳原　御殿江被召　山階公（晃親王）　御列席、

徳中御礼参　内、不可然旨御説得被為在克御都合之由、

一今日暮中御門卿江参殿、

一十一日、伊王野入来、

一烏丸卿偏執謾心、

一中山卿（忠能）平々雖然人望有之、

一滋野井卿（実在）　平々之由

一萬里小路卿

一備前藩　家老

随分正議　壹岐長門（伊木忠澄）

比丘

一宇和島　留主居

水野八左衛門

一十一日、階宮江原市（原市之進）被為召云々御喩解之処、中納言江申聞、両日中何分御返事可申上段申上候由、

一十二日、原市

宮江参　殿、云々申上候由、

一十三日、江戸より之飛脚今日被差立問合差出、

一越前松平寛之介入来、紀藩□（三浦休太郎）休次郎と申仁越藩江相見得、橋公参　内、当職出仕之事御国・因・備・肥後・藝藩・土藩等申談、尽力有之由ヲ以頻ニ激論いたし候由、

一十四日、

陽明家出殿、

柳原卿参　殿ニ而被召候、罷出候処、

原市（忠成）之進今朝

柳原卿江参　殿言上之次第、

一徳川中納言参

内之義於

朝廷異議不被為在、尤於宮御〔加陽〕異存不被為在候得共、迫ル藩有之と之趣

御沙汰ニ而、尚中納言承知之上右迫ル藩有之候ハ、、直ニ説得可致候間為御知被下候処大ニ御当惑被遊、決而中納言参

内之儀御異存不被為在段御沙汰承知仕、直様二条家江参　内之処、

御対面無之諸大夫取次ニ而右形行申上候処、御異存無之と之御事候間、左様ならハ早速御両役江言上可仕段、夫ニハ不及此方江両日中ニハ相見得候間、其節沙汰ニ可及旨御沙汰ニ候得共、今朝飛鳥井家江も参殿も仕候旨云々、

右通之形行ニ而

内府公も別而御当惑ニ而、如何いたし可然哉之旨

御沙汰ニ而、何分明朝迄御待被下候様申上置候、

一高崎左京〔正風〕江形行申入、　宮江形行相伺候様引合候、今晩高崎・井上・國分三人ニ而形行奉伺候処、全右之趣御沙汰相成候義ニハ無之、先日井上江御噺被為在候通之御事ニ候付、則四人同道柳原江参殿、尚形行原口上之趣奉伺候処、今日拙者承知之通相違無之候付、大略之御ヶ条書頂戴退出、

一飛鳥井家江井上参殿、

一國分上総原江御遣ニ治定之事、

一　松平出羽守〔定安〕様

右去ル五日御国元御発駕十六日御着坂、

阿波守様〔蜂須賀斉裕〕御嫡子

松平淡路守〔茂昭〕様

右昨十三日御国元御乗船今日御着、

安藝守様〔浅野長訓〕御嫡子

松平紀伊守〔長勲〕様

右去ル十一日御国元御乗船、不日御着之由、

但御引返之説有之候、

右之通云々、

十月十四日　木場傳内〔清生〕

一十六日、徳〔慶喜〕中参

内、
於御門外下輿、
車寄より昇降、
麝香門参入、
殿上人倍膳(陪)惣而如大樹、
於小御所
御対面賜
天盃、并於
御前前物賜之、
殿上人倍膳(陪)
臨時廣橋(嵐保)より被示、昵近之人々五六輩車寄迄出迎、
已下惣如大樹、
右之通ニ而何も
御沙汰等も無之速ニ退出之由、
参
内之儀ハ何方より何様申立候而も御採用不被為在、断
然以
叡慮被
命候段、十五日両役被為召
御沙汰相成候由、
一十六日備前花房(義質)入来、同日藝船越(衛)入来、

一廿日、越藩下村尚入来、
一同日尾藩八木銀次郎(髮)入来、

土州

中山左衛士
佐々木三四郎(高行)
毛利恭助(吉慶)
島村祐四郎(洲平)
佐井寅二郎
藤本惇七

上京

右容堂(山内)公より御内命ヲ奉し九州江為探索被差出、
大ニ論ヲ変シ上京等ニ相成候由、大山格之助(綱良)より
申来、

一八月廿一日、原

宮江参殿云々之事、

一葉室右衛門督（長順）様十月廿一日議　奏被　仰出候事、

一十月廿六日、帯刀殿（小松）・西郷（吉之助）等京着、

一同廿七日、

中将（久光）公御所労ニ而御上京御断、

朝幕江被差出候事、

一同廿七日より二条公御参被為在候事、

一同夜、

常陸宮（晃親王）

此度国事掛依所労理乍申上他出、剰止宿、且従来不行跡旁以蟄居被

仰出候事、

国事掛被止候事、

左大弁宰相（中御門経之）

大原前――

兼而門流ヨリ相達候儀も有之候処、去八月三十日其身為官柄、若輩を誘引結党及建言候段、不憚朝憲不敬之至依之閉門被

仰付候、

中卿
岩倉下御邸

藤木右京

正親丁三條―

勤役中兼而左大弁宰相以下徒党建言之次第、乍令承知不加制止却而同意不心得之至、遠慮閉門被　仰出候事、

北小路左京（随光）

――

――

兼而門流より相達候儀も有之候処、去八月晦日徒党及建言候段、不憚　朝憲不敬之至差扣被　仰出候事、

一正親丁三條様・大原様守衛別手組被申付、中御門様・岩倉入道（具視）殿別手組、北小路殿・高野殿・穂波殿・高倉殿・櫛笥殿・愛宕殿見廻り組、植松殿・園池殿・高辻殿・千種殿・岩倉殿・加藤能登守殿・四條殿・西洞院

殿・西四辻殿・小笠原左衛門佐殿右守衛人数被差出候事、

来廿一日大原野祭上卿柳原様、

来十五日吉田某　御同人、

右御参向之事、

紀伊中納言（徳川茂承）

十津川郷中浪士体之者立入候欲之風聞専有之候付、近領之事故事実篤と取調鎮撫之儀尽力可有之被　仰出候事、

右紀州殿江被達候事、

本多能登守様（忠紀・泉藩主）御出府今日御出立、

摂政殿（二条斉敬）より議伝江勤仕心得被仰出候廉書写、

近来国家多事何となく人心不穏候ニ付

先朝（孝明天皇）毎々御配慮被為遊候半、不存寄　登霞恐入候事ニ候、付而は

新帝（明治天皇）御幼君ニ被為渡候得は、上下一和一同専ら補弼（輔）之力を可竭之秋ニ候、愈公義を存し私情を去り、厳然たる大典を守り綱紀を張て国家を維持し、万民昇平之徳沢ニ浴し候様厚申談可勤仕候事、

一国事御用掛り一同無隔意申談精勤可有之事、

但国事御用猥りニ不可口外事、

一官家之向建言之義ハ総而両役之中へ可差出候事、

但何ニ不寄建言候ハヽ、参考之為ニ候条、厚心を用、至当明亮之理を専要ニ可申上、我意主張之所置（処）有之間鋪事、

一武家建白之義ハ惣而経其筋武伝へ可申出候事、

一武伝より兼而達し置候通、親族ハ格別、其他之諸藩士ニ猥ニ面会不可有之候事、

一御為筋申立確証有之情実弁明之義ハ格別、其余姓名不慥或藩と唱へ、浮説造言狐疑ニ類し候義は不可採用候、兼而被　仰出候通名前屹度可被正候事、

一正議御決定之後異論申立間鋪事、

一外夷之儀ハ兼而被　仰出も有之候得共、　御国威屹度相立候様との　思召、右辺心得違不可有之事、

一為国家厚く心を用、十分ニ議論を可加事、

卯正月

五藩　御名前

細川

肥前

久留米

筑前

兼而御預被差置候三条實美始、此度願之趣も有之候ニ付御引取可相成候間、得其意右之趣其方共より相達候様可被致候、尤途中警衛人数差添穏便ニ相送候様可被致候、

但

附属之者共は、大坂着之節、同所御目付へ相届、可得差図旨附属之者共へ可被相達候、

九条圓心（尚忠）

一

是迄不束之次第ニ付、重慎被　仰付有之候処、追々老年及古稀候間、以格別之御憐愍、今度重慎入洛被免候旨、摂政殿被令候事、

但

参　内并外出他人面会等洛外之事、月ニ一度計帰宅不苦、一度之外不相成候事、

中務卿宮（熾仁親王）

正親丁大納言（実德）

石山少将（基文）

平松甲斐権介（時厚）

五条少納言（為栄）

五辻太夫（安仲）

右是迄思食有之被止参

朝他人面会置、屹度可被及　御沙汰之処、此度　御凶事以格別之御憐愍出仕被　仰下候、後后堅固改心可有之、摂政殿被命候事、

廣幡権大納言（忠礼）

德大寺中納言（実則）

長谷三位（信篤）

是迄思食有之、自分遠慮被止他人面会置候、屹度可被及　御沙汰之処、就此度御凶事以格別之　御憐愍出仕被　仰下候、後后堅固改心可有之旨摂政殿被命候事、

東園中将（基敬）
万里小路弁（博房）

是迄――――被免差扣――――

石山右兵衛佐（基正）

是迄思食有之被止参　朝他人面会置、屹度可為
御沙汰之処、就此度御凶事以格別之御憐愍出仕被仰下
候、後后堅固改心可有之候、自今本番所参勤可申　摂
政殿被命候事、

正月十五日

有栖川帥宮様（熾仁親王）
中山前大納言様（忠能）

右是迄　思召有之被止参　朝他人面会置、屹度可被及
御沙汰之処、就此度御凶事以格別之　御憐愍出仕被
仰下候、后後堅固改心可有之候、

橋本中納言様（実麗）
勧修寺前弁様（経理）

右是迄――――改心可有之候、自今本番所参勤
之事、

豊岡大蔵卿様（随資）
正親丁少将様（公薫）
烏丸侍従様（光徳）

右是迄　思召有之差扣被仰付置、屹度――――
被免差扣后後前文同、

滋野井中納様（実在）

右是迄　思召有之差扣被仰付置、屹度――――
被免差扣后後堅固改心可有之候、
右摂政殿被命候事、

正月廿五日

一昨丑十月中条約施勅許之節、兵庫は被止候旨
御沙汰之趣早速外国人江可申渡之処、左候而は忽瓦解
ニ及ひ折角平穏之御趣意も水泡ト可相帰、且一旦取結
候条約相変候ハヽ、只々外国江信を失候而已ニ而、所
詮可被行儀ニ無之、其段深心配仕候得とも、一時切迫
之情態御詳察之上条約
勅許被為在候儀、尚又彼是申上候も斟酌可仕筋付、先

其儘御請申上置、篤ト熟考可仕奉存候折柄、長防之事件差起引続故大樹之大故ニ及、遂ニ開港期限差迫り、各国より毎々申立候条約も有之、就右猶又再応熟慮勘弁相尽候処、条約変更之儀強而施行仕候は、必定義理曲直之論ニ及大ニ不都合相生、百万生霊徒ニ塗炭ニ苦しミ、

（徳川家茂）

皇国之御浮沈ニも相抱候様可成行は目前ニ有之、右様之形勢ニ至候上無拠条約履行候而は、実ニ御国体御威信共総而不相立、於職掌最不相済次第、殊ニ堅艦利器彼所長ヲ取

（抱）

皇国富強ヲ謀るは今日之急務候間、何れニも開港可仕は至当之義ニ有之候、然ニ今更彼是申行候は、是迄富強之術も一時尽果可申、且条約之儀は各国交際之基本ニ而、永久不易之規則無之候得は、遂ニ強は弱を凌、弱は強ニ被制候様可相成、西洋諸国大小強弱は御座候得共、全ク信義を重し条約致遵守候付、凌奪併呑之患も無之夫々立国罷在候事ニ而、条約之守否は国之存亡に相抱候儀ニ御座候得は、旁以一旦取結候条約は、是非遂行不申候而は難相行奉存候、就而は被為於　朝廷候而も、右之事体篤と御勘考被為在候様仕度、自然利害得失如何と被思食候儀も御座候ハ、、参　内之上巨細言上可仕奉存候、将亦宇内形勢変遷之儀ハ追々申上候通ニ御座候処、古今之情態尚篤と考究仕候得ハ、万国森列土地風俗之異同ハ有之候得共、均しく天地之化育を受、今日其生を遂其死を完ニ致候ニ於テハ、素より彼是之別無之、既ニ民生同胞ニ候上は、従而信義を通候は天地之正理ニ候処、

皇国環海之御国柄を以テ坤輿中東西要衝之地ニ当り、即今海外諸州逐日相開、万里比隣自在奔走之砌、独旧轍を墨守万国普通之交接不致候而は、自然之大勢ニ相戻不容易禍害頓ニ可相生奉存候、因而は形勢之変局方今之機会ニ候間、四海兄弟一視同仁古訓ニ御基被遊、天下ト共ニ御更始被為在候様仕度、左候得ハ是迄之陋習一洗数年を不出富強充実、

皇国之御武威弥増興張、奉安

朝意候様尽力可仕奉存候、此段奏聞仕候、以上、

三月　　慶喜

兵庫開港之儀一昨年被止御請之処、今度申立之次第不容易重大之事件ニ付、被為対
先朝候而も難被及　御沙汰筋ニ付、尚早々諸藩見込をも可被　聞食候間、於大樹も篤と再考可有之事、

三月十九日

右　朝廷ヨリ　御沙汰幕江御達之事、

口裏
島津大隅守(久光)殿

今度開港之儀別紙之趣従　大樹建言仕候、然処一昨年十月三港
勅許之節、於彼地は被止候
御沙汰之次第も有之、不容易重大之儀ニ付、猶早々上京見込之趣無腹臓言上可有之事、

但
所労等ニ而彼是隙取候ハヽ見込之趣先以書取、来四月中可有言上事、

一兵庫開港条約履行之儀ニ付、過日見込之趣建言仕候処、
右は重大之事件、被対
先朝候而も難被及　御沙汰筋ニ付、尚早々諸藩見込をも被
聞食候間、篤と再考可仕旨御沙汰之趣奉畏候、慶喜儀年来闕下ニ罷在、
先朝以来御趣意之程親鋪相伺居、殊ニ一昨年之　御沙汰も御座候上は、開港等輙ク建言可仕筋ニ無之候処、皇国之御為利害得失勘考相尽候得は、何れニも過日建言仕候通り之儀ニ無御座候而は、永久御国体難相立軽重大小再三斟酌仕申上候次第ニ而御座候、此上外ニ勘弁可仕様無御座候、且一旦取結候条約変更之儀ハ所詮難相叶勢ニ御座候間、各国より申立候儀有之節は、過日建言之趣意を以夫々申達置候事ニ御座候、尤打続国事多端之折とハ乍申、重大之事件ニ付、聊も不打捨、何とか取計不申候而ハ不相済儀ニ御座候処、是迄遷延仕居今更彼是申上候段、対
朝廷深ク恐縮之至奉存候、就而は前件之次第国家御安

危之界ニ而、幾重ニも一身ニ引受御断可申上奉存候、
右之情篤と御承知被為在、尚今一応被尽
朝議候様仕度、此段御尋ニ付重々
奏聞仕候以上、

三月廿二日　　慶喜

御内々

大樹代替ニ付、各国公使面会、先達テ言上済ニ付此節各国江相達候処、暎咭唎国兼々申立度事件有之由ニ而、摂海致渡来無程各国公使参着ニ可相成候間、不日大樹下坂被在之、可被遂面会ト奉存候、尤兵庫開港条約履行之儀ニ付而は、此程見込之趣被申上置候通ニ而、今般下坂之趣意は其筋之談判ニ被在之候為ニハ無之、全前件代替面会之廉ニ被在之候間、此段も御承知相成候様被致度被存候、尤下坂時日之儀ハ猶申立可有之由ニ候事、

三月十八日

一過日再考建言文中且一旦取結候条約変更之儀は、所詮難相叶事勢ニ御座候間、各国より申立候儀有之候節ハ過日建言之趣意を以夫々申達置候事ニ御座候云々之文面如何ニ候、何分
御沙汰有之候迄必々開港差許候儀有之間鋪、其段心得可有之旨摂政殿被命候事、

尤請書差出可有之事、

右三月廿九日所司代江達し、早々可達大樹武伝より申渡候事、

一過日再考云々、其段心得ニ有之候趣承知仕候、右は追々申上候通、条約変更之見据無之候間、各国より趣意相尋候節は、其段相答候迄ニ而、御差許無之内布告等仕候儀ニハ曾而無御座候、此段御請申上候、
御書取之趣大樹公江入覧候処、別紙之通被申聞候間、此段貴答候、以上、

四月朔日　　小笠原
　　稲葉
　　板倉

飛鳥井――
野々宮――

御召之諸藩

尾張前大納言　紀伊
加賀　仙臺
筑前　藤堂
備前　阿波
雲州　久留米
米沢　秋田
對州　南部
二本松　越前大蔵太輔
肥後　藝州
肥前閑叟　因幡
土佐容堂　宇和島伊予守
津軽　柳川
合　御国迄二十五藩

一三月十九日山階宮・正親町三条様幽閉被免、

一四月十七日、滋野井　正親丁　鷹尾（驚カ）
右三人摂政殿江被迫、野々宮・廣橋・久世・六条議奏伝奏被辞職、土（土州）・宇（宇和島）御国三藩江異人警衛被命、

一同十九日、大樹公
摂政殿江参殿、徹夜ニ而四卿御処置振御軽卒と申趣ヲ以被相迫、終ニ御断り相成候事、

一同廿日、摂政殿辞表被差出、柳原辞職、近衛家・一条・九条国事掛被免候、

一廿二日、柳原（光愛）復職　近衛（忠房）・一条（実良）・九条（道孝）家国事掛被命

一　議奏
廣橋大納言様（光成）
六條中納言様（有容）
久世前宰中相将様（通熙）

一　伝奏
野々宮中納言様（定功）

右各依之御所労御願之通被免候、今十七日飛鳥井
家月番候事、
四月十七日
一伝奏被　仰出、
日野大納言(資宗)様
一軽卒之義有之議奏被免、
柳原大納言(光愛)様
一　滋野井中将(実在)様
正親町少将(公薈)様
滋野井侍従(公寿)様
鷲尾侍従(隆愛)様
右差扣被　仰付守衛人数被付置候事、
四月十九日
一　内大臣
一条家　左大将
九條大納言(道孝)
右国事掛被
免候事、
右被　仰出候、仍之申入候也、
四月廿日　胤房
日野大納言殿
胤房議奏加勢池尻宮内卿也、
一柳原大納言(光愛)
右議奏　御再役被　仰出、
近衛様
一条様
九條様
右御国事掛被
仰出、
右昨日被仰出、
卯四月廿三日
四月十九日
四時泉涌寺坊中法安寺へ被為入、御装束御召替ニ而
孝明天皇山陵并

御位牌殿江
御拝礼、　御半袴御召替宇和島侯・越前侯江御見舞ニ
而御帰殿、

同廿八日、
天気為　御伺、飛鳥井中納言様江御出、日野大納言様
・二条様江も御出
御帰殿、

五月二日、
容堂公(山内豊信)江御見舞桜木御殿　山階宮(晃親王)陽明家(近衛)江
御参殿、夜五ッ時
御帰殿、

一　同四日、
越公江御出、宇和島侯・容堂公も御出、明後六日摂政
家江御参　殿、
朝廷人材御登庸之事件御建言之筋御決議、
但今日御供ニ而御席へ伺候いたし候、

同六日、
四侯御揃、九ッ半時
二条家江御参殿、
兵庫開港之儀蒙
御下問候得共、何分
朝廷議奏御一人様ニ而、第一御人材御備無之候而は、
見込言上仕候而も無益ト奉存候間、根軸御居り之処急
務ト談合仕候間、早々、
朝議被為在度被　仰立御人体之儀左之通、

伝奏
萬里小路
烏丸

議奏
中山
正親町三条
徳大寺

中御門
徳大寺

摂政殿御返詞兎角御一同
朝議之上何分御答可被為在と之御事之由、

一　同七日、

今日摂政殿江四藩より御使者、

越藩
酒井十之丞（忠温）
毛受鹿之助（共）

土佐
福岡藤二（孝悌）

宇和島
西園寺雪江

御国
野生

拝謁奉願候得共、御歯痛ニ而不相調、強而奉願趣有之、
明日巳刻参　殿いたし候様承知引取候事、
引取懸ニ
一条家九條家江参　殿拝謁被仰付、四藩より摂政家江
言上之趣云々ニ付御尽力被下候様奉願候、

同八日、

今日前条人数ニ而　摂政家江参　殿之処拝謁被仰付、
非常之
朝議被成下候様詳細遂言上候事、
今日　朝議不被為在、一同御揃之上ト申事ニ而、例之
因循之御評議ニ而候由、
一今四藩御申合近日中御登営之御沙汰有之候、

同十日、

九ツ時
越公・宇和島侯
中将公（久光）　摂政家江
御参殿、尚亦神速御評議被為在候様御建言被為在候、
御帰殿、越公・宇和島公御邸江御出ニ而候、
土侯御所労ニ而御断、神山左多衛御模様為伺被参、
越藩中根（観魚）・酒井（十之丞）参候、

御登営之御評議有之、　朝廷江御建言被為在候付、
御決議御伺迄は御登営不可然と之　御論ニ候得共、越
公・宇和島侯ハ一応
御登営、大樹公御趣意御伺相成度之御論ニ而、越中根（雪江）・
酒井・土神山、帯刀殿（小松）小生御前江伺候、是非御登営ハ
御見合相成度中根・酒井ト論し互ニ大論ニ相成候、於
彼方御趣意尚御伺之上、是迄
朝廷江対御行違之儀共御責被成度云々、小子ハ最早御
趣意御伺不相成候共、御失体ハ顕然ニ候間、　御登営
被為在候得ハ大義ヲ以十分御論破可被為在儀故、何分
朝廷之事ヲ必死ニ御尽シ、御根軸ヲ被立候上ト申趣意
ニ而手強ク論し候、乍然尋常之談ニ而候故合議ニいた
り兼、容堂公御所労ニ而御断之筋ニ相決候、

同十一日、

今日　朝議相成萬里小路・烏丸御卑官等之訳ヲ以御採
用ニ成兼候段、鷹司前関白（輔熙）様頻ニ御論相立候由、大原様
中御門ハ御遣詔ト申事ニ而摂政殿御論ニ而相止候由、

同十二日、

土邸江（慶永）越（宗城）・宇御出
中将（久光）公も御出相成候、明後十四御登営江決候由、明日
御登営之義御達有之候、

同十三日、

摂政家江四藩（越前・土州・宇和島・鹿児島）より御使、越酒井・土福岡・宇西園寺小
子同道、御用人野間何某江取次、
朝議之御次第相伺候処云々御答也、

同十四日、

中将公（島津久光）御登営、越公・宇和島侯・容堂侯同様也、
御供ニ而候、

一越公より御趣意御伺之処、徳川家御相続以来之儀巨細
御演達之由、
一中将公より天下江信義ヲ被為得候儀専要之旨被　仰上
候処、
大樹云天下ニ信義ヲ得候義如何いたし可然ヤ、

公云、夫位之事ハ御賢明之御方様御方寸ニ可被為在候
間不申上、
宇和島云、何分防長御処置第一ニ候旨被仰上候、
容堂公云防長御処置ニ付而ハ、小笠原御退相成候肝要
之旨被仰上、
一大樹公ハ兵庫開港期期日差迫候義ヲ申立、是非急ニ
勅許相成度、二条殿なとも大概御会得、四藩よりも言
上相成候得ハ御差許可相成候間、致言上呉との事ヲ頻
ニ被申候由、
中将公云、兎角防長之御処置寛大ニ出、先ツ是ヲ御施
行相成度、兵庫開港も実不容易、是迄横浜同様之開港
ニ而ハ不相済云々、
大樹公云、横濱同様不相済トハ如何之趣意ニ候や、
中将公云、横濱不受
勅許、幕府私ニ御開キ相成、規則も不相立条理を失候
故、天下人心不服之訳ニ而候段御答、
一宇和島侯
勅許ト申儀不宜、何れ　朝命ヲ以御治定相成度云々、
右之大略之御応答始ハ御弁解もすら〳〵出候得共、
跡ハ御詞も立兼候由、
十四日、長谷三位様(信篤)議奏再役被仰出候事、

同十七日、
土亭江
中将御出、越・宇も御出被為在、明後十九日尚亦　御
出、防長御処置兵庫順序を以尚亦被仰立度御決議ニ而
御登営之筋ニ御決之由、
右不容易御大事故十分越・宇御差はまり御論被立度
兵庫開港之儀幕府同論之様相成候而は、実ニ天下之
笑談ト相成御尽力も水泡ト相成事故、防長之処ヲ第
一ニ御論迚も　御論逢兼候ハ、、逢ハぬ形行ニ而御
離れ相成度論定之事、
同十九日(八カ)、朝帯刀(小松)殿越公江御出、小子宇和島江出精々
御論申上、十分御はまり可相成御答ニ而候、
一昨日正親丁三条(実愛)様議奏再役被　仰出候事、

同十九日、
御登営越・宇同様也、尚御建言被為在候処、約り防長事件兵庫開港一時
朝廷江言上、明日ニ而も一緒ニ摂政家江御出可被成御答候由、

同廿日、
宇和島侯御出、尚明日御登営可相成御決議之由帯刀殿より承候、

同廿一日、
御登営容堂公(山内豊信)御不参、越・宇ハ御出也、御供也、
今日は板倉閣老稲葉・永井両人御面会、防長御処置段々御議論相成、種々異論被相立由候得共、凡而御弁解被為在、終ニ寛大之御処置と申処ニ同論相成、閣老より大樹公江言上、左様ならハ防長御処置寛大之処ニ相決、第一ニ防長御処置相運候上、兵庫開港事件　朝廷江共々ニ及言上様可致と之御事之由也、

同廿三日、
今日大樹公(徳川慶喜)就参
内、四藩江参
内被為在候様幕より御達相成候、
一廿一日御登営之節防長御処置第一ニ相運候処ニ而御論相成、其通同意之事候得共、何分　朝廷ハ幕より尽ク掌中ニ入れ候事、如何様欺罔之策相用候も難図候付、先御不参ニ而相延候方可然致評議、昨廿二日宇和島江帯刀殿、越邸江小子御使相勤候得共、越公ニハ既ニ御請相成殊ニ差懸之事ニ而今更無致方、尚御勘考之上彼御方より御答可被為在と之御事ニ而引取候、然処今朝板倉江四藩より之書面御持参、尚亦模様御伺之上若曖昧たる事候ハヽ、御参　内御止ニ而御帰邸之御賦之由申来候、今朝右書面草稿持参帯刀殿同道、宇和島江参上、少々文字御添削御請書願上越亭江持参、中根江相渡候、
一越公も御不参之処、是非御参被為在候様　摂政殿御沙汰ニ而、原弥十郎為御使参り御参相成候由、宇和島公

も同断御参被為在候、
中将公(久光)江同様御使者御召相成候得共御不参也、

幕江今朝御出御書面左之通、

天下之大政は公明正大之至理を尽し、時世的当内外寛急之弁を明にし、御施行無御座候而は難相行勿論ニ御座候、全体不可救之今日ニ至候根由を推究仕候得は、乍憚　幕府年来之御失体より醸出候内、殊ニ防長再討之御一挙より物議沸騰、天下離叛之次第ニ相及候次第御座候、依之明白至当之筋を以防長御処置可為急務段、談合之上屢建言仕候儀ニ而篤と熟考仕候処、自ら兵庫開港防長事件は大ニ寛急先後之順序有之、右区別を以曲直当否之分被為立、幕府御反正之実跡顕ると不被顕相抱(拘)事候付、虚心を以御反察被為在候様奉願候二件、

朝廷江可被合

奏旨拝承仕候得共、

皇国之御安危ニも関係仕候付、是非至公至大之道を以私権を被為抜、治久之大策被為立候様有御座度、重大之事柄難黙止再考之趣言上仕候、

五月廿三日　　四藩御連名

大樹公より摂政殿江暴を以奉迫、御微力之

朝廷不被為得止左之通、

長防之儀、昨年上京諸藩当年上京之四藩等各寛大之所置可有御沙汰、其上於大樹も寛大之所置言上有之、

朝廷同様被

思召候間、早々寛大之所置可取計事、

兵庫開港之事、元来不容易殊ニ

先帝被為止置候得共、大樹無余儀時勢言上諸藩建白之趣も有之、当節上京之四藩も同様申上候間、誠ニ不被為得止御差許ニ相成候、就而は諸屹(事脱カ)と取締相立可申渡事、

先刻被申渡候儀有之候得共、無余儀子細も有之候間、別紙之通被　仰出候、此旨番々江可申伝加勢堀川三(親賀)位被申渡候、仍而申入候也、

加番衆江

卯五月廿四日　　長熙

清岡式部権大輔

一兵庫開港御書面中被建規則度候間、四藩申合早々可申出云々御文面有之候得共、大樹公より申上候は現事ニ於而ハ談合可仕候得共、右文字御除被下候様奉願御消除相成候由、

一一応

叡慮御伺相成、防長之儀大膳父子官位復旧（毛利敬親・元徳）、削地御取消之処ニ而御許容被為在、其段御達相成候得共、大樹公是ヲ不奉、亦々別紙御書面之通御達替相成候由、

右之通従

朝廷御沙汰ニ就而は、前以四藩より被仰立候御趣意とハ大ニ齟齬いたし、実ニ意外なる御次第ニ付左之通、

朝廷江被仰立候、

兵庫開港、防長御処置二件は当時不容易内外之御大事と奉存候、全体幕府防長再討之妄挙は無名之師を動、兵威を以圧倒可致心積候処、全奏功に至らす天下之騒乱ヲ引出候次第故、各藩人心離叛物議相起候時宜御座候、就而は即今被為立国基候急務は、公明正大之御所置を以、天下ニ不為臨候而は一円治り不相付候付、防長之儀は大膳父子官位復旧平常之　御沙汰相成、幕府反正之実跡相立候義第一と相心得申候間、判然明白実跡相顕候上、天下人心始而安堵可仕候得は、第二兵庫開港時務相当之御所置被為在、順序を得可申、兼而勘考仕候、先般蒙　御下問候得共未

勅問対答も不仕内、前条二件順序区別を以幕府江屢申出置候、然処昨廿四日防長之儀は寛大之処置可取計、兵庫開港之儀は当節上京之四藩も同様申上候間、誠ニ不被為得止御差許ニ相成候云々、　御沙汰之御書附拝見仕、実以意外之次第不堪驚愕仕合御座候、従

朝廷　御沙汰之儀容易可奉申上筋ニ無之、恐懼之至奉存候得共、

皇国重大之事件、事実相違之儀黙止罷在候場合ニ無御座候間、不得止一応奉伺候、

五月廿五日　　四藩御連名

右飛井家（鳥脱カ）江御留守居より差出相成候事、

一廿四日、朝越公・宇和島侯より帯刀殿江御用ニ而被罷出候処、是非
中将公江(島津久光)御参被為在候様、両公江御列出相成候様　御達ニ付、其段
中将公江申上
御参御進可申上旨　御沙汰之由ニ而、退出ニ而候得共
御参不被遊、帯刀殿江　御趣意御申含被差出候事、

同廿六日、
板倉閣老(勝静)より藝州家老石井修理(正敏)江、長州より家老歎願書差出候様安藝守様江御尽力有之様、左候而不廉立様穏ニ相したゝめ可申、人之非ヲ打候抔是迄之書面ニ而不都合ニ而候間、尾張惣督江差出候趣ニ而可差出、石井より家老より歎願書差出候様尽力ハ迚も六ヶ舗、尤寛大之御趣意ニも不相叶段条理を尽し言上いたし候得共、無止ニ安藝守江可申越と之御達之由、細ニ応答之趣廿七日宇和島侯於　御前同人より承候事、

一廿八日、御登営被為在候様御達ニ候得共
御断被仰立候、宇和島侯も御同断、
越公御登営被為在候由、

一廿九日、朝酒井十之丞(忠温)入来、昨日御登営之御都合承候、是非家老歎願書不差出候而は不相済、四藩之御説採用之向ニなしと、

同廿九日、
宇和島侯御邸江御出七ツ後罷出候、

別紙之通幕府江　被仰出候ニ就而は、一昨日伏見ヨリ大津江臨期英夷通行不容易折柄、潜伏夷人も難計候付両駅ハ不及申、京師等一際厳重可警衛被仰出候旨摂政殿被命候事、
昨日伏見海道より大津駅英夷通行之儀不伺、定臨期通行為致候儀殊ニ六七人之旨ニ候処、十七人余も有之候旨風聞候、其上兵庫開港伺中無御返答砌、尤無余儀情実も可有之欤ニ候得共、自今右様之事堅固不相成候事、

右被仰出候旨摂政殿被命候事、

右二通四月十七日伝奏より御渡、

一昨日達置候英国通行之儀、事実相違ニ付不及警衛探索等旨摂政殿被命候事、

四月十九日

弥御安全珍重奉存候、然は昨夜被仰越候義大樹公江も申達候処、右は此程　御沙汰之趣最早処置可被取計之処、過日於

禁中言上仕候通順序も御座候義故、即今先々手筈取掛居候間、右相運次第神速寛大之処置ニ可及被存候、尤防長処置之義ハ兼而御委任之事ニ付、前件之都合相運居候内此後外之建白等ニ寄

御沙汰被

仰出候義ハ無之義と奉存候、此段摂政殿江御申入被置候様致度被申候、右御答旁如此御座候、

六月三日　定敬（松平）

日野、、、、

飛鳥井、、、

三月廿日出

以書翰申入候、然は両都・両港相開候義ニ付、本月十二日附之来書ニ被申越候日限よりして、早々布告被致度趣政府江相談致せし処、未大君より何之沙汰も無之旨昨日面会之砌板倉伊賀守（勝静）より承り候、然る処当方より申談せし通早速布告するニ不及との御上意なり共、当方都合次第貴国人民江右開港之一件を布告致すも子細無之旨、右閣下之口上ニ而、明白相咄し可申布告之案書伊賀守之頼ニ随ひ本状ニ相添差上候間、其政府之布告書当方之布告書ト同日ニ被成候ヤ、但当方先達而布告書出候事其許等之所望ニ候ヤ其段伺申度候、早速回答差越候様頼入候、拝具謹言、

ハルリースバルクス

板倉　――　殿

稲葉　――　殿　両閣下

我本月廿日附書翰并両都両港可相開儀ニ付、貴国人民

江之触書案共落手披閲致し被申越趣領承せり、右は当方布告日限ニ無差構、貴国人民江被触示義者余等於テ異存無之候、此段回答如此候、拝具謹言、

慶応三卯年三月日　　板倉――

稲葉――

布告

下名之者条約ニ取極めし如く貂利太泥亜(尼)臣民之為、来ル第一月一日江戸并大坂之町、兵庫港并日本西海岸ニ而一港を開く、十分用意せる旨之適当なる報告ヲ、日本政府より得たる事を、女王マセスチ之臣民ニ布告せしむ、

○右ニ付フリタニア臣民前段之町并港ニ於テ、居留并交易之為め用ゆへき場所を取極る之所置におよへり、尚前条之町并港ニ付右条約之趣意施行之為、彼是要用之所置整ひたらハ速ニ布告有べし、

於大坂

千八百六十七年第四月

一肥後藩之形勢近来一変仕候趣其源由ヲ相探候処、昨年小倉表ニ而戦争之砌、長岡監隊長(物脱カ)ニ而頗ル功績も有之候付、帰陣後一旦ハ褒賞も蒙候処、其功績ヲ娼疾仕候者も有之、色々策略を施市虎ヲ成候処遂ニ其言行れ候故、監物其機ヲ察シ忽辞職只一隊之長ト相成申候、然ルニ元参政隠居溝口孤雲(貞直)元名蔵人と申者、遽ニ御抜擢ニ而御家老座上被命、専ラ御委任ニ相成大ニ黜陟等も有之、現ニ先年当地罷越居候加悦市(氏厚)之進・山形典次郎・山田五次郎（此三人は先年貞一荘蔵共極懇意ニ仕且又監物抔は同論之者ニ而薩抔とも懇交仕居候者ニ御座候）等貶黜を蒙、且亦是迄は良之助公子（長岡護美旧名）一藩之人望も被為在居候処、温純無能之澄之助(細川護久)公世子ニ被定、其上薩抔江は大ニ御疎濶ニ相成、藩人ニも薩士ニハ出会も不致様罷成誠以嘆息之至ニ御座候、

越前青山小三郎(貞)話且又肥後小橋恒蔵(元雄)此仁一昨年良之介公子御使ニ御国許江も罷越候監物孤雲之始末承候末、同人話ニ弊藩ハ近年国情不定赤面之至抔ト申居候、

一横濱之勢近来弥増御紀(規)律不相立、事々彼之申出通ニ被相行一同憂苦仕候趣、江戸滞在五月十八日当地着、肥後藩小橋恒蔵話

一先日小笠原閣老(長行)東帰之節三事件御任ニ相成候趣、其一ハ水府之事件ニ御座候得共余ニ事ハ未詳趣(幕府外交掛岡元某話、松代長谷川平次郎より承申候、)

一幕人岡本某話ニ、此度上京之四藩徒ニ幕府之邪魔を致甚以憤懣之至、併長兵庫事件も公然布告とも相成候上ハ、とても此上手之出シ方は有之間敷先安心致候、然れとも退京之砌わるさとも致さねハよいがと、甚懸念いたし居候旨(長谷川平次郎同人より承候まゝ伝聞仕候、)

近年衝レ嘘(ウソ)皆大筒、筒袍反袋(ポハンフクロ)異人風、売国売己立売北(尹宮)、買忠買逆堺町東(鷹司)、建白大名不油断(越土)賄賂堂上為ニ夢中一、昨日攘夷今開港、天禄尽時四海窮ゝ、

六月八日

越老公宇和島老公御邸江御出、

昨日比藝紀伊守様(長勲旧名)より防長云々御断之御書面板倉閣老江出サレ候由、

同　九日、

大村藩中村鉄弥帰京懸入来、引合之義云々返詞承候、

同　十日、

藝藩船越洋之助(衛)入来、云々之儀承知、

備前藩家老　比帯刀

当分在京随分正議家之由、

熊本藩　小橋恒藏(元雄)

右藝州小林江(実)三郎参四藩を離れ両藩趣意を合尽力可致云々論し候由、

柳川藩　宮崎邦之助

六月十四日

柳藩　立花参太夫

吉田

宮崎邦之助

入来、種々論談いたし候、

一朝廷江四藩御用済御暇可被下と之趣従幕言上、議奏正三卿等不可然と之御論ニ而御尽力先御止之模様、

六月十七日

朝議五ヶ条

摂政家御不参ニ而、議奏長谷(信篤)御召呼被　仰達候趣、

一ヶ条

四藩建白御沙汰なしニ而ハ御採用之形ニ相成候付、何分之御達被為在候様迫り候諸藩も有之候、摂政家御趣意ハ原市(原市之進)参、四藩談合相済候付参

内奉願とノ趣ニ付、幕府言上ニ依　御沙汰相成候間、幕江何分相伺候様相達可然と之趣、

朝議

右御達ニ而ハ筋合不相立、勿論幕江ハ四藩より建言も有之、何れ書面之処証拠といたし候外無之候ニ付、右様御達ニ而は不可然何分幕江御沙汰被為在度、

二ヶ条

新帝御住居是迄御造作替被為在候得共、御棟廻り丈御造替被為在可然、就而は五万両献金之賦候得共二万五千両献上仕度、万民困苦之砌第一御救助之御趣意ヲ以御許容被成下度、戸田山城守ヨリ及言上候段、

朝議

幕府ヨリ不及献金候ハヽ、

朝廷御在金ヲ以御用弁被為在候旨、柳原(光愛)卿より戸田ニ御達之処、別而当惑ニ而左様御沙汰被下候而ハ奉恐入候、当時上京諸藩も有之候付、幕府之処相済不申候付言上之次第御取消ニ被成下度、尚亦吟味両日中可及言上云々、

三ヶ条

滋野井(実在)初幽閉御解之一条兼而正三卿より御尽力被為在就而は右幽閉被免候得ハ、六條復職不被為仰付候而は不相済云々、

朝議

六條(有容)復職被仰付候得ハ、必野々宮(定功)等帰職之場ニ可立至ハ案中候間、左候而ハ甚不可然乍不敏今通被召置可然、

四ケ条
先大樹(家茂)公石塔建立ニ付正一位太政大臣贈官被命度申出
摂政家　御趣意太政大臣丈ケ言上通被贈官可然と之趣
朝議摂政家御趣意通ニ而可然、
五ケ条
十五万石年々
朝廷江献米不相調候ニ付、山城国一円可差上と之趣、
朝議
異条なし、

日本国内ニ於テ外夷之相媒ル事情覚書

於日本国外夷施ス処ノ策ハ　皇威ヲ薄ラゲ、将軍家ノ勢ヲ培センコトヲ媒ル、イカントナレハ我輩ハ条約ヲ将軍家ト結フナレハ、吾輩之勢ヲ以彼ノ後楯トナリ、勢ヲヒロケ海陸軍ヲ以助ルカ故也、故外夷ハ将軍家トヒソカニ約シテ陰ニ図ルノ事アルヘシ○将軍家ハ外夷等ニ向ヒ港ヲ開、通商ヲ甚クスル等ノ彼等欲ニシタガヒ、免シテ以自己ノ為ニ援兵ヲ出サシムル等ノ事件ヲ媒ル、是等ハ即外夷等施シ投(設カ)ケ一切ニ諸大名ヲ軽蔑シオサヘ付ント策ルニ出ル者ナリ、イカントナレハ諸藩士固陋ニシテ偏私ノ見識ヲ免れス、且甚クシテ外夷ト大ニ抗抵ス、故ニ洋人等ハ常ニ相備居テ、何レノ時カ幕府応援ヲ乞フノ事アレハ必相応スルコトノ事(術カ)アルヘシ、即馬関及鹿児島府下ノ挙ノ如モ亦徴ト云ハサルヘケンヤ、諸侯皆私ニ外国人ヲ招キ彼等之策壊ラントスト雖真ヲ尽シ得ヘカラス、彼等ノ内誰一人トシテ才器充ル者ナレハ諸侯ト一致セス、是諸侯ノナシ得ヘカラサルノ一也、然るニ我輩真ノ政府ニ係り无キ大名ト一致シ服従スルヲ欲セス是亦其二也、仏国ニ於テ帝王ガ岩下ヲ見ルコトヲ嫌フ等ノ理是ニ関係スル訳也、タトヘハ若シ私ニ鹿児島ニ在リテ土人ニ殺害セラレタランニハ、将軍家政府江訴其償ヲ得ルコトヲ得ス、亦其君侯相対ニシテソレニカ、ワリヨルコトヲ得ス、イカントナレハ吾輩下ニアリテ其権ニ服スベカラサル故ニ、必スシも日本国内ニ於テスベテ外国ノ事務必ス将軍家政府ニ関係スルユヘ也、如斯増長スル大君ノ威光及柄

権諸藩ノ勢ヲソギ而テタチマチニ剛強ナル勢トナリテハ、

勅意ハ勿論諸侯ノ義論ヲ容ルコト旡ク大ニ権ヲ振フコトトナルヘシ、イカントナレハ我輩種々之道ヲ以テ彼ニ力添助クレハナリ、右幕威ヲサヘキルニ唯一途ノ策アリ、是即諸藩ノ人民ヲシテ　皇威ヲ以彼ヲ恭敬セシムベシ、全体帝ハ大君ノ上アリテ、大君帝ヲシユヘカラサルコト条理ニ於テ明ナレハ、必ス朝廷ハ法ヲ以押確然動揺セス、命令ヲ布クトキハ外夷等余義ナク国法ニ伏シテ従フヘキ義ナリ、

帝ハ必ス外夷等ノ国法ニ逆フ等ノコトニ御恐怖アル可ラス、　帝王自ら外国之事務ヲツカサトリ　王位ニ立ツノ気量アランニハ、緊要タル条約亦ハ其他ノ事ヲ大君ト外夷ト共ニ結フ事ヲ免スベカラサルヘシ、其他欧羅巴江(ヨーロッパ)使節ヲ送り、亦ハ外国人ヲ招クコト商法ヲ国内ニミタリニスルコト、私ニ貿易スル約ヲ取リカワスコト等、其他不熟ナルコトヲ軽卒ニ外夷ニ免シ、亦は帝許容セサルコト等幕府江専ラニスルコトヲ得セシムヘカラス○帝諸藩江布告シテ、大君ハ外国ノ事務ニ関係スヘカラサル者ナルヲ、外国諸全権之輩ヲシテ信用スヘキ旨　勅命ヲ下シ、及其他外国事務ニ係ル告文等ハ、必ス　帝王ノ宝璽ヲスヘ、自ラ　帝王ノ名目居ユヘキナリ、然ルトキハ外国人輩皆余義ナク是ニ恭敬シ服スヘシ、イカントナレハ国法ニ随ハネハナラヌコト外国等中ノ法則ナレハナリ○諸大名今策ル可キハ唯　皇威ノ振ハンコトヲ勤メテ尽スヘシ、ソーシテ日本帝ハ大君ノ上ニアリテ大君ト大(マヽ)ニアルコト、及大君ハ唯高貴ノ人ナルノミニシテ、　王家ト区別明白ナル事トモヲ外国人等江告知ラスヘキナリ○外国人ノ日本ヲ穢スヲ防ク之道ハ暴激ヲ以テ為スコトニアラス、唯秀才ノ「ヂプロマシー」及教化サレタル民間ニ存スル公法ヲ、領会シ得タル一人ニヨリテアルコトナリ、我輩ハ公法ヲ犯スコトヲナシ難シ、併日本人之公法ヲ知ラサルコト我輩能知レリ、併シ我輩斯クノ如ク公法ヲ知ト雖トモ即公法ニ反スル者ナリ、併ナゼト云ハ日本人民公法ヲ犯シ、我輩ヲ弑スルコトアリテシバ〳〵我輩ヲ窺フ

コトアリ、故ニ我輩公法ヲ犯スト雖トモ防禦之為備フル者ナリ○真ニ外夷ト戦ハントスルノ道ハ唯筆ト墨ヲ用フルニアリ、干戈ヲ用フル者ニアラス、唯タクミナル「ヂプロマシー」（国外亦ハ政事ノ要務ニアツカリテ事ヲ計リ計策等ヲ施ス役ノ任家ニヨリテ今日本ヲアヤウセントスル外人等ヲ過失ニヲトシ入シメテ、其罪ヲ揚テ世界ニ布告シ攘フ等ノ術策アルヘシ、然レハ欧洲ノ内ニ於テ貴君ノ心ニ合力一体シテ、国家ノ為有益ノ傑人ヲ得ル（ニ脱カ）至ルベシ、今欧洲ハ日本ノ形勢ニ付緊要時務ヲ知ラサル者多シ、イカントナレハ欧洲人ハ只一方ノ義論ヲ聞ノミニシテ、彼等実ニ真ノ事情ヲ知ラサルナリ○日本ノ帝王ハ必ス大君廃シテ然る可キナリ、今大君甚権威ニホコルノ弊ヲ生シタレハ、彼ヲ廃シテ後外国ノ情実ヲ貫通、海外ニ布告スルノ書法等通達シタル俊秀ノ「ヂプロマシー」家ノ公法ヲ心得タル一人ヲ御登用アルベキナリ、必ス諸大名ハ国内ニアル外夷ヲ攘フ事ヲ要務トスヘキコトナリ、イカントナレハ今大君驕慢ニホコリシ根元ヲ索ストキハ洋夷ノ催促セシモノナレハナリ○従来諸大名ハ封県ノ制ニ随ヒテ国家ヲ守リ、夫ノ権威モアリタレハ海充実（防脱カ）シテ

皇威モカヽヤキ外患ノ少クアリタリ、併シ諸侯ノ都下ニ至リ亦ハ惣而満渡る大君ノ権行ハルヽトキ、漸クニ外患深ク根ヲ取終ニ大君ハ外夷ノ僕トヒトシクナリテ全日本国ヲ失フニ至ル、彼外夷ノ命令服（ニ脱カ）セネハナラヌ事トナルヘシ、カクノ如ク外夷ハ併呑スルコトハ英ノ印度（インド）其他ニオケルカ如キモノナリ、

一六月十七日新藩会

水戸　川瀬淳太郎
壬生　近藤　勇
尾　丹羽淳太郎（賢）

一両事件銘々見込遅速異同ハ有之候得共、大樹（伊達宗城）并大蔵大（松平慶永）輔・伊予守等参

内之上寛開之帰着は同様ニ付御取捨之上被　仰出候、

尤其節之模様は委細大蔵（慶永）大輔（宗城）・伊予守ニも承知ニ可有

之、併不参之面々大樹江可承合候事、

八月五日

右之通従伝奏御留主居呼出ニ而御達相成候付左之通被差出候、

先般兵庫開港御差許相成候就御達振、事実顚倒仕候故尚又奉伺趣御座候処、両事件銘々見込遅速異同は有之候得共、大樹并大蔵大輔・伊予守等参内之上寛開之帰着は同様ニ付、御取捨之上被　仰出候云々御達ノ　御書面奉拝見候、防長之義は大膳父子官（毛利敬親・元徳）位復旧平常之　御沙汰ニ被及、幕府反正之実跡顕然たる上ハ天下人心安堵仕、国内一定之基本も可相居筋ニ御座候得は、第二ニ外夷之事ニ及兵庫開港時務相当之御処置相成候而順序可相適と之鄙見御座候得は、固より寛開之帰着ハ同様ニ而更ニ異議無御座候得共、順序遅速之異同は瞭然相分れ候儀ニ御座候処、其段は趣意徹底被為聞食置候由難有奉存候、就而は当節上京之四藩も同様申上候間、誠ニ不被為得止、御差許相成候と之御文言益以的当不仕、何等之儀同様申上候而不被為得止　御差許相成候廉々可有御座哉、御取捨之上公裁之　御旨趣一円安堵難仕当惑之至御座候、其節之模様大樹江可承合御沙汰ニは御座候得共、不容易朝議之枢機筋違江可承合道理無御座、再応聖諭之趣は奉恐入候得共、前条之次第柄ニ而は御請可奉申上条理弁別難仕候付不顧多罪奉伺候、

八月六日　　御名（宗城）

伊達老公

右御連名ニ而御差出相成候、

長防之儀早々寛大之所置可取計旨、従御所被仰出候付申達候義有之候間、未家之内壱人吉川監物（経幹）別ニ家老一人致上坂候様、毛利家江一々可被相達候、七月廿四日藝州江右之通御達相成候、閣老板倉、

八月十五日

中将公(島津久光)　御所労暫時

朝廷御暇御願済御発駕被為在候事、

八月十四日暁幕小監察原市之進旅亭江幕臣三人差越原江面会致殺害、其まゝ首級相携板倉閣老江差越候を、原家来駈付一人ハ玄関ニ而屠腹、両人相戦屠腹いたし候よし風説

左之、(通脱カ)書面懐中いたし候由、

閣老板倉(勝静)江差出候書付之写、

原　市之進(忠成)

梅沢孫太郎(亮)

此者共元水藩ニして源列公ニ奉事し、先哲之間ニ交り兼々尊攘之大義ヲ講窮しなから、当時顕要之地位ニ居り奸謀を逞し、剰今度兵庫開港之儀ニ付恐多も先帝之叡旨も不顧　天聴を欺罔し奉り、我君をして勅許を要し奉る之挙ニ至らしめ、源列公之御遺志を奉し我君を輔佐し、尊攘之盛挙御施行あらしめて社至当之義なるニ、死をおしミ己か栄利を貪り苟安を旨とする件々不少、臣等之多言を待ス、国体を破壊シ天倫を滅裂シ、共ニ(トモ)不戴天賊臣等衆之所悪必ス此を誅するの儀ニ当る、上ハ先帝在天之霊ニ奉謝、中ハ君家之御辱を雪キ、下ハ衆人之所望ニ答ル也、天下有識之士幸ニ是ヲ涼(諒カ)シクセヨ、

幕府小臣

鈴木恒太郎

同　豊太郎

依田権太郎

八月十四日

落首

風もなき二百十日に原あれて首も三ツ飛板倉の門

我

皇国時運之沿革を観るニ、昔

王網紐を解て相家権を執り、保平之乱政権武門ニ移りてより我祖宗ニ至り、更に寵眷を蒙り二百余年、子孫相受我其職を奉と雖も政刑当を失ふ不少、今日之形勢ニ至り候も畢竟薄徳之所致不堪慚懼候、況ヤ当今外国

之交際日ニ盛なるヤ、愈
朝権一途ニ不出候而は綱紀難立候間、従来之旧習を改
め政権を
朝廷ニ帰し、広く天下之公議を尽し
聖断を仰き、同心協力共々
皇国を保護せは、必す海外万里ニ可并立、我国家ニ所
尽不過之候、乍去猶見込之儀も有之候ハヽ、聊忌諱を
不憚可申聞候、

十月

城内歩兵三大隊
御持筒組三百位
城外東北南 同三大隊
内一隊大砲隊
東寺 同一大隊
妙心寺 同一大隊
遊撃隊 一二大隊
見廻組 一大隊余

新選組 百位
奥詰銃隊
大坂三大隊
會・桑合千五百位

〔表紙〕

大久保日業　慶応三丁卯九月十五日ヨリ
明治元戊辰十二月十日ニ至ル

九月十五日
中将公〔久光〕大坂御出帆、
一長州へ為御使者、御同日豊瑞丸ヨリ出帆、同十六日夜三田尻へ着艦、伊東俊輔〔博文〕・品川彌次郎〔日孜〕同行、品川乗切ニテ山口へ帰ル、
一翌十七日御堀耕助早朝三田尻迄為出迎被参、同所四時出立、四字比山口へ着、今晩木戸〔孝允〕・廣沢〔兵介〕両士入来、明日昼后両君公〔慶親・元徳〕拝謁被仰付、一同モ侍席ニテ上国近情且趣意承知可致トノ段承候ニ付、就風邪気月代浴湯不相調不敬之容体、君公前ヘ罷出候儀恐入候間、万々相断趣意之義ハ諸先生ヘ篤ト申入、御伺之上御沙汰可承旨ヲ以テ固辞スト雖トモ、両寡君安心難被為出来、甚無理ナカラ、是非々々ト申事ニテ不得止イタシ、
一十八日、柏村数馬〔信〕入来、不快中大儀ナカラ是非昼后御対面被成、委曲之事情被成度両君公ヨリ御意之趣承ル、七ツ時案内者入来、大山格之助〔綱良〕同行罷出候、
一表御書院ニテ表通　御目見、奏者名披露、一応引取続テ罷出　御挨拶、御使者口上演説、此内両使之御礼御返翰不被調候御断等申上退出、扣所ヘ休息、
　於扣所宍戸備前〔親基〕・毛利筑前〔元純〕面会挨拶有之、
　宍戸備後〔璣〕介以下政府以下惣体面会挨拶、
一於御休息所　両公拝謁、政府一同侍席、委曲言上仕候様御沙汰候間、御上京以来大略御尽力之次第、幕府公論ヲ拒ミ私意増長遂ニ決策ニ及候始末、土佐後藤〔象次郎〕之首尾、藝藩憤発之次第無残処言上、就テハ御家之儀、近

年来為　皇国、艱難ヲ御一国ニ引受、数度之御戦争等天下ニ先チ御実行被為立候上ニテ、迚モ御相談モ御斟酌ニ思召候得共、京師之儀ハ一藩ニ引受斃尽シテ巣窟ヲ挫、　禁闕警衛之任可相遂候ヘ共、終ヲ継キ尾ヲ結之義ニ於テ一藩之微力ニテハ残念ナカラ見留難相付候付、折柄御末家始召命モ有之候間、御人数被差出御救応有之ニ於テハ、為　皇国大慶不過之候段申上候処、若公〔元徳〕御沙汰ニ

中将公〔島津久光〕当春以来御上京不容易御尽力乍陰不堪欣慕、尚亦委曲之形行承知益感服イタシ候、然ハ此節之御趣意一体是迄種々御建言等被為在候得共、不被行処ヨリ御決策ニ相成候訳ナラント御沙汰候間、必スシモ建言之不被行ヲ以決策ト申訳ニ無之、全体従来ノ罪跡顕然、不可救之次第ハ天下衆人所知、今般列藩之公議御採用無之ニ付而ハ、正否之御心術所分ニ有之、既ニ〔安政五年〕戊午年以来有志之諸藩力ヲ尽シ、今日ニ至リ人事モ至リ尽シ、此上傍観座視スル時ハ、他日一層之害ヲ増シ候節如何シテ可奉救ヤ、実ニ　皇国之倒ル、ヲ見ニ不忍赤心ヨリ、不得止次第之趣キニ出候儀ト申上候処、如何ニモ決策之趣意ニ出尤之御趣意云々、其余御推問モ条々被為在候得共略ス、木戸曰、実ニ不容易趣ニ相伺候、就テハ御策略之次第自ラ御内決モ可有之、如何御手ヲ被下候ヤ、曰、其儀ハ尚期ニ臨テ精微ヲ可尽候得共、大凡之筋ハ云々申演、木曰、実ニ御大事之御事ニ候、決挙之上ハ時宜ニ依〔主上〕御動座モ可被為在御儀ト奉存候、何方ニ御供奉被成候哉、曰、其節之時宜ニ依テハ、地之嶮ニ拠候事モ可有之候得共、約リ浪華ニ　御遷座被為在候御事ニ奉存候、木曰、兎角難ヲ以テ論シ不申候而ハ相済不申候、若決挙之上幕府夷ト固結シテ、摂京之間ニ難被為在、暫時僻遠之地ニ　御潜行不被為在候而ハ不叶時宜モ可有之、其節ハ何レノ地ニ　御供奉可被為在哉、曰、其時宜ニ依リテ寛急モ可有之候得共、勤王列藩之内可然地形相当之処ニ　御動座、同盟之藩々警衛時宜ヲ見合候外無之、其余細事略ス、木同席ニ向テ曰、御一同御尋問之廉ハ無之哉、吾曰、無御伏臓〔腹〕御一同之教戒ヲ蒙ラント、一同曰、ナシト、此時一同退

座、両君公御沙汰ニ逐一言上之趣御聞届被遊、実ニ不容易儀ト思召候、全体是迄為
皇国聊カ御誠心ヲ被尽候得共、精神之足ラサル故カ、
天幕之御譴責ヲ蒙リ、実ニ遺憾ニ不被為堪、依テ今日
之行掛ニテハ境外ニ出兵ト申事万々難致候得共、併ナ
カラ
朝廷之御危急ト申ストキニハ、決テ傍観座視難致段ハ
兼テ父子ノ趣意ニ有之、然ルニ不容易御大事之儀承候
上ハ、幸ニ召命ノ面目モ有之候付、末家ハ惣体病気ニ
付、家老一人ヘ聊ナカラ人数差添可差出、実ニ幣藩人
数ハ不行届者而已ニテ、迚テモ助勢ニモ不相成、却テ
邪魔ニモ可相成ト汗顔候ヘ共、其段ハ汲受呉宜敷御頼
被成候、左候而手抜ハ万々有之間敷候得共、
禁闕奉護之所実ニ大事ノ事ニテ、玉〔主上〕ヲ被奪候而ハ実ニ
無致方事ト甚御懸念思召候、返ス〳〵モ手抜ハ無之筈
ナカラ、別テ入念候様御頼被成候云々、曰、死シテ以
テコヽハ尽奉ル格護ニ御座候云々、平伏多謝、　老公
御沙汰実ニ大儀ニ思召候、此節ハ遠方迄入来為大事尽
力感佩ニ不堪、此品如何ニ候得共、差料ヲ遣ストテ御
手ツカラ短刀ヲ賜ル来国俊在銘、折紙相附　若公曰、云々、是迄
中将公御尽力之次第且御贈品之御礼等、御沙汰御両殿
様ヘ御贈品、〔珍彦旧名〕備后殿ヘ同断被進候段承知、退出、於扣
所御膳被下暫時休息、
　此間木戸・廣沢御堀（耕助）出会、尚精細ヲ談ス、船一条等
　相談有之、
亦々両君公於御休息所一同侍席、御酒・御肴等被下候
間罷出候様ト之事ニテ罷出候、御手厚御饗応ナリ、夜
半退出、
一今日伊東（藤カ）俊輔崎陽ヘ出立、

一十九日、今日迄ハ滞在イタシ、是非諸事談合可致トノ
段承候得共相断候、昼后ヨリ宍戸備（洩）后介・柏村・木戸
廣沢・御堀参集、別紙条約書相渡、用談終而及離杯、
七時時分ヨリ旅宿ニ引取各見立有之、早駕ニテ山口表
出立、
一宮市之駅ニ而植田乙〔広島藩〕次郎今朝着ニテ、通行ヲ待受相成

居立宿ニ入来有之、委細之儀承知いたし度トノ事故、京師辻〔将曹維岳旧名〕へ引合等ノ始末、山口表談合之次第細事相噺候処、別而安心ノ由ニテ何モ異条無之候、夜半迄委事ヲ談シ三田尻へ着いたし、

一廿日、今日九時乙丑丸〔長藩汽船〕へ乗船、十一字過開帆品川船迄見送有之、

一大山格之助〔綱良〕十九日発足、

一廿二日、朝摂海へ着船上陸、

一廿三日、京着同日西郷〔吉之助〕辻将曹へ差越建白差出度旨相談有之、云々相答候事、

同廿五日辻参ル、長州形行委細相噺置候事、

同廿七日比再度後藤〔象二郎〕ヨリ建白差出之相談有之旅宿へ入来、

一土佐建白之儀差出サセ可然及勘考候間、病中故吉井〔幸介〕へ談シ、小大夫〔小松〕・西郷へ其趣ヲ通シ可被呉旨相談ス、

同廿八日土建白差出、異論無之旨小大夫〔小松帯刀〕ヨリ返詞相成候事、

一十月四日、品川着〔彌二郎〕今日比土建白被差出候、

一同五日、中卿〔中御門経之〕ヨリ早々可参之旨申来ル、依テ参殿之所御密話拝承、辻将曹〔維岳〕異論云々之趣、

一同六日、品川同道岩倉〔具視〕・中卿之御別荘へ参り、岩・中両卿へ拝謁、両藩之国情ヲ尽シ言上いたし、秘中之御話奉伺候事、

一同夜植田乙次郎〔常戡〕・廣沢兵介〔真臣〕着、今夜会評云々、

一同七日、廣沢藝藩へ差越云々ノ議ヲ談シ、明日三藩来会議ヲ約シテ帰ル、

一八日、藝藩辻将曹外両人、植田乙次郎・寺尾庄十郎・廣沢兵助（真臣）・品川弥次郎・小大夫（小松帯刀）・西郷会集前議ニ復ス兼テ中卿（中御門経之）御亭ニテ山卿（中山忠能）ヘ廣沢同道拝謁ノ筈候処、今日三藩決議ニ及候付、植田乙次郎ニモ同道可然申談、別紙左ノ通持参、三藩之国情決定ノ次第及言上、

要目

一三藩軍兵大坂着船之一左右次第、

朝廷向断然ノ御尽力兼テ奉願置候事、

一不容易御大事之時節ニ付、為

朝廷抛国家必死之尽力可致事、

一三藩決議確定之上ハ如何ノ異論被聞召候共、御疑惑

被下間敷候事、

右差上候処別而御安心相成候、乍去是非一藩ニテモ君公御上京之処、中山卿ヨリ再三御沙汰被為在候事、

一今晩廣沢早々発足、

一同九日、今日岩邸（具視）ヘ参殿、昨日ノ首尾言上云々、今晩福田侠平（公明）京着時期見合ノ示談云々、廣沢呼返シ之飛脚差立ル、

一十日、今夜半廣沢再上ニテ、福田熟談ノ上承候趣ハ、是迄種々ノ喰違ヨリ兵気モ鈍り候付、一トハツミヲヌカシ、尚ホ御互ニ引締リヲ付、改而十分ヲ尽シ度趣意ニ於テハ、万々動揺ノ訳無之趣承ル、

一十一日、小大夫（小松）・西郷早天熟評、一応帰国委曲ノ形勢ヲ申上、出兵ハ勿論御出馬（茂久）ノ英断ヲ奉願、内外一途ノ本ヲ尽シテ早々大挙謀ラントノ議ヲ決ス、仍テ廣沢ニモ其趣ヲ以テ答フ、三田尻ヘ出兵人数着船いたし候節夫形召置カタク候付何分報知イタシ候迄ハ滞船いたし候様、村田新八（経満）申含被差立、

一十二日、昨十一日豊瑞丸大坂ヘ着船ノ報知今日相達ス、今七ツ時三島弥兵衛（通庸旧名）着京、委曲ノ事情相分ル、

一十三日、昼后北岡公(岩倉具視)へ参殿云々之義拝承、廣沢同道今晩参殿、山卿より御渡之筈候得共云々付、同卿ヨリ御渡相成候趣ヲ以テ、秘物ヲ廣沢へ下シ玉フ、小臣へも一品ノ秘物ヲ下シ玉ヒ、肝要ノ御品ハ明朝正三卿(正親町三条実愛)ヨリ云々、両人感涙無他、

一今日二条城へ諸藩重役国事関係之者ヲ被召、朝廷へ政権返上、天下之公議ヲ尽シ、聖断ヲ奉仰云々、御書取拝見被　仰付候、御国ヨリ小(小松帯刀)大夫御留主居附添(新納嘉藤次)ニテ登城云々、

我皇国時運之沿革ヲ観ルニ、昔王綱紐ヲ解テ相家権ヲ執リ、保平之乱ヨリ政権武門ニ移リシヨリ、我祖宗ニ至リ更ニ寵眷ヲ蒙リ、二百余年子孫相承、我其職ヲ奉スト雖トモ、政刑当ヲ失フ不少、今日ノ形勢ニ至リ候モ畢竟薄徳ノ所致不堪慚懼候、況乎当今外国ノ交際日ニ盛ナルオヤ、愈朝権一途ニ不出候而ハ綱紀難立候間、従来之旧習ヲ改メ、政権ヲ朝廷ニ帰シ、広ク天下ノ公議ヲ尽シ、聖断ヲ仰キ、同心協力共ニ皇国ヲ保護セハ、必ス海外万里ニ可并立、我国家ニ所尽不過之候、乍去猶見込之儀モ有之候ハヽ、聊忌諱ヲ不憚可申聞候、

十月

一十四日、辰刻正三卿へ参殿、秘物拝戴、尚亦北岡公へ参殿、

一今日徳川公奏聞、別紙被差出、

前文略ス、　共ニ

皇国ヲ保護仕候得ハ必ス海外万里ト可并立、慶喜国家ニ所尽是ニ不過と奉存候、乍去猶見込之義モ有之候ハヽ、可申聞旨諸侯へ相達置候、依之此段謹而奏聞仕候、以上、

十月十四日　慶喜

右所司代松平越中守(定敬)ヨリ差上ル、

一十五日、徳川内府公参（慶喜）　内、左之通リ、

勅答

祖宗以来御委任厚　御依頼被為在候得共、方今宇内之形勢ヲ考察シ建白之旨趣尤被　思召候間、尚天下ト共ニ同心尽力致シ、

皇国ヲ維持可奉安宸襟候事、

同日

諸侯御呼出ニ而御達左之通、

別紙之通被　仰出候付而は被為在

御用候間、早々上京可有之旨　御沙汰候事、

同日御達

大事件外夷一条ハ尽衆議、其外諸大名伺被　仰出等ハ朝廷於両役取扱、自余之義ハ召之諸侯上京之上　御決定可有之、夫迄之所徳川支配地市中取締等ハ、先是迄之通ニテ追而可及　御沙汰候事、

一十四日（六カ）、小大夫（小松帯刀）登城内府公拝謁、尚亦委曲言上有之、

左之五ヶ条ヲ決ス、

一政権返上之儀早々於

朝廷被　聞召候事、

一長防御所置御初政ニ　御沙汰之事、

一賢侯御召、

一征夷将軍職返上之事、

一五卿一条、

右之外諸藩来会之上万事御決定被為在候様、今日正三卿ヨリ秘物降下、御受書奉差上候様承知いたし候付、

一当節不容易御危急之砌、為

皇国不被為顧忌諱御内々御尽力、確定不抜之

叡慮被為伺取

勅書降下、両藩深　御依頼被為

思召候御旨趣奉謹承、卑賤之小臣等不奉堪感激流涕奉存候、早々寡君江御報知決定之宿志益以貫徹仕、抛国家堂々大挙仕可奉安　宸襟候、此段盟天地御受仕候、誠惶頓首、

慶応　　廣沢〔兵介〕

福田〔侯平〕

（彌二郎）品川
（帯刀）小松
（吉之助）西郷
（一蔵）大久保

（忠能）中山
（三条実愛）正親町
（経之）中御門
（具視）岩倉

右一通御受書奉差上候様承知いたし、中御門へ持参、御一覧之上岩公へ持参、同公ヨリ正三卿・（中山忠能）山卿へ御伝可相成トノ事、

一十七日、京地出立、

一十八日、滞坂（十九日藝船万丸ヨリ出帆）、

一廿一日、夜三田尻着船、

一廿二日、昼時ヨリ小大夫・西郷山口へ赴ク、

一廿三日、夜七ツ過出帆、

一廿五日、航海、

一廿六日、十二字着船（鹿児島）、直ニ出殿、（茂久）大守公二丸江御入御、両殿様江小太夫・西郷三人一同拝謁逐一言上、

一廿七日、於宮之城（島津図書久治宅）衆議、

一廿八日、桂太夫（久武）・小太夫（小松）両君公（茂久・久光）へ拝謁、衆議一定之形行言上相成ル、

一廿九日、太守様御上京御決定、来月四日御首途、同八日御発駕ト被仰出、

一十一月朔日、云々御沙汰ニ付、小太夫江桂太夫・西郷

同道参集議論云々、

一長崎より軍艦廻り候義延引ニ付、十三日ニ　御発駕延引ニ而候、（春日丸）

一八日、晩軍艦着、

一九日、明日出立相決、

一十日、晩豊瑞丸へ乗船七字開帆、

一十二日、十二字土佐浦戸港へ着船、四字比城下江至ル、（高知）

一七字比後藤象次郎旅宿江入来ニ付、　御両殿様より御口上云々演説、容堂公来ル廿三日迄ニ御発船之御内定之旨云々承ル、後藤十七日ニ発船云々、今晩直ニ開帆、（象二郎・元晴）（山内豊信）

一十四日、大坂江着船、

一十五日、着京、

一十六日、北岡公へ参ル、秘物云々ニ付御内慮云々申上ル、

一十七日、中卿へ参殿同断、

一十八日、正卿へ同断、

一十九日、北岡公弊宿へ入来云々相談ス、

一廿日、成瀬面会、（隼人正）

一廿一日、田中国之助・丹羽純之助入来云々相談ス、（尾州藩士）（同上）

一廿三日、太守公御着京、（島津茂久・忠義）

一廿四日、晩北岡公入来、御草稿拝見云々承知、

一廿五日、於岩下家評議、　飛脚今日被差立、（佐次右衛門）

一廿六日、品川江云々相談、　北公江参り評議之趣云々申上ル、御質問云々、

一廿七日、朝正三卿へ参殿云々申上ル、今朝岩邸へモ参ル、山卿モ云々也、

一今日昼后依御招越前邸へ参上、老公〔慶永〕拝謁被　仰付、御質問云々、答云々、内府公御趣意無御動揺云々、後藤モ御招ニ而議論云々、會〔会津〕ハ合力同心云々、中根〔毅負〕・酒井〔十之丞〕侍座、

一廿八日、中山卿へ参殿、御内使云々演説、機事云々申上ル、今日於宮中正三卿御談合云々、岩卿へ参殿云々御談シ申上ル、

一廿九日、今朝正三卿江参殿、昨日　宮中御示談之趣拝承仕候所、少々因循之御説相起候付篤ト及言上候処、御会得被為在、今晩北岡公一同山卿〔中山忠能〕亭ニ而尚御談合可被遊旨之事也、

○御旨趣左右大臣〔㊀近衛忠房大欽御門家信〕モ御辞表相成、於関白〔㊁二条斉敬〕モ御同様之思召故、其上此手順通相運候得ハ、漸ヲ以成シ居合モ可然旨云々、我曰、於両卿右様御決定被為在候得ハいたし方無之、乍去今般修理〔茂久〕大夫挙国家上京仕候段ハ、此機会十分之

王政復古之基本ヲ立度旨之見留ニ而、是非断然之尽力ニ非サレハ成功難致、平々之尽力ヲ以御基本相立候事ハ不存寄候、御旨趣通之御手順ニ而ハ中々成功候儀ニ無之、況乎兵庫港ノ事、来月初旬ニハ各国軍艦モ到来可致候得ハ、其内ニ神速御運不相成候而ハ実ニ御大事ニ奉存候、今般両三藩大兵ヲ引上京仕候義ハ、偏ニ朝廷ニ御兵力ヲ備、至理至当之筋ヲ以、基ヲ開、反命之者可掃蕩之決心ニ候、如此一大機会ト云モノハ、千載之一時ニ無之哉之旨ヲ以、於

朝廷モ、克々御洞察、是ニ応したる非常之御尽力無御座候而ハ、大ニ失望可仕事ト奉存候云々申上ル、終ニ御了解ニ成ル、

一北岡公江参殿右之趣具ニ言上、尚今晩断然御評決被下

度奉願候、別而御満足ニ而候、
一今晩西郷・伊地知（正治）会ス、
一尾州中村修之進入来、従老公（慶勝）御使者
御脇差白木入　一腰
手綱　五筋
被下候段、留守中ニ被参候由、

一晦日北岡公へ参、昨夜御会議之次第拝承候所、中山卿云々異論有之、則山卿へ参殿之処、両度御留主ニ而候、

十二月朔日

四ツ時中山卿へ参殿、御趣意相伺候処、因循之御論相立居候付、反復御議論申上及数刻候処御了解被為在、此上ハ外三卿御合力ニ而、御尽力可被遊段拝承いたし大ニ安心、就而ハ御決定之上ハ、土後藤江（象二郎）示談云々申上候処御許容相候成、
一今晩北岡公江形行申上候、
一今晩吉井所ニ而（㊟市之丞）山田（品川変名）・橋本江云々談ス、

同二日

今朝正三卿へ参殿云々相談ス○北岡公江参候処、中御門御出云々申上ル、一時ヨリ西郷同道後藤へ参示談之上大ニ雷同、依而八日之期日相立、則北岡公へ言上、亦々後藤へ参リ其由ヲ告ク、後藤云々夜八字帰ル、

一三日、今朝北岡公江参殿、後藤江就御逢云々御談申上候所、則正三へ今朝中山・中御両卿御参集之賦候付、早々差越候様御沙汰ニ而則三卿へ参殿候得共、両卿御引取后正三卿御逢相成云々申上ル、
藝櫻井（元憲）與四郎西之宮云々ニ付入来、（㊟嘉藤次）（㊟仲之助）新納・内田入来、
今晩（㊟長蔵）税所上京、

一四日、今朝北岡公へ参殿、中卿モ御出、八日期日云々付言上候処、山卿へ申上候様承知、晩景参殿及言上候処、大ニ御異論有之、反覆申上候而八日ニ御決定、内実ハ九日迄ノ処ニ御決シ、今夕岩下家へ西郷・伊地知・吉井参集会議、今日後藤参ル、

一五日、今朝北岡公へ参殿、後藤拝謁被　仰付義ニ付云々申上ル、則正三卿へ参殿候様ニ付早々参殿候所、中御門卿御出付一同拝謁被　仰付、後藤江御答振云々申上ル、小生江も山卿へ参殿候様被仰付、一応北岡公へ参殿形行申上、午刻山卿へ参殿候処後藤モ参殿致居、山卿正三卿一同ニ而御拝謁被仰付候云々、

御内諭共ニ退出、直様出殿形行及言上候、

一六日、今朝岩邸〔岩倉〕へ参殿、昨日中山卿参殿之形行、且今日昼后後藤岩卿へ参殿之一条申上ル、亦々中山卿へ参殿云々申上ル、今晩北岡公御出、岩下君（本ノマヽ）・西郷・吉井・伊地知参集及談話候、明後八日期日ニ候処後藤歎願ニ付、九日ニ延引可相成ト之有無段々御苦心ニ而、山卿云々付八日之所六ケ敷トノコト也、

今日長防之事件朝議ニ而會（松平容保）云々、戸田云々、梅沢（孫太郎）云々、

一七日、今朝山卿へ参殿致候処、八日期日云々甚六ケ敷、出殿之上北岡公へ参ル、是非八日ト思召候得共、就御内議無御拠次第も有之被延候、

於二条家防長御所置一条段々六ケ敷、藤堂藩等大ニ論シ候由、

一八日、今朝より中山・北岡公へ数返之参殿、今日防長事件且兵庫開港一条、五卿幽閉堂上一条等御評議、列侯参　朝見込御下問、徳川内府公ニハ異論無之候得共、會・桑・藤堂紛議有之由、秘事相洩候模様云々、両卿御恐怖奔走及説得候而徹夜致ス、卯刻期限も終夜之朝議故不得止、明日　朝議御退散次第ト相決候、

一今日中山家ニ於テ御国ヨリ尾藩両人誘引、土佐ヨリ越前誘引ニ而御用有之段承知仕候処、中山卿正三卿参朝故岩倉へ参殿候御沙汰ニ而罷出候処、明日参　朝被命候御達書御渡也、高崎（正風）・井上（矢八郎）召呼、山階宮（晃親王）　仁門公（仁和寺宮）へ申上候儀及示談候也、

一九日、今朝岩倉公、中山公へ参殿、御断決相進候、四前朝議退散之一左右有之、直様岩（岩下）・西（西郷）同道参　朝致候、

兵士之義も追々繰出シ、　君公(茂久)三字比御参　朝、御台所御門門ニ於而、御催促之

勅使岩倉太夫(具定)殿御行逢相成候、尾公・越公・藝公ハ昨夜より御退散ナシ、九門内人数繰込、瞬息之間御台所御門・公家御門(土佐人数延引故此方より受持)日御門内外相固、乾御門ヘハ預備隊大砲押立整々ト相備、且的之間我兵ヲ以　禁闕警衛之様未曾有之壮観、見ル者胆ヲ失フ、追テ藝・土繰出、別而厳重相固候次第也、容堂公ハ昨夜御着故四時比御参也、

一會・桑直様二条城ニ登城、其マ、退城無之惣体入込ミ候由、

一有栖川宮(熾仁親王)・山階宮(晃親王)・仁門公(嘉彰親王)・中山(忠能)・中御門(経之)・大原(重徳)・万里小路(博房)・長谷(信篤)其余有志公卿尽ク御参也、

一今夜五時於　小御所御評議、越公・容堂公大論、公卿ヲ挫キ傍若無人也、岩倉堂々論破不堪感伏、　君公(茂久)云々御議論、容堂公云々御異論不得止、予席ヲ進ミ云々及豪論候、後藤中ヲ取而論、越・士之論、直様慶喜ヲ被召候ト之趣ニ而、全扶幕之論也、一応御勘考御退座、其内後藤ヨリ予ニ云々談論有之候得共、兼而決定之国論ヲ以敢不動、越・尾終ニ御受ニ而、二条城ニ御行向御尽力御決相成候、再度於　小御所御評議、尾・越ヨリ御受被為在候、三字比尽ク　御退散、

一十日、四時御参　朝、尾公・越公暮時分御参、越公入夜御参、城中之次第下鎮撫難行届、後藤より亦々相談ニ預候得共、断決ヲ以答フ、其内反復之論有之、種々及詰問候処、甚マギラハシキコトのミ終ニ閉口、形行越公(慶永)ヘ言上候所、非常之御決断被為在、予ヲ被召、明日以死二条城ヘ御登城、御尽力可被為在段御沙汰実不堪感服次第也、於　小御所御評議八時御退散、

一十一日、四時御参、尾公入夜御参、君公(島津忠義)御参ナシ、

一十二日、御参藝公御参、尾公入夜御参、予ヲ被召、今日城中之御尽力云々、會・桑ヲ引下坂御受書等之次第云々承知、於小御所言上云々、

一十三日、四時非蔵人口へ参、北岡公ヨリ第一等・第二等云々談合候様承知、於邸中岩・西談合、亦々参内及返詞入夜退散、亦々夜半依　召参　朝いたし候、

一十四日、今日土・越御参、北岡公ヨリ華城之次第云々御詰問、　小御所御退散之上云々御内談、且人材御撰挙云々、城中密議云々、北岡公ヨリ承知、於御邸岩・西・吉・品会議決定、西・品同道北岡公江参殿及言上候、

一十五日、今朝北岡公へ参殿、撰挙一条云々御尋ニ而云々申上ル、且尚亦城中之次第有之、長上京云々ニ取究申上候様承知、於邸中岩公・西・品談合、同道非蔵人口へ出北岡公へ云々申上ル、十二字比参　朝、後藤云々引合入夜退散、

一十六日、今朝北岡公へ御封中云々御答申上候、十字比参　朝、

一十七日、四時参　朝、外国御布告一条御評議有之、草稿此方ヨリ差上一同無異論、徳川内府公へ御沙汰之御草稿、後藤持参ニ而北岡公へ差上、此通ナラテハ迚モ難被行、若御採用無之候得ハ、帰国御暇申上候外無之トノ容堂所存ノ段言上云々、御返詞云々之御内話承ル、今夜君公ヨリ被召候、

一十八日、今朝岩倉公へ参殿、御布令一条断然御決断被為在候様言上、出殿、　御下問之御書面へ御下札ニ而被差出候様取計、十一字比参　朝、御評議ナシ、三字比退散、

一十九日、今朝岩太夫入来、外国布告一条後藤ナト御断故尚申談、是非推而被　仰付候様、御参殿之上亦々入来、同道参　朝、御布令御連名等御評議、明日午刻御参　朝被為在候様云々、今晩九字比退出、

一廿日、四時参　朝、御布令御加判トシテ　太守公一字

比御参　朝、尾公御参御布令一条御異議有之、越公・土公・藝公御異論之建白有之、今日御加判無之御退散被為在候、

一廿一日、参　朝無故、

一廿二日四時参　朝、今日尾老公ヨリ御下坂御暇願有之、廿五日迄ヲ期日ト御定御達之御紙面御下ケ相成、

一廿三日、今朝岩倉公へ参殿、尾・越・土・藝参　内、四時ヨリ出仕、太守公御不参、今日ハ華城御紙面一条ニ付御評議不決及徹夜、

一廿四日、暁天退散、八字比岩倉公ヨリ尚亦華城へ御達之御紙面取調、不可動之決極ヲ以認差出候様被　仰付、岩大夫申談草稿シタ、メ差上、屹と御確定被為在候様紙面ヲ以申上、三字比ヨリ参　朝、御草稿参与中江拝見被　仰付、十二字御評議被為済、御紙面御決定被為在候、退散、

一廿五日、十字比岩倉公へ参殿云々承知、御邸へ出、西・吉・伊（正治）地知談合、四字比ヨリ参　朝、岩倉公へ拝謁云々、明后廿七日四藩調練、就

叡覧日御門前見分イタシ候様承知、非蔵人立会見分イタシ八時比退散、

今朝長山田・世良（修蔵）入来、

一日御門前ニ於テ土・藝・長・御国四藩調練、

叡覧可被遊段被　仰出候、

一廿六日、十一字比ヨリ参　朝、

一五卿此日御着阪、今日川御登、明日御着京之由、

一廿七日、今日於日御門前長藩・土藩・藝藩・御国調練於

叡覧被遊候、巳刻揃ニ而午刻始り、御国人数千五百人出、御直ニ行軍ニテ日御門前通り、於

御覧所一同拝伏、終而南門ノ方へ引、夫ヨリ土佐調練二小隊、次藝藩四小隊、次ニ長藩一大隊位、次ニ御国也、別而壮観也、大ニ感動スルニ至ル、日暮終ル、

一今日三条前中納言(実美)卿外四人御帰洛、直ニ参　朝相成候事、

右議定職

三条前中納言(実愛)
宇和島(伊達宗城)少将

右上之参与

東久世前少将(通禧)

学習院儒

中沼了三(了之舞)

長州

廣沢兵助(真臣)
井上聞多(馨)

右下之参与

前書之通被　仰付候思召ニ付、此段一応　御沙汰候事、

十二月

即夜三條公議定、東久世公上之参与被　仰付、御受相成候由、

一廿八日、今朝岩倉公へ参殿、明日條公会議之一条云々承知、今日不参、昼後西郷方へ差越、岩下氏・吉井入来、

一今日平運丸ヨリ飛脚被差立問合差出候事、

一御国元ヨリ之同断飛脚相達、蓑田(伝兵衛)問合参候事、

一廿九日、辰下刻比ヨリ岩公・西郷長両人同伴、條公へ参殿、正三卿・岩倉卿・東久世卿御来会、御内評有之、

一今夜岸良(七之丞)入来、

一晦日、海江田(武次)へ清水一条談ス、

今日就不快不参、

今日越前公御帰洛御参　内、徳川氏両事件御受相成、上京之儀ハ　御沙汰被成下度候様ト之趣、言上相成候

ト之趣承、尾公廿八日就御所労御帰京之由、

戊

正月元日、雪降、

今日迄ハ所労ニテ不参、

江戸表〔芝藩邸〕御邸変事之次第、大坂町便ニ而、飛脚屋等之紙面相達、晩景西郷〔隆盛〕へ差越、

二日、今朝自岩倉〔具視〕公被召候ニ付西郷へ託ス、十字比岩〔方〕下氏〔平〕へ差越、西郷モ来ル、外国御布令一条云々朝議六ケ敷、乍去是非今日御決議可被為在候付、草稿相認差出候様と之事ニ而左之通、

政権返上被　聞召候上ハ、外国交際之儀、於　朝廷条約御取結可被為在候儀当然候間、百事御治定之上御談判之品モ可有之、差当リ

王政ニ被為復候御廉御布令被遊度　思召候付、兵庫滞留各国公使京地へ御呼登相成候間、是迄之手続モ有之事候付、上京候様可相達御沙汰候事、

但日限之義、来ル十日限上京候様被　仰付候、御受之届早々可有之候、

右一通岩倉〔具視〕公へ持参、尚亦御談決之事言上候、今日ハ於九条〔尚忠〕家　朝議被為在候付、第一徳川家へ御達ノ儀専要之事候間、評議御承知被成度と之御事候、會・桑帰国之次第モ有之候事付、是非右取計之上、上京候様御達可然旨言上イタシ、尚西郷へ参長両士へ参ル、留主ニテ西郷同道九条家へ出仕、

一外国御布令一条、断然別紙草稿通御決議ニ而、下参与中江モ被相下異論無之候、

一徳川氏江會・桑帰国取計候上上京候様ト之趣、御紙面是以下参与へ被相下、土藩肥后其余参与異論有之伺相成候、初夜退散、

一三日、昨日来之次第熟慮候所、関東〔芝藩邸〕変事一条モ有之、必ス徳川慶喜趣意有之上京無相違、且土初ノ形体甚不審、今日ニ決セスンハ大事差迫ルハ案中ト存、戦ニ決スル紙面相認、　朝廷二大事ヲ被為失、既ニ三大事ヲ

失ハセラレントスル危迫之得失、明白シタヽメ西郷ヘ及質問候所、伏見ヨリ報知有之、早々出殿候様返詞有之則出殿候所、昨日来坂兵會・桑等大兵戎服ニテ大砲小銃押立、追々着伏、押而入京候ハヽ、不得止及防戦候段届相達候由承ル、

一伏見応援二ノ手早々繰出相成候事、

一岩倉公ヘ参殿、断然　朝決可被為在必死言上、且愚考紙面差上候、

一土・長御国人数三藩ニテ於伏見坂兵ヘ引合、何様之訳ニ而御出張ニ相成候哉相尋候処、彼云徳川氏就上京先手被命上京イタシ候、我云、成程御先手之命御受相成候共、

朝命之旨有之警衛イタシ候付、御上京ノ義何分朝命有之迄ハ御扣有之度、若押而御通行候得ハ相応御会釈可申上云々、彼云、尚徳川役筋之者ヘ相談、何分可及御答ト云々、

右旨相達候事、

一外国江上京被命候義断然御施行之事、

一伏見迄大兵繰出シ、且會人数黒谷江追々クリ出シ入候付而ハ、叛逆不可疑候付、

禁闕江警衛土・尾・藝・御国江早々改而御沙汰之事、

但兼而四門警衛蒙命有之故也、

一仁和寺宮〔仁門〕公江早々征東将軍之命ヲ下サレ、今日ヨリ戎服ニ而

禁闕警衛之人数指揮被為在、伏見一左右次第御進軍之事、

但進軍之節節刀ヲ給ハリ、錦旗ヲ飄シ官軍之威ヲ輝シ候事、

一高野山屯集之官軍華城江進討可責落命ヲ被下候事、

但紀州江同断御達、本文官兵合力同心王事勤労イタシ候様、

一備州・因州江徳川叛逆之色相顕、追討被　仰付儀も可有之候間、於本国用意イタシ、事有ルノ日王事勤労可致、早々御達可有之事、

一列藩江大ニ御布告之事、

一平戸・大村・佐土原、藝・因・備・彦根江東兵防禦被

命候事、

一尾・越江　禁闕警衛被命、人数及不足候ハヽ、早々国兵クリ出シ候様、

右参　朝之上岩卿・三条公・東久世公へ差出、尚言上イタシ候処、有栖川宮(熾仁親王)へ早々言上候様被　仰付、則参殿言上候処、一々　御同意被為　在候事、

早々参　朝、右次第條公へ言上、

一尾・越・土・藝・宇和島公参　朝、君公(茂久)御同断、

七時分鳥羽街道戦争ニ及候段報知有之、伏見も同断之事、

一追々官軍勝利賊退散之注進有之候事、今夜徹夜、

一四日、昨夜寸時モ座スルコト不能、

一今朝来鳥羽街道危急之由風説有之候得共、四過益満・田中清右衛門(綱紀)報知有之、全虚説ニ而三度之戦争賊徒敗北之事、

一昼時分鳥羽ハ賊徒打散ラサレ、伏見も同断之由注進有之、

一今日四条(隆平)卿山崎江為　勅使被差立候事、

一五日、淀之合戦烈敷、昨日之残兵亦々鳥羽口迄迎出、暫時ハよほと苦戦之由候得共、終ニ味方勝利と成賊敗走ス、淀にも溜りかね八幡ニ走ル、

一淀之賊兵退散、城中ハ点検ヲ受ケ官軍ヲ迎候事、

一六日、八幡之合戦薩・長兵相合砲戦、賊遂ニ敗走、山崎固メ藤堂勢　官軍ニ属シ、前面ヨリ砲発ニ及候故大ニ賊潰走、八幡ニハ若州勢・宮津勢相固、要所ナレハ賊手配厳重砲台等築造、此ハ取ラレテハ不相成トノ評議ノ由ナレトモ、長薩山ノ後ヨリ関門ニかゝり砲発、藤堂ハ前面ヨリ打立候故争テカタマルヘキ終ニ敗北、八幡前橋本之戦も相応烈敷候由、

一三日ヨリ今日迄四日之連戦昼夜ニ掛苦戦、土・藝ハ一日位戦候迄ニ而、薩長両藩ニテ全クノ勝利ト相成、実不可謂之苦戦ト云ヘシ、初戦ヨリ一日モ敗走無之、寸歩モ退タルコト無之、四日之間大石ヲ千尋ノ嶺ヨリ転

スルカ如勢ト可申、凡賊兵會・桑・備中・松山・志州・大垣・高松等之人数ニ而、合二千余ニも及候半、元ヨリ會・桑暴徒頼切タル人数尽ク打散サレ、実大愉快ニ堪ヘサル次第也、

一今日於
御所、徳(実則)大寺様ヨリ征東将軍宮思食ニ而、東久世卿・烏丸(光徳)卿ヨリ御書面、議定衆江御到来之由ニテ拝見被仰付、其趣小子参謀被仰付度トノ事ニテ、差支之有無御尋ニ而候間岩下氏へも相談、何も差支無之旨御答申上候所、早々東寺江罷出候様御沙汰ニ而、今晩五時分ヨリ東寺　御本陣ニ参向、直ニ　宮御前江被召軍事参謀申付ルトノ　御沙汰ニ而謹テ御受申上ル、

一七日、将軍宮(嘉彰親王)淀城江御転陣ニ付、今早暁御先江差越城中手当旁相達候、昼過　宮御着陣被為　在候、

一東久世卿・沢(宣嘉)卿為御巡見八幡・橋本御出ニ而、小子随従差越候、戦地悉ク巡見ニ而、暮時分帰ル、途中戦地之次第屍未其儘ニ而、最モ所々焼失目モ当ラレヌ有様也、

一八日、巳刻比ヨリ八幡辺戦地為　御巡覧、　宮御出ニ而錦ノ御旗ヲ被飄威風凛烈、誠ニ言語難尽心地ニ而候、老若男女　王師ヲ迎候而、難有〳〵といえる声感涙ニ及候、　八幡宮へ御参詣、八幡関門迄被為向、長薩隊長被召、戦之次第御尋問被為在候、

一今朝越前藩両人我陣営ニ来、吉井・伊地知(正治)江引合候趣、於大坂従城中呼出有之登城候処、目附妻木某(多宮)ヨリ徳川慶喜始會・桑東退ノ趣遂　奏聞候ニ付、何分早々薩長先鋒江通呉候様承候ニ付参候等ノ由ニ而、奏聞写持参之由ニテ吉井ヨリ御届申出候、依之小子朝廷之御模様弥越ヨリ御届相成候哉、為伺早馬ニテ引取直様参　朝相伺候処、未御届無之今夜半　奏聞書越ヨリ差出候由、今夜岩倉公ヨリ小子参謀御受、朝廷ヲ迦レ候義ヲ大ニ御叱リ、是迄相共ニ謀リ死生ヲ共ニ致シ度思召候、今
朝廷如此御大事之砌跡ヲ如何致シ候ヤ、一応不伺御受

之義甚御不満ノ由ニテ御落涙ニ而、懇々拝承平ニ御断申上候、

一九日、今早朝岩倉卿へ参殿、御紙面御認相成候、九時ヨリ参　朝、三条公(実美)外国掛東久世(通禧)卿同断之儀尚亦言上候、今日評議不相決候、暮過ヨリ退散出殿、

一十日、十時比ヨリ参　朝、

一土佐江豫州松山一手追討、藝州江備中松山追手被命候儀等御内諭御評議有之候事、

一華城焼失之段注進有之、全残徒之所為ニ無之地雷発候トノ事、

一賊慶喜紀州へ入候トノ評判有之、

一大和筋残徒所々相屯趣説モ有之候得共、凡而敗走関東江逃返ル者ヲサシテ云説也、

一暮時分退散出殿、

一十一日、昼時分参　朝、外国布令就遅引三条公・岩倉公へ云々言上之所、早速岩下氏今日発足之都合御運相成、後藤ハ明后朝発之賦、三条公ハ先御下坂無之、東久世公御下坂故外国掛ニ而御取扱有之候筈、

一大垣へ會楯籠筈トノ風説有之候得共説ニ而候、

但及探索候処先虚説之方ト相聞、大垣侯十二日発足、十六日着京之筈候旨承得候事、

一十弐日、今日昼時分ヨリ参　朝、依　召太守公御衣冠ニ而御参　朝、為拝天顔於　御前御剣一振拝領、被賞戦功候御書面云々、叡感不浅旨御承知被遊、誠ニ恐悦之至ニ候、

一戦死之者ヘハ葬送ヲ厚スルノ用トシテ、金五百両且設一社、永神祭ヲ以テ忠魂ヲ祭セラレ候　思食之段、同断　御書面御拝領被遊候、

一土佐・藝州同様之事、

一備前・因州・藤堂及戦争候付重役被召同断之事、

一越公(松平慶永)・宇和島公(伊達宗城)・細川世子(喜静)公応召上京、尽力之廉ヲ以御褒賞之由、其外小藩之向モ段々有之候事、

一細川世子侯議定職被命候事、

一備前戸倉修理介（土倉正彦）ヨリ相談承ル、左之大意、

昨十一日カ備前之義、兼而西ノ宮警衛被　仰付、家老日置帯刀出張トシテ兵庫通行之節、夷人行列ニ立障再三制止候得共、不聞入押入不得止及切害候由、然処彼数百人銃隊ヲ以テ押来砲発致シ候云々トノ趣相達、甚及心配内談トノ事候得共、慥成報知ニ無之トノコトナレハ、兎角確証ノ報知有之候上、尚御話可申上段及返詞候事、退散後出殿、

一十三日、自今日九条家（道孝）江参仕之事、同家江太政官代被召立候、

一大守公戦死之者墓所江被為臨、昨日従朝廷就御達御紙面拝聞之為焼香御祭被下候事、

一備前兵庫ニ於テ夷人切害一条大坂ヨリモ申来、備前方ヨリ十人位逃去候夷人ヘ砲発致シ、夫ヨリ夷人大ニ激シ銃隊ヲ以砲戦ニ及候由、尤夷人ハ英国ノ由、

一今朝従太守公被召候付罷出候所、三所物（獅子ノ細工、地赤銅、目貫金）御手拝領被　仰付　御意之趣今般如此次第ニ相及、昨日従　朝廷　御褒詞被為蒙候儀難有被思召候、畢竟此ニ至り候も其方共尽力ヲ以テノ故ト思召候、尚御考も被為在候得共、当座之褒賞トシテ被下之　御沙汰奉承知、絶言語難有次第ニ而候、

一太政官代ニ於テ三職ノ科ヲ分チ、職掌之次第治定之御紙面被相下候事、

一尾張御暇之事、

一奥羽大名江逆徒追討被命候事、

右三ヶ条下参与中江御下問被為在候事、申刻退散出殿、暮前退出、

一十四日、巳刻参仕勤王ノ列藩江諸藩取調、且徳川領地等取調、其余大坂等之儀御調ノ一紙御下問之コト、申刻退散出殿、今夜山階宮（晃親王）ヨリ被召非蔵人口江罷出候事、

一十五日、今日

主上御元服（睦仁・明治天皇）　御加冠（邦家親王）伏見宮　御理髪、正親町三条卿無御滞被為済候由、

一四時ヨリ出殿、初夜退散、

一十六日、昨日御大礼ニ付今日君侯方御参賀、　大守公御参　朝、紫宸殿　清涼殿　御飾物御拝見被為在候、

一巳刻比参　朝、下参与中同断、　御飾物拝見被　仰付候、今日飛脚被差立書状差出、

一十七日、今日総裁宮（熾仁親王）ヨリ参与三人之内、就御用参殿候様被　仰付、小子参殿候処左之通、

一三日以来為　皇国尽力、今日之時体ト相変、於朝廷も実ニ御満足被　思食、於此方大慶ニ存候、尚乍此上偏ニ御依頼被遊候間尽精力相務候様、且追々参殿無伏臓存慮言上候様、左候而乍此上見込御尋問ニ付、

一云尚篤ト勘考談合之上可申上候得共、当座一己之愚考可奉言上候、今日ニ立至リ候次第実ニ大慶奉存候処、此上ノ処今一層之御大事ニ候間、戦ヲ御忘不被為在断然ノ御尽力被遊候様、自古一時之功ヲ遂因循苟且大機ヲ失候例不少候付、克々御勘考被遊候様云々、

一右ニ付而断然　御英決之事件可被為在奉存候ハ、主上行幸被促八幡　御参詣、自夫浪華　御巡覧其儘行在ト被相定　朝廷之旧弊御一新、外国御所置ハ　勿論、海陸軍兵備等之事　御所置被為在度、然ル上ならてハ

朝廷之御基本相立百目挙リ候義、万々無覚束段云々反復申上候処、尤ニ思召候間尚御勘考可被遊と之御事ニ而、不容易　御懇命奉拝承候、

一今日太守公（島津忠義）海陸軍事務総督被為蒙　仰候、

一今辰刻長谷殿ヨリ就御用　禁中御仮建ヘ罷出候様奉承知、四時分ニ参　朝左ノ通、

大久保市蔵

一内国事務掛被　仰付候事、

同

今度可為徴士被　仰付候事、

右徳大寺殿ヨリ御達ニ付、主人江申聞御受可申上段言

上、　大守様達　御聴候所、御受申上候様御沙汰候事、

一海陸軍務掛　西郷（隆盛）

長（真臣）
廣沢

右之外段々掛被　仰付候事、

一御元服就　御大礼非常之大赦御達之事、

一旧臘九日被止参　朝候、公卿方、二条家（斉敬）・尹宮（朝彦親王）ヲ除之外凡而被免候事、

一外国御布令ニ付国内御布告被　仰付候事、

一退散直ニ出殿、徴士且内国事務掛之儀奉伺候所、御受仕候様　御沙汰之由、求馬殿（島津）ヨリ承知致シ候事、

一太守公（島津忠義）海陸軍事務掛之儀、御辞退御断被　仰立候御決定、

一西郷徴士参与モ御断之筋決定之事、

一此時ニ臨小子苟も御受之訳無之候得共、尚所存有之御受決定致シ候事、

一十八日、伊地知正治従大坂帰京入来、同道出殿、

一今日従御国元三日立飛脚中村矢之助同断着、蓑田（傳兵衛）問合等相達、

一昼時ヨリ大政官へ参仕、備前夷人殺害一条ニ付岩下氏・吉井より一封到来、廣沢談合、岩倉公へ云々言上、

一内国事務掛被　仰付、第一遷都（大坂）之条尚又当務之急ニ付廣沢ニモ示談云々言上、猶総裁三条公へモ言上候様拝承、

一将軍宮（仁和寺宮）御帰京相成候哉、如何ト之議事有之可然言上、

一今日下坂之義　御沙汰蒙居候得共、不及其儀段承知之事、

一十九日、備前御処置一条遷　都之義、條公総裁江廣沢同道参殿言上致候事、

一昼時分参仕

内国掛被　仰付候付テハ、両人ニ而相済候丈ニ無之、

中根（雪江）（初負）
神山左多衛（君風）
廣沢兵助（真臣）

右三人同掛被　仰付候様辻〔将曹〕談合、徳大寺公江申上即日被　仰付候事、

越公・宇和島公参仕、外国掛ヨリ備前御所置一条言上、於議事所御評議有之、公法ヲ以断然御所置被　仰付候様衆議決定之事、

一御所置ハ日〔岡山隊長〕置帯刀割腹之事、

朝議猶予二時比退散、

一十九日、太政官代ヘ出席、

一廿日、太政官代ヘ出席、

一廿一日、同断、

一廿二日、同断、遷都之一条廣沢・後藤談合、明日議事之筈候事、今夜岸〔七之丞〕良入来、

一廿三日、太政官代出席、容堂公・越公・宇和島公参仕、於上議事所遷都之儀言上衆評不決、

今夜吉井入来、

一廿四日、太政官代出席、　勅使各国就御応答御評議有之、

一廿五日、太政官代出席、　三条公ヘ参殿、

一廿六日、岩倉公被召参殿、久我〔建通〕公昨夜御入来、遷都之事薩ニ奸謀有之、是ヲ期ニシテ薩・長相合、大ニ私権ヲ張候云々之賦ニ而候由、後藤も同論ニ而候得共、実ハ態ト同意之体ヲ以尽力イタシ候云々、且土・藝も同論云々、

右之次第ニ而甚不容易義ニ思食候趣承候間、是ハ決而因循説ヲ以テ拒候為ノ策ニ相違無之、後藤ハ此儀ハ異条無之段申上ル、尚又木戸ナトヘ談シ呉候様承ル、木戸ヘ差越相談シ三条公ヘ参殿、岩倉卿御出是非後藤ヘ談シ候趣申上ル、然ラハ尚又久我ヘ御談可被成云々承リ退散、木戸同道三〔三本木〕樹ヘ差越、拙宅同伴今夜止宿、

一廿七日、木戸同道岩倉邸へ参殿、久我卿尚又御詰問相成候処、愈因循ノ策ニ而後藤関係ナキコト明白イタシ、仍テ同人へ談シ候様、仍而退散、今日ヨリ太政官代二条城へ被移参仕、

大久保一藏

総裁局顧問被　仰出候事、

廿四日坊城殿（俊政）ヨリ御達之事、

今日帯刀（小松）殿着、

中将（久光）公御筆ヲ以テ岩下氏・西郷、小子三人、不容易尽力ヲ以テ今日之形勢ニ至リ、別而　御満足被遊候趣御褒詞ヲ奉蒙候事、

一廿八日、太政官代参仕、昨日関東追伐見込言上候様就御達、今日各見込言上相成ル、

一廿九日、参仕、木戸・廣沢ヨリ越公云々ニ付引合有之岩倉公へ申上置可然返詞イタシ候、今日御評議ナシ、

一二月朔日、岩倉公ヨリ御紙面到来参殿、追討一条策略書取差上候様御沙汰ニ而西郷談合、相認御所へ罷出差上ル、

三条公・東久世公・宇和島公江備前御所置一条急速相運候様言上、明日日置帯刀御呼出弥御達之筋御治定ニ而、草案相認候様就御達書取差上候、

一今朝（新納）刑部殿・伊地知（壮之丞）壮・奈良原（幸五郎）等帰国、書状今夜相認差出候事、

一二日、今朝小太（小松）夫入来、

太政官代出席、

一三日、同断、今日海江田（武次）書状到来、

一四日、同断、

今朝岩倉卿へ出、慶喜（徳川家茂夫人）静寛院様江謝罪ニ付、御局（土御門藤子）上京之故ヲ以云々言上、

一今日越公ヨリ列侯御連名建白之一条ヲ以云々承知、

一五日、今朝海江田彦之丞所へ差越云々示談、太政官代出席、今夜海江田・岸良・木藤(角太夫)入来、草稿成ル、

一六日、出殿、草稿入　御覧、太政官代出席、三条公ヨリ顧問御受之義推而　御達ニ付一応奉諾、制度改正之論有之、

今夜海江田彦士入来、外国江布告之草稿持参、

一同七日、太政官代出席、

今朝両卿江差越

外国布告文并東久世公へ差上ル、

一八日、今日税(長藩)所入来、仏艦来船之一条ニ付上京也、

肥後・土佐・尾張・越前・肥前・藝州・長州・薩州八藩重役下坂被命候、

一九日、今日早々太政官代江出席候様承知罷出候、

浪華　行幸太政官代大坂へ被移候由、御決定ニ而取調云々拝承、今日退散ヨリ三樹へ会ス、

一十日、出席無事、

一十四日、親臨之御猶予、

一十五日、今日御所へ参仕候様被　仰下参仕、異人参朝一条御評議有之御決定也、

一十六日、太政官出席、去ル十四日於堺表仏人へ土佐人数ヨリ及砲発、手負七人、即死二人、七人ハ死体不相分由申来候、小太夫書取今夜各国公使上京一条御手当有之候、

一十七日、早天小太夫(小松帯刀)ヨリ又々書状到来、仏人殺害一条ニ付十七日第八字迄死体取揃可差送、若其通不参候ハ、如何様御詫有之候トモ承知不致ト之事候由、別而大難事と申来早々一両人下坂イタシ候様申来候間、小生下坂ニ相決シ三条公へ参殿、相伺其通イタシ候様御許容ニ付早々出殿、　太守公へ拝謁、伏見ヨリ一字出帆

順風ニ而四字過着坂、裁判所ヘ出席、㊐東久世久世公・宇和島公ヘ拝謁、小太夫ヘ逢細事承候所、今朝死体不残引渡安心イタシ候由ノ噺也、

一十八日、小太夫旅宿ヘ入来、昼后ヨリ東西本願寺見分、冨田屋ヘ登楼イタシ候、

一十九日、第七字宇和島侯仏船ヘ御出、公使ヨリ各国公使談合之上紙面差出シ、土佐人所置ノ一条廿三日迄相運候様トノ趣ニテ、是ヲ奉シ早々上京候様承知、今晩十二時比発船イタシ候、

一廿日、淀ヘ十一字比着、十二字当所馬上ニ而通行、二字比太政官ヘ出席、今日㊐三条・岩倉両卿副総裁御参ニ而四字比太政官ヘ御出席、坂地ノ形行言上当然ニ御所置被為在、

一廿一日、休日、昼后三条公ヘ参殿、岩倉公御出、木戸・廣沢参ル、土州御所置ニ付段々御論有之、是非号令官両人ニ而相済候様、談判不出来ヤト御尋ニ付迚モ相調不申、乍併戦争ニ御決定相成候得ハ談判不調ト申訳無之ト委曲申上候、今晩入夜帰、今晩得能入来、

一廿二日、太政官出席、四字比退出、吉井同道万楙江差越一泊、

一廿三日、早天帰、太政官出席、戸倉修理助（土倉正彦）・土肥典膳（降平）招ニ而新橋広島ヤ江参、

一廿四日、太政官出席、

行幸之儀ハ凡来月五日ニ御決定、木戸、廣沢小生江行幸ニ付御用掛被　仰付候、布告草案差上ル、

一廿五日、太政官出席、英・蘭公使就上京段々御評議有之、取調被　仰付候、

一廿六日、今朝御堀耕助士入来、長門侯帰国御暇、木戸

・廣沢御暇云々之一条相談有之、太政官出席、今日宇和島侯上京、段々外国人一条取調候事、

一廿七日、今朝山形恭助入来、新納・岸良入来、太政官出席、五字退散、今夜福崎・黒田入来、

一廿八日、今日英・蘭公使入京、南泉寺蘭旅館へ出役イタシ呉候様承三字比退散、岸良同行鳥居本江差越候、今夜九時帰、

一廿九日、今朝岩倉公へ参殿、太政官出席、七字退出、

一晦日、太政官出席、七字退散、今日英・蘭・仏公使参内、公法ヲ以　天顔拝被　仰付、英公使参　朝掛、於新門前暴客両人之者有之、及乱妨歩兵一人傷ケ候故ヲ以テ不参也、〔象二郎〕〔弘蔵〕後藤・中井防禦一人ハ切留、一人ハ召捕候由、大和之浪人也、外国掛宇和島侯へ久世公・肥前〔肥鍋島〕真大公、内国掛ヨリ徳大寺公御出ニ付、廣沢・小生同道参ル、

一三月朔日、太政官出席、外国方書翰等之儀有之、後藤・廣沢・小生江　行幸之御談有之、

一二日、今日同断、明日英人就参　内手当向有之、今日木戸・廣沢同道藝州御邸へ参上、今日　君公・長州公・〔澄之助・良之助〕細川公御兄弟御出被召候、

一三日、太政官出席、十一字比ヨリ参　内、英公使参朝、　天顔拝被　仰付候、仏公使・蘭公使も参　内、是ハ御談判有之候故也、今晩相国寺へ参ル、

一四日、太政官代出席、今日英公使・仏公使・蘭公使下坂いたし候、

一五日、太政官出席、退出ヨリ細川侯壬生御邸へ参候、小太夫・木戸・廣沢・吉井同道、

一六日、昼后ヨリ休日ニ而小太夫・吉井同行、木戸・廣沢旅宿ヘ誘引、霊山ヘ参ル、肥米田(虎雄)・長谷川(仁右衛門)・辻・後藤ナト参ル、

一七日、小太夫・吉井同道木屋町松本ヘ立寄太政官出席、今晩木戸・廣沢同行三条公ヘ参殿、長侯(毛利広封)・君公御出也、

一八日、太政官出席、諸侯会盟等之事有之、退出ヨリ辻ヘ参ル、小太夫・木戸・廣沢・後藤・福岡等也、

一九日、五半太政官出席、今日太政官ヘ親臨被為在、出御、副総裁以下参与一同出席、奉拝天顔於御前蝦夷開拓之議事被仰出候、且亦御沙汰之趣岩倉卿御読上一同奉拝聞候、実以不容易事ニ而恐入候、御書面左之通、退出后小大夫ヘ参ル、

一十日、太政官出席、今日ハ阿州侯・長州侯・藝州侯・細川良公子〔長岡護美旧名〕君公御同行、円山瑞々寮ヘ御集会御催ニ而二字ヨリ御出向被為在候、誠壮観稀ナル御事也、肥前細川侯ハ御差支也木戸・廣沢・長谷川・米田〔虎雄〕・阿州ヨリ四五輩参居候、今夜十一字帰ル、

一十一日、休日ニ而小太夫・吉井ヘ鳥渡差越候、八后條公ヘ参殿、木戸入来、日暮来ル、行幸御日限之義甚六ヶ敷御模様ニ而、条公御参内相成候、

一十二日、太政官出席、行幸御日限之義別而六ヶ敷義有之、岩倉殿ヘ今晩木戸同道参殿候様トノ事ニ而罷出候、種々御噺有之候、

一十三日、太政官出席、昼比ヨリ参内候様トノ事ニテ、今晩四時迄相詰決定不相成候、

一十四日、太政官出席、

十五日、

十六日、休日ニ而候得共、昼過迄太政官出席、

一十七日、太政官出席、

一十八日、太政官出席、今日円山ニ肥前侯御父子・長州公・阿州公・藝州公・細川御兄弟御一同御集会ニ而小子モ罷出候、

一十九日、太政官出席、愚案草稿一条木戸ヨリ云々ニ付、岩公ヘ云々申上候、

一廿日、太政官出席、西郷着、関東御処分一条ニ付於御所評議、死一等ヲ被減候筋御決定ニ候、

一廿一日、今日卯刻ヨリ参　朝、八字比御出輦被為　遊候、西郷方ヘ参り帰宿、

一廿二日、太政官出席、

一廿三日、同断、得能氏ヘ参云々及相談候、

一廿四日、太政官出席、

一廿五日、太政官出席、

一廿六日、昼時分ヨリ島津求馬（久邦）・得能（良介）・和田同道（九十郎）嵐山ヘ差越、天気快晴春色和麗花十分ヲ過トイヘトモ、実ニ一日ノ閑ヲ得鬱散イタシ候、木戸子等参居及一会候、

一廿七日、太政官ヘ出席不致、大給縫殿頭参　内被免候

一条ニ付差扣候、

一今日直太郎（伝兵衛）差下候、

蓑田書状出候、

一廿八日、太政官出席、今日大給一条弥相分候、

一廿九日、弥差扣被　仰付候、木戸入来、顧問御断之一条云々承候、

一晦日、差扣御免、太政官出席、今日条公御帰京ニ付、秘事一条御評議ニ付条卿へ参殿、岩倉卿・木戸参ル、今夜種々御評議候得共、関東一左右御待ニ相成候筋相決ス、

一四月

朔日、今日於庚申口大隊調練有之　君公御出、岩倉卿・徳大寺卿・萬里小路卿・岩倉侍従卿（実綱）・阿州公御出、尤阿州大隊調練も有之壮観也、相済阿州侯へ御出供奉、

一二日、太政官出席、今日後藤・小松上京迄之間顧問詰所へ相詰、当職御用相勤候様被　仰付候、右ハ木戸準（孝允）一郎顧問徴士御断可申出、岩倉卿ヨリ段々御説得相成候所、色々申立候而、詰ル所一人ニ而ハ不堪大任候間、小子江顧問被　仰付度、左候ハヽ共ニ尽力可仕トノ事ニテ岩倉卿御邸へ御出、太守公へ御受イタシ候様御沙汰被下度趣、御相談被為在候由ニ而、今朝御召ニ而思召之処モ其方御受不致、木戸迄モ御受不申上候而ハ現事不可然存候間、御受仕候様御沙汰奉拝承候、

一三日、今日ヨリ顧問詰所へ出席、今朝出殿形行言上、今日長州木原何某上京、東山道出軍先江戸云々ノ形状言上、

一四日、太政官出席、東山道之事云々岩倉卿ヨリ御懇話木戸ヨリモ同断、今夜吉井談合、得能出府ニ相決候、

一五日、出殿、得能一条談合之上相伺出府被　仰付候、太政官出席、会計方一条議事有之、退出懸肥前御邸へ参上、今日君公・阿州侯、公卿方ニハ岩倉・徳大寺公・萬里小路卿御参集也、

一六日、今朝出殿、求馬子・吉井子へ相訪岩倉卿江参殿、昼前ヨリ下坂発足、木戸へ相訪、弐字伏見出船七字着坂、

一七日、小太夫(小松帯刀)夷人館滞留ニ而十字比ヨリ相訪、二字比ヨリ行在所へ参仕、條公へ相伺段々御沙汰相伺候、今夜岩下氏入来、

一八日、八字比ヨリ道具見ニ差越後藤へ相訪、小太夫江差越種々相談シ帰宿、木場(傳内)入来、

一九日、従条公参仕候様申来、九字比御旅館へ参上候処、参　内候様と之事ニ而参　内、総裁局へ罷出候、今日ハ

主上於　御前京師近状被　聞召候間言上候様、四辻(公亨)様御取次ヲ以承知仕候、今日成瀬隼人正ナト伺天機有之、終而被為　召候ニ付罷出候、

主上出御、条公侍座ニ而京師事情旁申上候様、同公ヨリ御沙汰ニ付、　行幸前人心不居合ニ付如何と奉案煩居候処、　御出輦后殊之外　人心居合宜敷、当分ニ而ハ何モ懸念之廉無御座候、各安業於諸藩モ調練等勉励別而静謐之段、且亦関東表之義慶喜恭順相立、弥御平定之模様ニ候趣共申上候処、条公御取次ヲ以　御安心可被遊、退出セヨトノ條公　御沙汰ニ而退キ候、実ニ卑賤之小子殊ニ不肖短才ニシテ、如此玉座ヲ奉穢候義絶言語恐懼之次第、余一身仕合候、感涙之外無之、尤藩士ニハ始メテノ事ニ而、実ハ未曾有之事と奉恐懼候、二字比ヨリ木場・本田同(弥右衛門)道小太夫へ立寄三橋楼へ参、税所(長蔵)も参ル及大飲相祝シ候、四字過乗船帰京、尤本田同(弥右衛門)船イタシ候、今夜月晴淀水蒼茫可愛風景也、

一十日、七字比着伏、直様太政官へ出席、退出懸岩倉卿江参殿、吉井へ立寄種々相談候、

一十一日、休日ニテ太政官へ不致出席出殿、君公(茂久)へ謁ス、

今日西郷書面相達、去ル六日東海道先鋒総督江戸城へ御乗入、田安中納言（慶頼）へ　勅命之趣被伝謹而御受仕候由

○城明渡軍艦武器差出候義ハ十一日迄之期限ニ御達之由、本書ハ大坂へ差出候、今夜新納（嘉藤次）・吉井入来、

一十二日、太政官出席、

一十三日、今朝折田要蔵参、吉井子・黒田子（清綱）入来、奥羽ヨリ大野郷左衛門到着、報知之趣白川城へ桑・幕・水ノ兵楯籠頗ル暴威ヲ張候由、會は會津将軍ト号シ号令ヲ下シ候由、佐竹・南部等も両端ヲ持シ候由、仙台ハ段々説得イタシ少シク振起ノ向ニ相成候由、人数ハ相応繰出シ居、総督モ御進軍ノ御治定ニテ八日御発ノ筈候由、太政官出席、退出ヨリ出殿、従明□（欠）御下坂ニ付御伺申上候、

奥羽人数差出之義ヲ被決候、

今夜吉井・海江田（彦之丞）・岸良入来、

一十四日、太政官出席、今日退出ヨリ因州荒尾（駿河）ヨリ誘引ニ付、万楼へ吉井同道ニテ差越候、

一十五日、今朝田尻（務）へ差越候、

太政官出席、廣沢・小原（兵衛）・神山等同道宇治へ差越候、

今夜月晴風景可愛各把吟抔催大酔一泊、

一十六日、山水之暁色可愛僧一人画人耕石も入来、採筆等相始リ誠ニ雅興也、昼時分ヨリ上流ニ舟ヲ登セ、暫時山水ヲ観望シ伏見迄下リ候、帰懸万楼へ立寄候、

一十七日、太政官出席、退出ヨリ秋月（種樹）侯御旅館へ参上、

一十八日、伊王野（次郎左衛門）入来、太政官出席、今夜黒田・遠武（秀行）入来、

一十九日、今朝内田氏（政風）・折田子（要蔵）入来、太政官出席、今日太守公（茂久）従大坂御帰為御伺出殿○得能良介従関東帰京、

今夕差越彼地噺承候、

一廿日、太政官出席、岩倉公従大坂就御帰京今夕参殿、

一廿一日、休日ニ而不参、大垣招請ニ而加茂相模屋へ参、

一廿二日、太政官出席、退出后得能子入来、關東之形情尚亦承ル、

一廿三日、太政官出席、従大坂神山帰京　還幸一条云々付、大総督宮へ御問越相成、参謀西郷〔隆盛〕江一封差遣候様承知差出、

長崎浦上村耶蘇教信仰之者有之、右御処置ニ付議事有之候事○退出ヨリ廣沢旅宿へ参ル、

一廿四日、今朝出殿、徳川家名相続人ハ領地等之儀就御下問御談有之候、太政官出席、今夜海江田・岸良・両皆吉・牧野入来、尤九平太・牧野ハ明日発足候也、

一廿五日、今朝従岩卿被召、徳川氏御処分一条御談シ有之、太政官出席、

一廿六日、休日ニ而太政官不参、御邸〔藩邸二本松〕へ出殿、昼后求馬子・堀直子〔直太郎〕同道霊山へ参り候、今日ハ廣沢・神山・福〔㊟藤次〕岡・方丈・小原・戸倉・門脇〔㊟少造〕・伊王野等相招候也、陣幕・千歳川・山分以下角力相企面白候也、夕景ヨリ万楼へ相訪壮観不可言一泊、

一廿七日、今朝廣沢同道　被召候付岩倉卿へ参殿、大村〔益次郎〕参殿、段々関東之模様ニ付　御下問有之候也、太政官出席、

一廿八日、太政官出席、退席ヨリ土佐招ニ寄中村屋へ参ル、暮過帰ル、

一廿九日、就所労不参、得能子・鎌田子・海江田子・岸良子等入来、廣沢有用入来、

閏四月

朔日、不参、得能子・島津求馬子入来、

一二日、不参、岩下氏・吉井五字比ヨリ入来、今日帰京ナリ、

一三日、不参、終日閑然習書、

一四日、従今日出仕イタシ候、岩卿就御帰京退出ヨリ参殿申来参上、尤今日林玖十郎(得能亜斯登)江戸ヨリ着イタシ委曲情実相分リ候也、林も同様参殿、徳川御処置一条段々御内評有之候、

一五日、出勤掛岩卿へ参殿、太政官出仕、今夜西郷帰京、

一六日、今朝西郷入来江戸事情承候、岩下氏暫時入来、西郷同道岩倉家参殿、廣沢・吉井も参殿、段々評議有之、今夜西郷へ差越候、

一七日、出勤、主上大坂御出(発)輦、

一八日、小太夫帰京懸入来、未刻前　還幸、同刻参　朝イタシ候、今晩三条家参　殿、岩倉家入来、小太夫・後藤・廣沢・西郷・吉井・林会評不相決候、

一九日、巳刻参　朝、参与一同於　小御所天顔拝被　仰付候、於　御所色々御評議被為在候、

一十日、官代出席、三条卿東下実地御覧之上、御処置振御委任ト申御評決ニ相成候、明日ヨリ御下向ナリ、退出懸西郷へ参ル、

一十一日、今朝岩倉家参殿、三条公へ同断、昼后小大夫・吉井入来、今日三条卿御発途、西郷出立、

一十二日、太政官出席、退出ヨリ岩倉家参殿、小太夫・後藤・横井・廣沢・副島・吉井会議也、制度一条大議論有之終決議、官位之事人材御採用的任ノ者御撰出、追而賜之候事ニ決ス、

一十三日、岩倉公へ参殿、密封差出官代出席、退出得能へ相訪、

一十四日、官代出勤、

一十五日、官代出席、今朝　御所へ暫罷出岩倉卿拝謁、

一十六日、休日不参、御邸出殿、今日昼ヨリ参　朝、小太夫・後藤・横井・副島・三岡(八郎)段々制度之義御評議有之、

一十七日、官代出席、

一十八日、官代出席、

一十九日、官代出席、

一廿日、今日申刻参与一同参　朝、主上小御所へ出　御、議定・参与天顔拝被　仰付、於玉座下御酒肴頂戴被　仰付候、晒一疋ツヽ、一同頂戴、行幸中御留主中万端御都合宜敷　御満足ニ　思召、御酒肴被成下、一同打クツロキイタヽキ候様、正三卿ヨリ御沙汰御伝へ　相成候、左候而一人ツヽ、玉座之前ニ被　召、中御門卿御酌ニ而天盃御流頂戴被　仰付候、誠以難有不堪感泣候、多年苦心中之事比較候得ハヽ、一夢場ノ心地未曾有之事也、初夜御暇退散、

一廿一日、不参、松浦竹四郎(武四郎)上京ニ而面会、北地之事情承実ニ感伏也、

一今日昼後早々　御召申来参　朝候処、正三卿ヨリ更ニ

参与被　仰付候ニ付、錦鶏之間へ　相詰候様御口達ヲ以被　仰付候、後藤象二郎・横井平四郎（小楠）・副島二郎（種臣）・三岡八郎（由利公正）・小松家・廣沢兵助（真臣）・小拙也、段々評論有之候、暮帰宿、

一廿二日、参　朝、

輔相議定御人数左之通、

左兵衛督

岩倉前中将（具視）

二位　中山前大納言（忠能）

二位　正親町三条大納言（実愛）

二位　徳大寺大納言（実則）

二位　中御門大納言（経之）

二位　越前宰相（松平慶永）

中納言

二位　鍋島閑叟（直正）

中納言

二位　阿波少将（蜂須賀茂韶）

中納言

右之通御受相成官位等　宣下有之、参与中ハ従四位下宣下有之候也、

七字比退散イタシ候、

一廿三日、九字出殿、昨日之義御届申上候、十字参　朝、四字比退散、今晩松方（正義）入来、

一廿四日、九字岩倉家出殿之上参　朝、四字退散、今夜松方入来、

一廿五日、十字前参　朝、県令等之事相議ス、四字退出、吉井・田尻等入来、

一廿六日、休日不参、小松氏同道廣沢へ相誘二字比帰ル、八百店へ立寄食事、岸良参来同道帰ル、今夜松浦竹四（武四郎）郎入来、

一廿七日、十字参　朝、今日位階　宣下之御猶予奉願候所、御聞済ニ而　御紙面ハ弁事へ御預相成差上置候、三字比退出、

一廿八日、十字前参　朝、三字比退出、

一廿九日、同断、会計之大評議有之、三字比退出、

五月

朔日、休日不参、得能子・松方子等入来、四字比ヨリ得能同道松方へ参ル、小太夫其外出張ニ而被誘候也、初夜帰、

一二日、岩倉家参殿、会計云々御用談承ル云々申上置、十字前参　朝、三字退出、

一三日、参　朝、

一四日、参　朝、於小御所会計評議有之、最　出御被為在候、

一五日、不参、今日就節句来客段々有之、

一六日、参　朝無休日、退出ヨリ訪吉井段々密事ヲ談ス、

一七日、岩倉家参殿、参　朝、昼后税所入来、飛脚ヲ立、

一八日、参　朝、三時比退散、今夜依召出殿、邸中少々有事及徹夜、

一九日、〔大久保次右衛門〕大人就忌日不参、岩倉家依召参殿、廣沢入来、段々有議今夜従　君公依召参殿、段々御質問有之云々申上ル、吉井も参殿、

一十日、依召岩倉家出殿、九字前参　朝、今日退出后吉井同道廣沢へ訪、

一十一日、不参、出殿、吉井談合之趣有之〔伊勢〕諏訪家へ云々忠告、吉井江訪、岩下〔方平〕家出京、

一十二日、参　朝、二字退出、

一十三日、参　朝、二字退出、今夕岩倉家参殿、

一十四日、参　朝、今夕岩下氏・吉井氏入来、

一十五日、今朝岩倉家参殿、参　朝、於宮中片桐省助(直方)面会、今日ヨリ発足セリ、

一十六日、休日、

一十七日、

一十八日、関東ヨリ香川一左右有之岩卿参殿、

一十九日、参　朝、奥羽一左右有之、退出ヨリ廣沢・後藤・副島同道三樹月波楼ヘ参ル、

一廿日、参　朝、今日君公関東御出馬之　仰被為蒙候、

一廿一日、早天岩卿依召参殿、夫レヨリ出殿、廣沢・吉井・副島等也、

一廿二日、今朝小太夫(小松帯刀)上京入来、岩倉卿ヨリ北越報知ニ依リ被召参殿、廣沢・後藤・副島・吉井等也、従夫参朝、会計之議事於小御所有之、退出ヨリ出殿帰、今夜訪小太夫、今日彦熊着大安心、

一廿三日、今朝参　朝、今日後藤・小松大坂府在勤、廣沢京都府在勤、小生江戸府在勤被　仰付候、

一廿四日、参　朝、退出ヨリ出殿、今日岩倉家参殿、大事云々御内定被為在候、大愉快之次第大慶ノ至也、

一廿五日、今朝品川(弥二郎)入来、参　朝不致出殿、長州使者参ル、

今日彦熊初而之　御目見被　仰付首尾克相済候、今晩

皆吉五郎右衛門殿入来、

一廿六日、休日ニ而不参、得能等入来、今晩吉井へ参ル、

岩倉殿へ参上云々言上、

大津通路泥水ニ而　御通行難相成、廿八日御立延引ニ

御決定也、

一廿七日、参　朝、岩倉卿ヨリ御立之義云々ニ而、御日

限御沙汰可有之と之御事也、今晩税所上京、

一廿八日、参　朝、

樺山舎人・酒匂求馬入来、税所帰坂、

一廿九日、参　朝、

一卅日、参　朝、

六月

朔日、休日不参、

一二日、参　朝、出殿、

一三日、参　朝、出殿、

一四日、今朝訪廣沢・木戸、岩倉家参殿、夫ヨリ参　朝、

一五日、辰刻　君公(茂久)御暇御参　内ニ而小子同刻参　朝、

一君公於小御所被拝

天顔　御剣・錦旗御頂戴、御金三万両被下　御紙面二

通　御渡相成候、

一於御学問所　天盃御頂戴、　御真翰(宸)御拝見御写ニテ御

拝領被為在候、　御装束御拝領被為在候、

一佐土原(島津忠寛)侯続而於　小御所御中段御拝領物有之候、

一佐土原侯終而小子於小御所御中段

天顔拝被　仰付、中山一位殿御取次ヲ以晒一疋・鐙

一掛・御書附一通御渡相成候、実ニ不堪恐懼次第也、

一今朝西郷吉之助上京、於関東評議之趣有之何分人数差出候義至急ニ而、　君公先御延引兵隊而已早々繰出候様と之言上ニ而其通　朝議御決定、君公御見合人数其儘差出候様御達ニテ御止リ相成候次第也、小子事海路東下候様御達ニテ候、

一六日、今朝西郷・得能入来、暫時出殿、十一字比出立、一字比伏見ヨリ出船、暮過下坂イタシ候、

一七日、今朝税所入来、則便船之事ヲ談候、昼后ヨリ船ニ而難波橋納涼イタシ候、

一八日、訪後藤氏、君公御下坂之筈候処、御延引之旨申来候由、

一九日、四字比君公御下坂西本願寺へ罷出候、於途中奉拝候、税所へ差越西郷・得能難波橋へ船納涼イタシ候、

一十日、西本願寺江為伺御機嫌罷出候、税所宿跡へ転宿イタシ候、

一十一日、君公御乗船卯刻本願寺迄罷出候、卯半刻御立被為在候、

一彦熊・千年川帰国為致候、

一四字比ヨリ船ヲ浮へ納涼、長谷川・伊丹（実一郎）等之催ニ而壮観ナリ

一十二日、木場・市来（六左衛門）・白石（八左衛門）入来、晩景難波橋納涼、

一十三日、訪木場氏、往来船上也、

一十四日、終日不出、

一十五日、例之通、従晩景楼船納涼難波橋辺納涼、星列絃歌満川、晩来月上生涯之壮観也、海江田子相伴名妓両三従為乗興満酔愉快不可言移更帰、

一十六日、従早天浮楼船於川尻鯉魚網打相催、海江田子・平田子・有馬子(㊟休右衛門)□子同伴、木場後来、陣幕及両三名妓従、網打船二艘従横得大小鯉魚、喰之美味不可言晩来溯流難波橋納涼終日之愉快也、岩倉卿御使坂本下枝来ル船中云々及談話、

一十七日、終日不出、今日後藤(象次郎)・五代(才介)・三岡(八郎)数子前后入来、今夜税所入来、

一十八日、早天相発英国船飛脚船得便宜、茶船ニ乗シ於天保山数時酌酒、妓女相送、陣幕・山分従移上荷船、乗英船時十二字、一字発船神速矢ノ如シ、

一十九日、従夜前風雨船頗動揺、

一廿日、四前横浜着船直上陸、今夜於松本旅宿小太夫相会、井上・中井来、

一廿一日、今朝井上入来、従横濱小蒸艦乗船九字比発船三字比江戸築地着、青柳店へ休息供酒食、登城謁大総督宮・三条卿寓彦根邸中海江田・平田・曽山・有馬同寓、

一廿二日、従十字登城、二字退出、

一白川戦争十二日官軍勝利、

一常陸平方(平寛)へ富士艦人数出張凡二千、

一甲府柳原卿(㊟前光)出張、

一小田原平定、

一廿三日、今朝平田・曽山(㊟喜之助)・有馬三士白川へ発足、

一須磨敬二郎着府ニ而訪来、御国元去ル十一日発、為御使上京候得共、当所迄参候由、

一樺山仲左衛門秋田在陣、援兵ヲ乞フ為出府、

一澤殿閏四月廿二日比ヨリ新庄御発駕秋田へ御在陣、庄内ノ兵等跡ヲ慕ヒ秋田国境迄進ミ、官軍必死ヲ決居候、何故ヲ知ラス俄ニ引返候由、

是ハ白川城ヲ落サレ六百余人死亡ノコト相達シ、
早々引タルナラント云ヒシト、
随兵薩・長・筑前三小隊ノ由、
秋田ハ一定イタシ宜敷候由、東西国境八十里流レ候由、
米穀ハ百万ノ出来仙臺ニ優ルト、
一天童家老吉田大八奥羽中ノ一人ナル由、手勢四五百人
ヲ引、無二念相勤、会・仙台等ヨリ薩長ヲ悪ムヨリ甚
シト、
一伊駒雅樂頭(㊟生駒大内蔵)トカ旗下ノ由ナレトモ、傑然方向ヲ定メ戦
ヲ勉、秋田等ヲ説得ノコトヲ進候由、外様ナリシヲ推
テ旗下ニナサレシヲ恨ミ、此時ニ志ヲ遂ントノ決定ニ
候由、
一秋田野代ノ港、
一廿日、鎮台府出席、松浦竹四郎(弘)面会、
一廿五日、鎮台府出席大村(益次郎)へ参ル、木戸・大木(㊟民平)出府面会、
一廿六日、不参、井上・三崎・松浦来ル、大木・江東(新平)入
来、
一廿七日、今朝木戸・大木・大村於　城中　御東行一条
云々相談、条公へ言上御同論ニ而御決定、四字比ヨリ
江東氏へ訪、大村・木戸・大木同会種々及示談候、
一廿八日、今朝於城中府政体一条談ス、
一大総督府
大総督宮
東国軍事委任
参　謀
一鎮将府
鎮　将
関以東政務委任
議定
参与
右立法之権ヲ執議政官ノ体ニ法ルヘシ、
判事

分課　諸侯
軍務　会計
社寺
権判事
弁事
右行法ノ権ヲ執行政官ノ体ニ則ルヘシ、
史官
筆生

一東京府
知府事
知府内事
判府事
権判府事
一東京御発表ノ上ハ東京府と御布告之事、
一大総督宮鎮台ヲ被止軍事一途之事、
一条公監察使ヲ被止鎮将再命之事、
但関以東政務御委任大事件ハ伺之事、
一府知事人体之事、

(史)光徳
烏丸卿
一大原卿(史)重実被止事、
一刑法官ヨリ一人被差下候事、
一阿州侯副鎮将ニテ上野国兼帯之事、
但上野在勤、
一長岡公子〔細川護美〕房州鎮台之事、
但両総兼、
一駅逓奸吏鋤除之事、
右木戸・大木・大村同論之事、
今日肥前侯(史)鍋島直大侍従公依御招五字ヨリ参上、木戸・大村・大木等同断、
一今日伊勢殿(史)諏訪広兼着入来、兵隊同断大砲一座三小隊、
一廿九日、今日木戸・大木就発足サ水迄、
一御東行一条決定、
一政体一条凡前条ニ決定、
一諸侯房総等ノ鎮台ノコト、知県ヲ置ノ説ト両議、
一於サ水小太夫出府懸面会、

七月朔日

一休日不参、小太夫(小松帯刀)入来、

一横須賀外国方払凡三万トル、

一各国御借財凡百五十万トル、

一　元市中取締頭取
　　村上俊太郎

一　秋月長門守内
　　坂田　潔
　　岩村虎雄

一二日、定刻出勤、

一三日、出勤、訪太夫(小松)　旅宿、両国辺舟遊、暮過帰、

一四日、今日伊勢殿始兵隊乗船三邦丸、箱館船ヨリ出勤、井上石見(長秋)江金子云々付帰訪長谷川大夫同道、

一五日、出勤昼后斉藤・林来ル、

一六日、出勤、退出より小太夫へ参上、サトウ面会イタシ度トノ事也、四字比ヨリ同人参ル、段々噺共有之候事、

一七日、不参、今日於川長二州楼八田知紀・井上長秋江(石見)送別之企有之、小太夫ヨリ誘引ニ付キ四字比ヨリ参ル、詩歌之雅会ニテ頗ル佳興也、夜ニ入直ニ帰、

一八日、出勤、
今日政体論ニ付大村ヨリ示談有之候得共愚存申述置候

一九日、出勤、

一十日、出勤、新納四郎右衛門着、

一十一日、不参、訪小松家北越ヨリ新納四郎右衛門報知有之、金策一条段々及示談候、四字帰、

一十二日、八字ヨリ金座・銀座為見聞、小松家・長谷川外会計方両人参ル、四字比帰ル、

一十三日、出席、樺山休兵衛於城中面会、

一十四日、今朝大円寺参詣曽祖父公墓参、及戦死群英墓所相弔、

一十五日、小松家一同条公拝謁、政体一条且北越吉井一封小銃之事ニ付言上、

一十六日、今日岩倉太夫殿出府ニ付北岡へ書状相托、二字比ヨリ米田屑之助入来、今日ハ金談ニ付於酔月亭長谷川出会ニ付差越、小松モ入来米田モ参ル、

一十七日、小松家今日横濱帰港、出勤、上原藤十郎・濱田源兵衛横濱ヨリ帰来、金子千五百両ヲ濱田へ渡、

一十八日、今朝長林半七〔友幸旧名〕入来、二字出席、

一十九日、今朝林左衛門、堆橋鑑之助一条ニ付十字比出席、条公江堆橋一条申上大村へ引合、

一今夜条公依召参上、白川口報知且宇和島公京師ヨリ一報有之云々、示談有之候、

一廿日、今朝林入来、堆橋一条云々相達候、十字出勤、

一廿一日、出席、

一廿二日、今朝林参ル、出勤、暮林参ル、堆橋之探索持参、岩尾ノコト急也、則条公へ伺出早々御手付候也、

一廿三日、出勤、堆橋一条少々事実間違也、出勤、有馬休右衛門白川ヨリ昨日参ル、

一廿四日、今朝林参ル、堆橋一条云々相達スル、出勤、

一廿五日、今朝有馬参ル、伊地知〔正治〕へ一封相托今日差立候、
出勤、今夜堆橋面会未十分信用難致候、

一廿六日、不参、八后歩行イタシ晩景帰ル、

一廿七日、出勤、今日京師ヨリ之報知段々御運ヒ相成委
曲之左右相達不堪恐悦、今晩も条公へ参殿、

一廿八日、今朝有川参ル、林参ル、出勤、京師報告ニ付
御布告政体取調等段々評議有之候、退出後斉藤其外来
客有之、

一廿九日、今朝斉藤参石出一条承ル、出勤之上申出御運
相成候、今日鎮将府之御名目相立其段ニ御発表相成ル、
退出后税所四郎右衛門・新納四郎右衛門・知識七之丞
入来、

一奥羽ヨリノ飛脚今日差立ル、

八月

一朔日、依召三条公参上、江東銀座之一条承り、中々公
論而已ニ而は難行旨愚存申上候、
江藤・長谷川・山口〔尚芳〕入来、今晩江東入来、銀座一条先
中等之所ヲ以御運相成候筋決断イタシ候、

一二日、出勤、退出后齊藤貞三仁三郎参ル、

一三日、出勤、

一四日、出勤、退出後齊藤等参ル、

一五日、出勤、今日退出ヨリ会計局江出席、今晩長谷川
・江東相招段々相洩シ候、

一六日、三条公へ参上、

一七日、出席、

白川ヨリ昨日曽山喜之助着、伊地知正治一封参ル、

一八日、出勤、退出后中村庄助池田方ヘ参ル、長谷川・江東・島〔団右衛門〕参ル、

一九日、今朝条公ヘ参上、出勤、退出后長谷川ヘ差越候、江東・齊藤二三郎参ル、今日曽山帰ル、

一十日、五時ヨリ金座ヘ　条公御見分ニ付出席、今日京師ヨリ飛脚着、木戸ヨリ一封達ス、

一十一日、休日不参、条公ヘ参上、

一今日土方〔久元〕ヘ参佐久間〔修理カ〕一条及談判候、西尾モ参リ漸クニ相決候、

一十二日、登営、今日佐久間一条相運候、

一十三日、出勤、門脇少造〔重綱〕着、木戸ヨリ一封相達、今夕江東入来、

一十四日、銀座　条公御見分ニ付出席、今日江東・土方・長谷川・山口入来、今日豊瑞丸着、四小隊兵士着、

一十五日、出席、

一十六日、休日不参、会計ヨリ飛脚差立ラレ木戸ヘ一封差出ス、七ツ后ヨリ斉藤仁三郎来ル、

一十七日、出席、肝付・青山・田代・税所等入来、今晩江東ヘ差越、斉藤仁三郎来ル、

一十八日、出席、山口・中井参ル、弾薬一条ニ付肝付・税所・高橋〔熊太郎〕参ル、

一十九日、今朝林〔休左衛門〕・和田・加治木〔清之丞〕士・知識〔七之丞〕着、伊集院〔直右衛門〕参ル、出勤、

一廿日、出勤、今日開陽等脱走之事相知候、今晩条公就召参上、開陽之事云々承ル、直ニ中井・山口へ参ル、夜半帰、

一廿一日、今早条公へ参上、昨夜山口等談判之形行言上、依模様横濱御出相願、今朝中村参ル、堆橋へ金三十両渡ス、林左衛門参ル、十字半比ヨリ横濱へ出馬四字着、裁判所へ出寺島〔宗則〕等へ面会、今夜山口・中井参ル、厚鉄船談判之義承ル、中々六ケシキ模様也、

一廿二日、十二字ヨリ中井同道英公使江参談判三字比終ル、直ニ蒸艦ニ而山口・伊集院同船帰府、

一廿三日、今朝条公拝謁形行言上、出勤、四字ヨリ江東へ参り長谷川モ取会金策一条談シ候、

一廿四日、出勤、今日金策評決ニ及明日御呼出相成候、今夕中井来ル、今晩ハ暴徒相騒鶏鳴登城候、

一廿五日、堆橋等来ル、出勤、　条公御住居へ商人共被召、御貸上銀御達シ相成候、小太夫書状達ス、

一廿六日、休日不参、肝付・樺山来、従小松氏書状到来、〔安房〕勝面会、

一廿七日、今朝堆橋来ル、出席、今夜〔金之進〕鶴丸出府、京師廿日ニ立之由也、小太夫書面参ル其外〔正右衛門〕石原紙面等も参ル、

一廿八日、登城、

一廿九日、今朝堆橋等来ル、

一登城、今日東京府規則一条有議、昼后井上〔豊瑞丸船長〕新右衛門来ル、豊瑞丸出帆一条相談、

一卅日、今朝□直三郎・左衛門入来、堆橋等来ル、登城今日北島〔千太郎〕等帰府京師之報知モ承ル、昼后速見・肝付・鈴木等入来堀モ参ル、

九月

一朔日、今朝登城　条公拝謁、旗下御処置之次第言上、山口・中井登城種々相談ス、四字ヨリ江東へ参ル、旗下御処置之事参河封地ノコト相談ス、

一二日、登城、

一三日、登営昼ヨリ　条公・阿州公東京府御出席、小子出席、今日会津ヨリ小倉・児玉着、

一四日、登城、今夜肝付等来ル、

一五日、登城、木戸一封達ス、今夜門脇参ル、

一六日、休日、江東・北島入来、御出輦一条遅々之御模様ニ付、小子西上云々之義為示談入来同道阿侯江伺候則御登営相成候也、

今日豊瑞丸就出帆井上へ一封渡ス、

一七日、今日西上之義ニ付、条公賜書アリ早目登営ス、御東行ニ付木戸ヨリ云々申越、依衆議西上被　仰付トノ義従条公承知イタシ候、東京府へ出席、大総督府へ同断、大村へ面会云々談ス、

一八日、今朝阿州侯へ参上、種々御託シ用承知之上登城、今日段々御用向有之四字退出、

一九日、今朝堆橋・松浦参ル金子相渡ス、江東・島入来、昼ヨリ発足山口・中井旅宿へ参リ三田ヨリ乗船、四字浪華丸ヨリ致出帆八字横濱〔陶蔵〕へ着、寺島へ参、

一十日、寺島へ御用之義相談、乗船、二字出帆、

一十一日、航海風波穏天明志州路ニ掛ル、今晩中遠州灘通り抜候、

一十二日、九時比大坂へ着船一字比大坂へ上陸、小松家

〈用向有之差越、今夜九時比川登り、

一十三日、十字比伏見着一字比京着、太政官出席情実言上、　御東行日限来ル廿日ト御治定ニ有之候、岩倉家〈参殿巨細東京事情言上、木戸ニモ入来、

一十四日、新納氏（嘉藤次）等入来、十字参　朝、

一今日　御直垂拝領、

一十五日、池辺氏（藤左衛門）入来段々談合、参　朝不致昼后岩倉家参殿段々東京事情言上、小松氏上京ニテ入来、晩木戸・後藤・大木三士も参殿也、

一十六日、今朝池辺・三岡（八郎）入来長岡一件等相談ス、十一字参　朝会計之議事アリ、

一就　御東行宮方議参判事小御所ニ被召

聖上出御　御酒肴被下、供奉之面々ハ云々、御留主之面々云々、輔相卿（岩倉卿）ヨリ御演達有之、

一十七日、小松家同道出殿、内田（政風）出府等御治定、参　朝今夜岸良・海江田・松方等入来、

一十八日、今朝岩倉家参殿種々言上、参　朝、今日木戸ヨリ内談之事有之小松家〈参上、伊地知・岩下氏相談ニ及候、

一十九日、今朝岩倉家参殿、参　朝、今夜伊地知・岸良・内田氏入来、

一廿日、卯刻参　朝、辰刻

主上御東行　御出輦、無御滞被為済御見立申上候、希有之御盛典難有不尽紙上、

今日二字前下伏早々下淀流今夜半大坂着、

一廿一日、木場・税所・松方等入来、

一廿二日、何方〈も不出、木場・税所・松方等入来、

一廿三日、浪華丸へ十二字乗船四字出帆、

一廿四日、

一廿五日、

一廿六日、

一廿七日、九字品川着船直様登城六時退出、今夜山口・中井来、

一廿八日、登城、今日楮紙之評議有之、

一廿九日、登城、今夜内田・安藤・石原・隈元入来、

十月中

一朔日、登城無休日、松浦御中途迄差立候義相談ス、肝付郷右衛門従横濱入来、

一二日、登城、今日松浦差立候、

一三日、登城上野辺乗廻候、

一四日、林等参ル、登城、今夜肝付等参ル、

一五日、今朝勝参ル、
今日御中途へ飛脚被差立木戸へ一封出ス、明日浪華丸開帆小太夫・岩太夫（岩下）へ一封出ス、十一日（字カ）登城、

一六日、休日ナシ、

一七日、登城、

一八日、登城、昼后得能来ル、昨日着也、

一九日、昨日大木民平（番任）着、江東同道入来、（㊗七左衛門）野津・伊集院（㊗直右衛門）も入来、夕刻ヨリ条公へ参殿議事有之、

一十日、登営、夕刻ヨリ大木氏へ差越示談、

一十一日、登城、今朝内田参ル、今夜村田新八（経満）・川村與十郎（純義）・篠原冬一郎（国幹）入来、

一十二日、今日五時ヨリ品川迄　御着輦為御迎参ル、大木・江東・島弁事等一同参ル、三時比御都合能御本陣江　御着輦伺

天気被　仰付、奉拝

龍顔候、終而木戸旅宿へ参ル大木等同道、岩倉卿参殿

種々御内評有之、今夜八字ヨリ帰宿、島津式部殿（久宝）・得能入来、

一十三日、天気好晴無片雲、従九字登営、議定始西城下へ出張奉待　鳳輦、二字　御着輦、御行列壮麗　天威堂々、貴賤簞食壺漿、実千載一時ノ盛典感喜不可言、

此時奥羽平定官軍奏凱歌帰府数千、豈又偶然乎、今夜野津・伊集院等参ル、

一十四日、就所労不参、

一十五日、登城今日於　御城

天顔拝被　仰付、「天盃シャク」一・羽二重二疋拝賜

被　仰付候、冥加ニ堪ヘス候、今晩伊地知正治（季靖）入来、

一十六日、登城、退城懸　岩倉卿へ参殿、木戸・大木会議鎮将廃セラレ候事件等談合、

一十七日、登城、今日ヨリ　親臨氷川神社　勅祭被　仰出候、今日モ退出懸　岩倉殿参上、人材黜陟之議御評決、

一十八日、登城、退出懸　三条公へ会議、今日　親臨、三条公辞表被　聞食輔相是迄之通被　仰出、

今晩於条公諸局ノ人物御黜陟御評議、

一十九日、定刻登城、

主上親臨、三条公鎮将公辞職被　聞食御布告相成候、
従而鎮将府被止、是迄鎮将府弁事或ハ会計局判事等凡
而被止候而、可用ノ人物御登庸相成御内評也、
今夜得能参ル、来ル廿二日発足スルトノコト、

一廿日、登城、人物黜陟之論紛々、予中等ノ論ヲ立ルト
イヘトモ、不行之勢アリ、不得止入夜退　朝、今夜鶴
丸・石原来ル、

一廿一日、早出岩倉公へ参上、種々議論相立且内情等詳
ニ言上、帰京之内願略御聞済有之、得能旅宿へ参ル、
前件相話シ同人大ニ安心セリ、今夜初更ニ帰ル、

一廿二日、十一字登城、今朝来客夥シ、
今日東京府変革ノ論喧々、烏丸置不置ノ論アリ予可置
ノ論ヲ主張ス、先ツ其議ニ決ス、山口(尚芳)範藏退不退ノ論
モアリ是以不可退ノ論ヲ張ル、未決、

一廿三日、今朝松浦竹四郎、福原内匠家来印南丈四郎等
参ル、十一字参　内、今日楮幣ノ論アリ、及ヒ山口不
退ニ決ス、
御国四名中井・肝付・前田・伊集院被免
今日於　御書院諸侯ヲ被召臣等
御前ニ被召御酒肴拝賜、
一今夜吉井従北越来ル、秋月・坂田(悌)潔も参ル、

一廿四日、今朝岩輔相ヨリ依召参殿、種々内諭小子発足
迄之間大基本ヲ立ラレ度是非一層尽力セヨ云々、午時
過登　城入夜帰退、今夜内田・石原・鶴丸及黒田等来、

一廿六日、今朝越前藩酒井孫四郎其外客来多、午后内田
氏へ相訪、夫より町田(久成)氏へ訪ホテルへ差越洋料理給候、
サトーモ来ル、
一今日海江田子病気ニ付外宿、

一廿七日、大宮駅氷川社

行幸ニ付七字　御出輦、小子も供奉被　仰付、五字比ヨリ参　内供奉イタシ候、所々　御休等ニ而　御機嫌克浦和駅
行在所へ　御着被為在候、

一廿八日、今朝七字　御出輦、氷川社　御参詣被為在、二字浦和宿へ御着輦　行在被遊候、

一廿九日、七時浦和駅　御発輦、所々御小休等ニテ三字比東京城　御着輦被遊候、

一晦日、就風邪不参、

十一月中

一朔、就風邪不参、中村・本田早朝入来、中井従前夜入来、昼后中井等同道歩行イタシ候、

一二日、今日不参、

一三日、今朝岩輔相公へ参殿、夫ヨリ小松家へ差越、

一四日、今日ヨリ参　朝入夜退出、

一五日、参　朝、箱館府之変事相達候、徳川亀之助へ御達之評議有之、退出ヨリ中井へ参ル、

一六日、休日トイヘトモ参　朝、今朝岩輔相公へ参殿、退　朝掛木戸同道ホテルへ差越、中井も参ル、

一七日、参　朝箱館へ山口等被差立候一条、外国へ応接之ヶ条等評議、今夜鶴丸参ル、
今日議参横濱出張、

一八日、今朝内田へ入来、参　朝、従今日宇和島公・久世公（東久世通禧）・木戸横濱へ出張有之、

一九日、参　朝、今日於桜田御邸角力相企、見物イタシ

鬱散イタシ候、酔月楼ヘ参リ壮会也、

一十日、参　朝、

一十一日、昼后吉井同道岩輔相公ヘ参殿、夫ヨリ吉井ヘ離盃イタシ候、

今日西郷〔従道旧名〕信吾子着、

一十二日、今朝段々客来アリ、参　朝、慶喜一条奥羽小藩等御所置等之議事アリ、慶喜謹慎断然被免賊艦処分為致候活眼之御所置アラマホシク及議論候得共、外異論無之候得共　条公異議アリ今日迄不決候、

一木戸帰府ニテ今晩酔月楼ヘ同道イタシ候、中井・町田来ル、

一十三日、今朝吉井発足、勝安房〔義邦〕入来云々内願承リ候、

岩倉公ヘ参殿形行明決有之、今晩御逢之御都合ニ候、

参　朝之条公不参ニ付亦々岩公ヘ出テ帰宿、

一十四日、今朝勝入来、願書草稿持参云々談置候、十二字条公ヘ参殿、阿州侯・久世公・副島二郎㊟会議、慶喜謹慎御免之一条種々評議有之、先願之通被免候筋ニ相決候、

今晩副島同道島団氏〔団右衛門〕ヘ参ル、

一十五日、今朝長谷川入来、芝田藩某参ル、木戸氏ヘ訪

参　朝、退散掛岩輔相ヘ参殿、

一十六日、十字大木江訪到柳橋某船宿、千年玉垣従為北郭旧知遇于鯉與女、旧遊屈指既五歳共話往事尽歓楽期再会帰、

一十七日、今朝村上常右衛門ナル者来、箱館府属吏也、脱艦一条云々、参　朝、慶喜謹慎御赦免一条尚有議、

今夜堀直子〔堀直太郎〕来、

一十八日、今朝黒羽藩中村貫之丞来ル、参　朝、今晩新嘗会御神事、

御遙拝被為　在相詰候、　御庭ヨリ御遙拝所ニテ供奉
冥加至極也、

一十九日、今朝長岡藩稲垣平助参ル、参　朝、今日議参
分課御治定、今夜鶴丸・石原来ル、

一廿一日、今朝庄内何某来ル、参　朝、退出ヨリ鶴丸・
石原同道北郭〔吉原〕辺遊行、尾亭・金子亭等ニ到相遇帰、

一廿二日、今朝黒羽侯(史大関増勤)入来、内田参ル、十字参仕、今日
仏・蘭・イタリヤ参　朝、無御滞相済候、就
出御小臣等相詰候、
今夜副島入来、段々密話ニ及候、

一廿三日、今朝福原内匠殿入来、同藩両人青山勇藏・石
原等参ル、十一字参　朝、
今日英亜フロイ参　朝、万端御都合克被為済候、

一廿四日、今朝仁田三郎(本ノママ)昼后条公へ参殿、　還幸之義有
之且輔相卿一人東京滞府否之議有之、
今晩肥后(後)米田虎之助依招深川松元邸ニ至ル、

一廿五日、今朝勝氏・北島(秀朝)氏等入来、十一字比参　朝、
就　還幸種々議論評議有之候事、

一廿六日、今朝条公へ就召参殿、奥羽列藩御所置御質問
ニ付見込申上置、昼后副島入来、御処分一条種々議論
承ル、三字比北郭金子へ参、中尾へ差越十一字帰、

一廿七日、八字参　朝、今　還幸ニ付諸事御評議、来月
上旬御出輦御発表、

一廿八日、
主上浜御殿へ　御出、海軍就　叡覧供奉イタシ候、富
士艦武蔵船へ御乗船、富士艦運動イタシ亜墨利船ヨリ
祝砲数発、富士艦ヨリモ応砲数発、誠勇々敷次第也、

此日天気朗静　初テ　叡覧之日万端御都合殊ニ
天機麗敷、誠ニ皇運隆盛海軍興張之基本相立候瑞表ナ
ルヘシト、一同万歳ヲ唱奉リ候、二字退出角觝場ヘ潜
行シテ帰、

一廿九日、今朝依召条公ヘ参殿、薩長云々ニ付御配慮之
次第有之、種々御内話拝承イタシ候、岩倉公ヨリモ依
召参殿、梅川江至ル、玉垣・千年川参ル、北郭金子ヘ
溯ル二字比帰宿、

一卅日、今朝内田・谷村(昌武)来ル、参　朝、就
還幸種々有議、尤奥羽・北越賊藩御所置ニ付副島・木
戸相談シ候、今夜木戸江参リ種々相談シ候、

十二月中

一朔日、今朝谷山参ル、参　朝、奥羽・北越列藩御処置
御治定、今夜鮫島誠藏(尚信)来ル、

一二日、今朝堀右京亮(之美)殿入来、稲垣平助義も入来、参
朝、

一昨夜橋口二郎(吉次郎変名)一条ニ付木戸ヨリ承候趣有之、訪内田氏
云々相談シ、金子亭江参谷村誘引、

一三日、内田氏・堀入来、橋口一条種々相談シ今日ハ不
参、又々堀・谷村同道内田氏ヘ参リ橋口一条云々決ス、

一梅川亭ヘ両士同道参、千年来ル、

一四日、今朝参　朝、

一五日、参　朝、奥羽列藩御所置有再評議入夜帰、

一六日、今朝内田氏入来、昼后参　朝、三字ヨリ北郭金
子江参、谷村参、

一七日、今朝副島氏入来候参　朝、今夜内田氏・田尻氏
・谷村氏・堀氏・鶴丸・玉垣・千年等参、

一八日、今朝四字参　朝、未明

主上御出輦、川崎御休、戸塚御泊、

一九日、払暁当所　御発輦、大磯御休、小田原江御泊七字比、着御、

一十日、五字　御発輦、箱根宿御休、三島御泊四字過、着御、

東京西京へ飛脚被差立書面出ス、

一函嶺越　御ニ付為御祝御肴拝領、

〔表紙〕

明治元戊辰十二月九日ヨリ三年
三月十八日マテ

日事要録　二

大久保利通

日事要録二　明治元戊辰十二月九日ヨリ三年三月十八日マテ

大久保利通

東京　四里半
川崎　六里
八日　戸塚　五里十二丁
平塚　四里二十六丁
九日　小田原　四里八丁
箱根　四里廿八丁
十日　三島　六里六丁
吉原　二里卅丁
十一日　蒲原　三里三丁
興津　二里卅丁
十二日　府中　五里半六丁
藤枝　六里廿五丁
十三日　掛川　三里半八丁
見付　四里八丁
十四日　濱松　三里卅丁
荒井　五里六丁
十五日　吉田　二里二丁
赤坂　三里半九丁
十六日　岡崎　三里卅丁
池鯉鮒　四里十二丁
十七日　熱田　三里
佐屋　三里
十八日　桑名　五里卅五丁
石薬師　四里九丁
十九日　関　四里

土山　六里五丁

廿日　石部　二里半七丁

草津　三里半十二丁

廿一日　大津　三里

廿二日　京

供奉の仰蒙りて東京を立ける時

むさし野に消残りても露の身の

立かへるとはおもはさりしに

十二月

八日、未明

主上東京

御発輦、小生供奉被　仰付候ニ付、四時ヨリ参　朝、

議定中山儀同卿（忠能）阿波中納言（蜂須賀茂韶）公等也、岩輔相卿（岩倉具視）供奉被

仰付候得共、就御用少々御猶予也、品川迄輔相参議為

御送出張有之、川崎御休ニ而戸塚御泊、

一九日、未明戸塚

御発輦、大磯御休小田原御泊七字、御着

一十日、五字小田原　御発輦、箱根宿

御休、三島駅エ四字過　御着輦、今晩東京西京エ飛脚

被差立候ニ付、岩輔相公岩下（方平）氏エ紙面出ス、

函嶺無御滞越　御ニ付、御肴拝領被　仰付候、

一十一日、五字当所（箱根番所）御発輦、吉原　御休ニ而蒲原御泊

四字過　御着輦、吉原ヨリ富峰ノ眺望絶言語候、況乎

従　鳳輦我輩此地ヲ通行シ名山ヲ見ル事固ヨリ可有コ

トニアラス、時運ノ変遷実ニ意外ト言モ愚也、

大君の行幸たにある代にあひて

ふしの根さへも動くなるらむ

一十二日、五字過当所　御発輦、興津御休ニ而四字過府

中　御着輦　御泊、今日天気快晴殊暖気数里歩行、

鳳輦親近於倉沢駅於御前望前海景色清麗、富岳雪ヲ頂

キ山際ニ超越シ恰如画図、此行此景於天下後世誰不羨

乎、

一十三日、今朝四字過当所　御発輦、十一字藤井駅(ママ)御休ニ而九字掛川エ　御着輦　御泊、従昼后雨降所謂佐与中山ノ名所道路蹂躙殆困苦也、依而　御着輦甚遅、

一十四日、六字当所　御発輦、見附エ十一時　御着輦、御休ニ而四字濱松エ　御着輦御泊、

一今朝東京ヨリ一報有之、英国船函館ヨリ帰浜之報知ニ、開陽・回天共暗礁ニ当リ運動不調、近日函府ヲ復し候趣、

鳳輦の供奉してかれ是とおもひつゝけて
大君の御馬の塵の数にいりて
富二を見んとはおもひ懸きや

一十五日、五字当所　御発輦、荒井　御渡御都合能十一字荒井へ御着、　御休ニ而五字吉田エ　御着輦御泊、

一今日篠原御用所ヨリ二川迄歩行、　御輿脇供奉凡五里位、

一十六日、当所六字前　御発輦、赤坂　御休ニ而今夜七字知鯉附ニ　御着輦御泊、

一今日岡崎御泊ノ御宿割ニ候処、昨夜岡崎駅就出火俄ニ御転宿ニ而当所エ相成候、小生事御先エ参リ探索イタシ候様被　仰付、　御先行ニ而刑法官駅逓司等エ引合段々及尋問候処、出火ハ全付火ニ而何モ子細無之候、

一西尾藩領内土民租税之事ニ付蜂起之趣有之、右之事件モ及探索刑法駅逓司エ達置候、

一今晩　御着輦、直ニ御本陣エ出仕、

一岡崎火災ニ罹候者共一同エ御救金被　下賜候、軒数四十二エ金子五百両賜り候、

一十七日、六字当所　御発輦、宮駅エ二字　御着輦、

一刑法山田一郎左衛門、駅逓司田中三太郎、三河県判事岩本才二郎エ、西尾領百姓混雑ニ付探索一条有之、供奉不致　御発輦、参館十一字頃同所発途五字当所エ着、

一昨夜正親町三條(実愛)公当所エ御着相成、今日就　御着輦御滞在ニ而候、

一十八日今朝四字半当所　御発輦、十一字佐屋御着之処風烈ニ而、川　御下リ不被相調、当所　御泊輦被遊候、今日ハ桑名　御泊之処俄ニ当所　御滞輦ニ而、荷物等先行イタシ候故別而困究也、阿州侯小拙ノ衣服御借用也、

一十九日、今朝三字過当所　御発輦、四日市ヱ十一字御着輦、御休ニ而関江八字　御着輦御泊、

一小生御先行ニ而二字当所発足、桑名ヱ四字着、四日市迄供奉致シ、岩輔相公志州鳥羽ヱ御着船ニテ、今夕関駅ヱ御待受之由ニテ先行致シ、六字半岩輔相公御着、御本陣ニテ　拝謁致候、

一今日参与中江大隈八太郎(重信)御差留ニ付紙面出ス、

一廿日、五字過今朝当所　御発輦、土山江十一字御着御休ニテ、六字過石部ヱ　御着輦御泊、

一廿一日、六字過当所　御発輦、草津ヱ十一字御着　御休、三字大津　御着輦　御泊、於御本陣彼是勤仕致シ候趣ヲ以テ天顔拝被　仰付候、中山卿御取伝也、

一廿二日、当所五字　御発輦、粟田御殿ヱ　御休ニテ十一字比目出度　御着京、無程御留主供奉之三等官以上天顔拝被　仰付、二字比退散、

一今晩新納嘉藤(立夫)二子・海江田士(史)信義・岸良士(史)兼養・鎌田士(史)政夫等入来、

一廿三日、今日供奉之面々休日被　仰出不参、今日岩下・新納士・海江田士・鎌田亦入来、

一廿四日、今朝長藩小野石齊(述信)士入来、十二字参　朝、今日ハ御所出　御ニ而百官被為召、東京西京大事件之条言上相成候、大隈八太郎(重信)ヨリ耶蘇教事件申上候、

一来ル廿八日　御婚姻之大礼被為行　立后之御決定被為在候、

一岩輔相公(岩倉具視)ヨリ依命木戸ヱ一封差出候、七字退　朝イタ

シ候、

一廿五日、今朝五島藩家老入来、従今日四字下坂イタシ候、

一廿六日、払暁着坂、税所(史)方江参、吉井(史)友実同居也、伊地知壮子(壮之丞)モ入来、木場(史)清生子モ入来、同断、今夜旅宿ヱ帰、

一廿七日、今朝中井(史)弘氏入来、昼後小松(史)清廉参与江訪、吉井・伊地知入来ニテ段々及議論候、今晩十一字帰宿、

一廿八日、今日昼后税所方ヱ参、囲碁或ハ絃歌ヲ奉シ忘年之一会也、十字帰、

一廿九日、今朝重野(安繹)子入来、御国元政体一条種々有評議愚考相談置候、昼后税所・吉井同行訪木場子、中井・伊地知モ来ル、十一字帰、

明治二年己巳正月元日ヨリ

正月

一元日、天気快晴少催暖和、新年之嘉慶可祝、況乎昨春之新年ト相比候得ハ、霄壤ノ懸隔ニ而誠ニ感歎ニ不堪候、中井方江参同行訪小太夫、吉井・伊地知・重野参、尤政体規則草稿成ル、種々論談増補三大体治定ス、十字帰、

一二日、今日木場・伊地知・吉井・税所・中井等入来、

一三日、今日上京イタシ候ニ付小松家入来、御国元御変革一条種々談合愚存以書取差上置候、木場・伊地知事中井・重野入来、昼后ヨリ一同網島町(久成)田氏旅宿鹿島別荘江出張、吉井モ入来、酌離杯七字相別出船イタシ候、

一四日、夜船ニテ不埒明、今日十字伏着上京イタシ候、岩下家江立寄四字帰宿、

一五日、今朝黒田(㊟清隆)入来、昼后参　朝、
一今日横井平四郎(小楠)二字比退　朝ノ節逢暗殺候次第相分、
段々評議有之、
一同人旅宿　勅使被下候、
一家来手負之者江治療手当金トシテ四百両被下候、　家
来四人ノ由、
一肥後重役御呼出ニテ取紛御達シ、刑法軍務京都府江御
達相成候、九字退　朝、
一大和郡山生柳田房吉倅柳田直藏廿五才計、夷川中町角中
村屋梅ト申者裏口エ斃レ居、重傷ヲ受候ヲ京都府江捕
エ候由、此申口ニ外ニ肥後藩鹿島又之允ト申者同列之
段申出、他ハ言舌分リ兼候由、柳田懐中ニ
横井平四郎
此者是迄之姦計不遑枚挙候得共、姑舎之、今般夷賊
江同心シ、天主教ヲ海内江蔓延せしめんとす、邪教
蔓延候節ハ　皇国ハ外夷ノ有ト相成候事顕然たり、
併　朝廷御登庸之人ヲ殺害ニ及候事深ク奉恐入候得
共、売国ノ姦要路エ塞居候時ハ前条ノ次第ニ立到候
故不得止及天誅者也、
天下有志
一六日、今朝大山格之助(綱良)・小原(㊟鉄心)等入来、十一字比ヨリ岩(岩倉具視)
輔相江参殿種々御伺申上候、一字比参　朝、横井一条
未委事不相分候、別段評議モ無之三字比退　朝、島津
主殿(久篤)殿江参、
一七日、今朝黒田了介(清隆)入来、今日白馬御節会ニ付十一時
参　朝、横井一条十津川郷士数名相関り候ニ付、同郷
取締所江相立御人撰ヲ以早々御召相成、制度規則被相
立取締行届候様無之候而ハ、往々如今般暴動難図旨ヲ
以建議イタシ候、退　朝掛岩輔相公江参殿、　朝廷根
軸相立候様之一条、外国江公卿四五名諸藩ノ士極精撰
ヲ以遊学被　仰付候儀今日急務ノ一条、
主上御羽翼ノ任木戸・副島(㊟種臣)両人侍読ノ名目ニテ被相居
候様ノ一条、大坂失体ノ一条、会計ノ一条等言上候処
御同意ニ候、

一今晩海江田・岸良・種子島・鎌田之数子入来、

一八日、今朝軍曹畑泰之進(㊐秦林親)・重野等入来、軍功　御褒賞ノ一条議論云々付弁論ニ及候、田尻務子入来、十一字参　朝、今日京都府判事松田正人(道之)出席云々有論、十津川郷江御沙汰相発候、

一退出后髙田木齊・脇坂進両人入来、横井殺害一条関係イタシ候大木主水・塩川廣平一条承候ニ付、廣沢(㊐真臣)江添書ヲ以差出候、今夜海江田・黒田入来、

一九日、今朝海江田入来、十一字参　朝四時退散、秋月侯公用人為御使来ル、

今晩岩輔相卿御出、段々　御談シ拝承、尚見込申上候様御沙汰、十二字比御帰、

一十日、今朝小松家・伊地知・吉井江書面差出候、今日不参、二字後藤江(㊐象二郎)参種々示談、大坂ノコト段々忠告ニ及候、

今朝新納氏入来、

一十一日、休日不参、十字廣沢江訪段々及示談候、二字帰省、

一十二日、今朝黒田嘉右衛門(清綱旧名)子・鎌田子入来、十一字参朝、後藤東下被　仰付候、四字過退　朝、今夜伊地知壮之丞(貞馨)上京入来、

一十三日、十字参　朝、今夜伊地知・岸良入来、今日条(㊐三条実美)公御着、

一十四日、十字過参　朝、今日　岩輔相御辞表ニ付有議論、願意被　聞食候筋愚論相立候、今夜於圓山、長・土・廣沢・板垣(㊐退助)等及一会候、

一十五日、今日暫時参　朝、岩輔相一条有議粗決定也、今日八条殿町尾崎某居宅へ転宿、今夜海江田・鎌田・

中井入来開祝莚、

一十六日、休日不参、岩下家・新納入来、今日書状認候、
今夜岸良入来、　今夜半従御国元蓑田（伝兵衛）・伊集院（左中）問合達、

一十七日、十字参　朝、従今日規則相立分課座席等相定候、岩輔相辞表被　聞食、議定一廉ニ而席頭被　仰出候、御辞表一条ニ付後藤・廣沢三人、岩倉家江参殿イタシ無程御参　朝有之、

一夜前蓑田・伊集院問合之趣取扱被　仰付御用有之候、
朝廷御暇百日又ハ三十日御願申上、急ニ帰国候様ト之趣故、退　朝懸岩下氏江参リ相談ニ及候、

一十八日、雪降五寸計十字参　朝、今日ヨリ議参分課等一切規則被相定候、

一十九日、今日休日ニ而不参、四字海江田江参ル、岩下家江御暇一条示談之用アツテ也、岩氏ヨリ副島江示談ノ処同人不承知之由也、

一廿日、今朝後藤氏入来、十字参　朝、種々有議　御発輦三月中旬ト御治定、

一御暇之一条従岩倉輔相卿御受合、且　勅使云々之御内慮モ被為在候付、当月中見合候様　御沙汰拝承仕候、仍之小松家・吉井滞坂小生下坂、直ニ同船ニテ可開帆見合之由故、今日ヨリ下坂之義奉願候、

一四字比副島江立寄伏見江暮着、木藤角太夫従御国元今日着之由、

一趣意ハ御国元兵隊御処置何モ御手不相附云々内情モ有之、早々小子　朝廷御暇申上、帰国候様　御沙汰被仰含候御使、上京イタシ候様トノ事ニ而八字相別乗船致候、

一廿一日、払暁大坂着船税所方江参リ同宿イタシ候、昼時分ヨリ小松家旅宿江一同参リ段々及示談候、今夜京都弁事ヨリ問合参リ候、

一廿二日、今朝雨ニテ出立延引、一字前陸路発途、馬上ニ而枚方江三字過着、淀江暮前鳥羽ニ而日没九字帰宿、

一廿三日、十字参　朝、退散掛　岩倉卿参殿種々御談拝承、今夜岸良・木藤・中井入来、

一廿四日、十字参　朝、今朝筑後牧直人(後直木)入来、退出ヨリ直ニ岩下家同道、清雅亭江参、書画文房具一覧、今夜到于万亭土州板垣退介等誘引也、

一廿五日、今朝十字参　朝、會津降伏人御預、越後府一条有議四字退出、

一廿六日、今朝後藤子従大坂一封達ス、岩下氏・新納氏・海江田・中路(延年)同道、三樹茨木屋ヱ参文房具一覧、后岩下氏同道清水迄乗廻イタシ候、帰懸　条公江参尤御使行逢候也、従大坂浮浪士一条申来候付、岩倉公モ御出云々御示談拝承、

一廿七日、十字参　朝、浮浪士云々ニ付御動揺ナキヤウノ趣意ヲ以一紙建言、岩倉公御引受ニ而御取扱ニ決ス、其余種々有議、

一今朝海江田入来、

一廿八日、十字参　朝、軍功賞典之議有之、百万石御宛行之事会計有論不決、今日税所子上京、

一廿九日、十日(字カ)参　朝、軍功賞典百万石ヲ以御宛行候議決ス、

一勅使柳原侍従(前光)殿薩州江、

一同萬里小路弁殿(通房)長州江、

右

御内意被　仰出、長州江ハ長門守(毛利広封)差添、薩州江ハ小生御差添被　仰付、

一御趣意ハ

皇国王政一新今日之盛時ニイタリ候ハ、畢竟薩長年来之苦心尽力之貫徹スル所以ニ而　叡感不斜候、猶前途之事別而御大事ニ付、深　御依頼被遊候ニ付所労ヲ扶、上京候様云々賞典ノコト、

一卅日、十字参　朝、
岩倉殿江参候、
勅使一条ニ付諸事相伺、
一今日御国江之　勅使柳原右少弁(前光)殿江被　仰付候、
一長州江之　勅使萬里小路右少弁殿江被　仰付候、
一小生江柳原殿　勅使就御下向御差添被　仰付候、
一岩下氏同道島津主(久傳)殿江参、御手当向等諸事相談シ候、
一今夜木藤・岸良参ル、

二月

一朔日、休日不参、今朝三光院・永平寺・小笠原某等入来、

一二字柳原殿江相伺、右少弁殿江謁シ諸事御談申上候、
一木屋町土州下陣江　岩倉殿就御招参上、徳大寺卿(実則)・中(経之)御門卿・越前老侯(松平慶永)・宇和島侯・長州若侯・廣澤・大隈子等参集也、今夜ニ入過退散、

一二日、今朝主殿殿・木藤等入来、十一字参　朝、
今日　勅使柳原(前光)殿一緒ニ
玉座ニ被為召、輔相公(三条卿)御伝ヲ以　御趣意巨細御達、且宸翰ノ御沙汰中将公(久光)ヘ一通拝見被　仰付退出、
長州江之　勅使萬里小路(通房)殿・長門守(毛利広封)殿御同断ニ而候、
四字比退出、

一三日、今日税所下坂、九字岩倉殿江参上、尚又委曲之御趣意相伺候、十字参　朝、今日会計之義ニ付評議有之長岡等之事相決、

一四日、今日不参、就帰国仕舞イタシ候、今晩岩倉卿江参殿種々相伺候、

一五日、十字参　朝、二字退朝、晩景輔相卿江御暇参殿、
今晩岩下・八田（知紀）・後醍院（真柱）・新納（嘉善次）・木藤・岸良・海江田
・鎌田之諸士入来、別杯且詠歌等入雅興、

一六日、今日十字発途、従伏見十一字発船六時前阪着、
木藤同船、西奉行所税所一緒旅宿、

一七日、今朝客来多々、従輔相卿牧直人・岸良七之丞（兼養）為
御使下坂三岡（八郎・由利公正）云々之事件也、大限入来云々示談及御答
候、且岩倉公御下坂之義申上ル、今夜中井等入来、

一八日、今日昼后ヨリ中井方江参、夕刻西本願寺江差越、
七字　勅使御着暫時拝謁退出、今夜木場入来、

一九日、昼ヨリ木場・新納入来、四字比岩倉卿就御着、
坂府江出勤、今夜大限両人被召段々有議、

一十日、早朝西本願寺江参ル、岩倉公御出ニ付被召候也、

一岩倉卿於別席御示諭有之候也○所労ニ付中将（島津久光）公御断ニ
而ハ　勅使之詮無之候ニ付、暫時御猶予御願ニ而、尚
見込之処長門宰相（毛利敬親）公ヲ以大綱之見込可申上、曲折ニ至
リ候而ハ兼而太守（島津忠義）公東京江被召候ニ付而ハ其節可申上
云々○三月上旬中ニ太政官百官之見込御下問衆議ヲ採
リ大綱御治定、　御発輦東下之上四月中旬ニハ諸侯江
御下問被為在御治定、尤其節薩長之議論ヲ本ニシ百官
ト議セラレ、一定之処ヲ以諸侯江御下問之御手順ニ候
旨○外国之事誠ニ御大事ニ候、全体尊攘ノ二字ヲ以今
日之形勢ニ及、凡尊ノ一字ヲ以如此形勢ニ及候上、終
ニ攘ノ字ノコト大ニ議論アルヘシ、就而ハ外国ノ事件
ニオヒテハ、是迄御失体相成候ハ是々ノ事件ニテ、彼
ノ汚辱ヲ受候儀故、爾后新政府之御着目如此ナルヘシ
トノ趣意ヲ瞭然相尽シ、国人ノ方向モ定リ、外国人ニ
於テモ感伏スル程ノ条理ヲ立テ、御建言有之度云々○
何ク迄モ薩長ヲ根本ニイタシ候トノ御趣意、今夕木場
・新納入来、

一十一日、今早朝相仕舞税所一緒乗船、於天保山沖外国船江乗　勅使既ニ御乗船、十一字三十分開帆海上平和疾如矢、

一十二日、東洋航海終日不見山、

一十三日、初見外浦山未明山川沖通船十一字着船、二字比　勅使御上陸　太守公（島津忠義）ハ御召船迄御見舞、中将公（島津久光）ハ御所労中ナカラ、浜端迄御出迎ニ而御伺被為在候、　勅使御立宿江御入ニ而御入城、

一一応小松家江立寄、

一二丸登城

中将様江拝謁、

御本丸江参殿暮前帰宅、今晩客来段々有之、

一十四日、今日モ登城、退出ヨリ小松家江参、伊地知（正治）・吉井（幸輔）・桂家（久武）モ出会ニ而段々及評議候、

一十五日、今朝客来段々有之、出殿、今日　勅使ヨリ中将公江之　御達命有之御都合克被為済、尤　太守公御名代ニ而御承知被遊　中将公為御礼　勅使江御伺相成候、

今夜税所・得能（良介）・吉井入来、

一十六日、今日二丸江出殿、今日ハ　御両殿様照国社江御参詣、　勅命之趣被仰上候、今日ヨリ筑地御茶屋江出席、伊地知正治（孝増）江政体取調被　仰付候付差越、桂家・小松家・吉井・伊地知正治也、筆者重野（安繹）等参、今晩大山弥助（巌）所へ参、吉井同道也、

今度政体御変革ニ付而ハ人材御撰挙之義第一ニ而、決而私見ヲ去リ公平ニ其人ヲ御用、広ク人物ヲ挙ルヲ要トセリ、就テ川村（純義）・伊集院（兼寛）・野津（鎮雄）等之隊長連中大ニ議論有之、今晩取会右之論ニ及大ニ公平寛大之説ヲ唱ヘ、諸士之論ヲ挫候得共、更ニ承伏不致終ニ不及合論引取候、只着眼ノ相違ニ依テ、雲泥ノ如ク変シ失望至極ニ候、迚モ見込之立兼候趣ヲ以破談ニテ引取、西郷（隆盛）云々

之コトアリ、

一十七日、今朝村田新八（経満）入来、前夜之事ニ付云々承リ候、

仁禮（景範）・江夏（仲左衛門）入来、筑地御茶屋江出、二丸江出殿、

一今日御両殿様於二丸隊長拝謁被　仰付、数件言上有之候、

一宮之城図書殿（久治）　御前ニ於テ御詰問被為在候、明日辞退之書附被差出候筋御沙汰、

一伊地知壮之丞（貞馨）・奈良原幸五郎（繁）免役相成候、

一今日築地御茶屋江出、

一十八日、築地御茶屋江出席二丸出殿、川村・伊集院殿被召云々御沙汰有之、

一十九日、築地御茶屋江出席、二丸江出殿、伊集院・川村重相談ス、吉井一条ナリ、

今晩税所入来、

一廿日、築地御茶屋江出席、凡政体治定　御両殿様江相伺、則日伊地知・桂家参政御直達相成候、今晩入夜帰、

一廿一日、今日ヨリ御相談ニ付知政所（旧御家老座）江出席候様被　仰付罷在候、

一橋口彦二・大迫喜右衛門（貞清）・伊集院直右衛門（兼寛）江参政被仰付候、

一御側役所ヲ被廃内務局ト被改候、知家以下被　仰付候、七時帰退、今晩岩倉卿・木戸江書状認候、

一廿二日、今日　勅使就　御発途五ツ時御召船江乗込御待迎申上候、四時　御乗船被為在候、拝謁之上引退知政所江出席、今日会計局・軍務局被召建陸軍所・会計方被廃候、

軍務局惣裁

島津伊勢（諏訪甚六）

会計惣裁　欠

今晩大山格之助（綱良）入来、長州御使者杉孫七郎云々也、

一廿三日、石原・得能子・重野入来、知政所出席、
一今日糺明局・監察局被召建、監察局総裁大山格之助(綱良)、糺明局総裁橋口與一郎江被　仰付候、監察糺明奉行数名被　仰付候、
一退出ヨリ長杉孫七郎江為見舞差越候得共外出中也、小松家江立寄尤吉井同道也、
一廿四日、知政所出席、今朝重野建言御草案持参故、席中廻覧両君公江相伺、吉井同道杉孫七郎江差越候、御返答之趣相達候、
一廿五日、今朝西郷吉之助へ参、同人昨夜帰宿依テ也、四時出勤、今日長州御使杉孫七郎(重華)　太守公拝謁被　仰付候、
一西郷江参政被　仰付候、吉井同道二丸江出席拝謁候、
一廿六日、五ツ過二丸江出殿、巳刻　中将公御発駕　御乗船被遊候、
一照国社江参詣菅廟・南林寺参詣　墓参イタシ候、白濱氏江参リ帰ル、
一廿七日、十時出殿四時比帰ル、山田材介子・藤井・石原入来、
一廿八日、十字出席、今夜得能子・石原子入来、
一廿九日、十字出殿三字帰ル、山本蘇仙江針療ヲ頼、
一晦日、十字参仕三字比退出、

三月

一朔日、不参、
一二日、不参石原直士同道磯紡績器械等拝見トシテ参ル、
一三日、不参、今朝得能氏・大迫氏(貞清)入来、二時比ヨリ得能子同道原良小松家別荘江差越候、

一四日、今朝伊集院等入来、十一字参仕、退出ヨリ伊集院同道桂家江参ル、

一五日、十一字比参仕三時退出、

一六日、伺之事有之出殿拝謁、小松家江立寄帰ル、

今夜郡山氏〔二介〕入来、

一七日、十一字比参仕、

一八日、今朝三邦丸着船、来ル十一日出船、小生帰京ノ筋相決　太守公達　御聴候、退出ヨリ得能氏・石原氏共召列磯紡績器械拝見トシテ差越、今日ハ運動有之精功奇々妙々言語ノ及所ニアラス、外国人之知見我ニ勝ルコト幾許ソヤ可恥可歎、暮ヨリ桂家江参候処留主、西郷江訪同氏モ来居ラレ小生帰京ニ付種々談シ帰ル、

一九日、不参、小松家江訪種々談シ帰ル、今日南林寺江参詣、今日税所従温泉帰懸入来、無隠老〔郡山一介隠名〕入来、

一十日、十一字参城、

一今日於　御休息所　御短刀左安吉　三所物赤銅七子　御手カラ拝領被　仰付候、此度ハ其方致帰国就変革段々骨折イタシ呉候故ヲ以都合克相運、別而令安堵候トノ　御沙汰拝承、何共恐懼ニ堪サルノ次第候得共謹テ御受仕候、長ク家宝タルヘキモノ也、

一島津多衛門〔求馬〕子入来、

一今夜西郷氏・得能氏・税所子等入来、

一十一日、今朝ヨリ段々客来有之、桂家モ入来御用談有之候、無隠老其外類客満席酌離杯、四時告別発足三邦丸江乗船五字過発艦終夜航海、

一十二日、外之浦辺ニ而夜明天気平穏順風宜疾如矢、鶴崎ヲ過候而日暮終夜航海、

一十三日、御手洗手前ニテ天曙、少々雨降トイヘトモ航海無碍、

一田上利兵衛今朝ヨリ不相見得、船中一同不審ニ存及探索候処尋得ス、一封之書置様之物有之投身之姿ニ相見得候、誠ニ意外之次第也、

前条段々承候得ハ、東京公用方理事見習被　仰付候而別而心配ノ由、定テ迫リテノコトト相見得タリ何ソ狭少ナルヤ、

一前条気付候ハ十一字比ナリ、今朝ヨリ居間ニ見得サレトモ思寄ラムコトナレハ、人々定メテ他ノ部屋ニテモ参居候哉ト差心得候由、此時讃州丸亀辺ヘ参居候、

今夜小豆島江碇泊一字ヨリ航海、

一十四日、九字比摂海江着艦、伊丹七江暫時上陸、中将〔久光〕公昨日御下坂西本願寺御滞留ノ由故、則参館拝謁京師近情等拝承致候、今夜直上伏淀水ノ風景誠ニ面白、山上明月長川渺茫言語之所尽ニアラス、岸良彦右衛門・〔俊義〕海江田氏実母同船イタシ候、

一十五日、八幡辺ニテ天明ニ及曙色蒼々澱城之風景亦不堪賞、十字比伏水兼春江上陸、大山彦八〔大山巌兄〕氏・大脇正之助子来訪、馬上ニテ而入京竹田街道ノ風光最宜二字比着、今晩新納〔立夫〕氏・海江田氏等入来、

一十六日、今朝種々来客、十字岩倉卿御参殿、

一太守公御東下延引ノ歎願イタシ候処、御所労ニ而可然云々西郷御召一条云々ニ付、云々御答ニ及三字比ヨリ下坂発途挙鞭候、木戸氏被立寄及論談五字辞去、暮前着伏暮過発船、今夜月色清々二字過着坂、

一十七日、税所氏旅館江同宿、十二時西本願江〔寺脱カ〕参館中将公〔島津久光〕拝謁致候、今日岩倉公御出囲碁之興有之、吉井・國女等来居也、

一十八日、十一字比西本願江〔寺脱カ〕参館参仕、

中将公拝謁、三字比ヨリ吉井・木場舟遊、岩倉家江参殿、同卿御誘引舟中囲碁ヲ催シ候、頗ル雅興也、

一十九日、中将公御発途ニ付七時過西本願寺江参殿イタシ候、二字比ヨリカノ津吉助所へ参ル、牡丹全盛可観、岩倉卿吉井・木場・國女等同遊囲碁ヲ催シ暮前帰、

一廿日、今朝吉井入来、二時心斉橋辺へ歩行、

一廿一日、岩倉卿江参上、発足枚方手前迄馬上ニテ乗船イタシ候、伏見江暮ニ着直ニ帰京、

一廿二日、参　朝二字后退出、今夜田尻〔務〕氏・皆吉〔五郎右衛門〕子入来、

一廿三日、不参、二字比ヨリ田尻・皆吉同行道具見ニ差越種々得物有之、今夜皆吉入来、

一廿四日、参　朝二字退出、乗廻イタシ候、

一廿五日、十時参　朝、退出后岩下氏・吉井同行菅廟参詣、寛歩イタシ吉井氏ヱ立寄候、

一廿六日、不参、岩下氏・新納〔立夫〕子・吉井子・皆吉子同道中勘江道具見物トシ差越候、

一廿七日、十一字参　朝、退出ヨリ岩下氏ヱ参囲碁相催候、

一廿八日、十一字参　朝、岩下家・新納家・吉井等同道道具見物所々見物、拙宅伴帰囲碁相催、久留島・後藤〔豪二郎〕・白濱入来、今朝岩倉公御出相達、

一廿九日、今日不参、御国元江飛脚相立宿元状シタ、ム、昼后ヨリ永平〔臥蟹〕寺旅宿江相訪、岩下家・新納氏・吉井氏・海江田氏・後藤・白濱氏同行也、種々饗応ニ預候、

一晦日、今朝村田巳三郎〔氏寿〕子入来、十字参　朝二字退出、海江田〔有村連〕氏実母入来、

四月

一朔日、不参、今朝松代長谷川深美子入来、学校ノ義ニ付段々議論有之、其外高論承見誠感伏ニ堪ス候、当時無他事人物ト目シ候、海江田氏入来、

一勢州　大廟参詣、年来宿願ニ候得共、十年来多事ニシテ不果頗ル遺憾ニ候処、今般帰京、御再幸御留主ニテ御用相少ク、別而ノ機会ト存シ不意ニ促シ、今日ヨリ発途イタシ候、五字馬上ニテ相発首夏ノ景色ヨロシク、蹴上辺ニテ眺望スレハ、深樹青々トシテ日将暮佳光不可謂、嗚呼一昨年迄ノ焦思苦心一死ヲ投コト幾回ヲ知ラス、敢テ今日此行ヲ以テ此景ヲ観ルコトヲ期セン乎、世運ノ変遷実ニ如夢、往事ヲ想像シテ程ナク大津ニ着暮過ル時ナリ、

一二日、今朝六ツ半当所出立急行、石部江十二字比着、休飯相給シ坂下江暮過着一泊、

一三日、今朝六過当所発足、急行十二時比津江着、休昼飯給暮山田江着、凡路程二十里位也、梅岡屋林兵衛所江旅宿、

一四日、今朝早天案内者召列内宮参拝、

宝祚長久、国家安全、武運長久奉誠願、夫ヨリ直ニ外宮江参拝同断、誠ニ伝聞スル処ヨリハ殊更古雅ニシテ、世ノ大山荘厳華麗ヲ究シトハ霄壌ノ相違、纔ニ一茅社ニシテ草木荒ル、然リトイヘトモ

神霊巍々然トシテ如在身心実如洗、

皇国之万国ニ冠タル所以、此地ヲ拝シテ始テ可知也、年来之志願相達歓喜何物如之、御炊太夫江立寄猶亦大々御神楽奏上相頼候、於当所昼飯給急行イタシ六時勢州津宿江着一泊、

一五日、早天当所ヨリ飛駕十一字比坂之下駅ニ至ル、昼飯給一嶮坂ヲ歩行ス、至峠飛駕別テ急土山ヲ過キ水口ニ至ル三字過比也、石部迄ノ間路程至テ遠シ五字前着、是ヨリ弥急駕ニシテ六字草津江着、

一六日、早天当所発十一字比京着、
一於蹴上備後殿（島津珍彦）東京出立掛相謁、
一此行ヤ六日之間天気能一日モ雨具ヲ着ルニ不及実ニ大幸也、
一税所子出京ニテ早速入来、今夕岩下・吉井来尋、
一七日、今朝田中五位（㊟不二暦）入来、岩倉卿ヨリ被仰含候御用有之也、御ヶ条書落手致候、
一長谷川深美モ入来也、
一昼時分税所子入来、新納氏・八田氏・吉井氏同道道具見物トシテ処々差越、（㊟正義）松方旅宿江相訪、
一八日、不出、税所・松方入来、
一九日、税所下坂、今日九字ヨリ田中五位旅宿江参ル、岩下家・木戸入来、種々示談ヲ遂ヶ候、二字比帰ル、
一十日、不参、今朝吉井入来、二字比押小路殿（㊟実潔）江参殿、種々示談承リ候、四字比ヨリ岩倉殿江参上、吉井参ル、種々御示談承リ候、今夜囲碁催シ有之候、
一十一日、不参、暮時ヨリ岩下氏江参ル、
一十二日、不参、岩倉公依召木屋町土佐邸江参上、木戸・田中五位・加賀権作・渡辺昇（武常）・吉井来会ナリ、東京会議之御手順并浮浪士処置一条評議有之、入夜帰宿、
一十三日、今朝村田新八・新納嘉藤二子入来、昼小倉壮之助・寺田平（弘）之進入来、
一御国元江書状差出ス、
一十四日、今朝長谷川深美子入来、
一十五日、不参、今夕吉井子入来、
一十六日、不参、昼后参于岩倉家御参中也、訪岩下家画

人□白参ル見其画、岩下同道訪新納、吉井子入来、

一十七日、今朝岩卿江参殿、夫ヨリ参　朝一字退出、今日海江田子・岩下氏・新納氏・吉井子来尋、

一十八日、今日下坂発途掛訪木戸氏、伏水ヨリ三字解纜、今夜九時着坂河内江旅宿、

一十九日、江夏・五代（友厚）・松方等諸子入来、

一廿日、木場・江夏・松方等入来、昼后岩倉卿江参殿、

一廿一日、二字ヨリ乗船五時比開帆、兵庫へ暫時碇泊出帆、

一廿二日、航海遠州灘風浪強終日終夜不能挙頭、

一廿三日、今日十一字横濱入港則上陸一泊也、村田新八・江夏蘇介（仲左衛門改名）・寺田平之進・小倉壮九郎（知周）・吉井同道也、

一廿四日、早朝発足二字比東京着、今日中井氏（弘三）江立寄旅宿へ帰着、鶴丸・石原入来、

一廿五日、腫物ニ而不参、吉井・中井・大限氏・内田氏（政風）等入来、

一廿六日、田尻氏・皆吉氏昨日着ニ而入来、五代入来、

一廿七日、不参、今日談合有之、田尻氏・内田氏・吉井子・村田子入来、昼后中井・町田氏等入来、

一廿八日、十字廣沢氏入来、輔相公云々之趣ヲ伝ヘラルヽ也、中島（錦風）五位岩卿ヨリ云々ニ付入来、当地之事情種々承リ候、岩公ヨリ紙面賜ル、

一廿九日、十字岩倉卿御出、即今事体実ニ切迫種々当地

之趣御承知被遊候処、御承知毎ニ御歎息之事而已ニテ、兎角此上ハ御英断ヲ以進退等モ被遊候而、大御変革不被為在候テハ被遊様無之、別而御憤発之御旨趣ニテ予ガ心中モ申上ル、其外種々論談御帰リ也、

一今朝石神良策江腫物治療相頼入来、

一晩景ヨリ吉井入来云々相談、中井モ入来、鷲津九藏(毅堂)輔相云々ニ而入来、

五月中

一朔日、今日モ不参、十字　輔相卿御沙汰ニ依田中五位入来、五代一条云々御相談也、昼后森金之丞(有礼)入来、晩景ヨリ鮫島誠藏(尚信)子入来、

一二日、今日モ不参、十字内田仲之助(政風)子入来、村田子入来、昼后松方助左衛門(正義)・堀直太郎(為彰)・中井等入来、今晩岩倉卿江参殿云々一条御示談申上ル、大原卿(重徳)議定云々之義承ル、嗚呼是ヲ以テ事之成可ラサルヲ知ル、実ニ慨歎ニ堪エサル次第ナリ、其意書外ニアリ、

一三日、今朝鮫島士ヲ招　岩倉公江云々ノ義申上ル、昼后ヨリ吉井子入来云々示談、

一今日彦之(長子利和)進着、

一四日、不参、

一五日、今朝鮫島岩公御使トシテ入来云々承知、昼后東久世公(通禧)入来、即今之処実ニ御大事、廟堂両立ノ姿愚存御尋相成度トノ御事故、熟考之上御答ニ可及申上置、後藤(退助)・板垣同道入来云々示談承ル、愚存相答且一紙入一覧候処遣シ呉トノ事故遣置候、今晩云々ニ付岩倉公江参殿云々申上ル、

一今日石原・鶴丸入来、

一六日、不参、門脇少造(重綱)入来云々示談、

一七日、今朝小牧(昌業)子入来、昼吉井子入来、

一八日、土方〔久元〕入来五代一条條公御尋之事承、野津子并村田子入来、

一九日、亡父公〔次右衛門〕七回御相当ニ付、大円寺江仏事相頼十字后ヨリ参詣、石原子・江夏子入来、

一十日、所労ニ付従御前御尋ノ御使田中五位御菓子一箱拝領被　仰付候、西郷〔信吾〕・高城〔十左衛門〕・吉井等入来、

一副島子昨日就着入来、段々示談ニ及凡見込同意、明日岩公江同道参殿ヲ約ス、

一十一日、二字副島子江差越、岩倉家参殿公撰之事十分言上、御心得有之則明日参　朝、一同議ニ懸ル筈也、

一十二日、自今日参　朝、一応同僚中及評議一同無異条尚又輔相議定江議ス、皆無異論暮六時退出、

一十三日、今日八時参　朝、今日ハ三等官以上ヲ被食輔相、議定、参与入札被　仰付候、最主上神明ニ御誓ヒ開札ハ於　御前有之候、五字比退出直ニ訪吉井一泊、

一十四日、八字参　朝夜前御召也、今日知官事・副知官事入札有之候、

一十五日、吉井同道御邸江参ル、西郷初兵隊函館ヘ出軍也、十字過参　朝、今日輔相公ヨリ更参与職被　仰付尤　小御所出御被為在候、外ニ、後藤・副島奉命木戸・板垣御内決相成居候、東久世公モ参与被命候、

一十六日、十一字参　朝、版図返上ノ儀御評議有之候、凡草案出来相成候八字退ク、

一十七日、十一字比参　朝今日会計之議等有之候、楮幣外国人ヱ取引ニ付而之事通商司一条也、其外ハ止ム、

四字退出、

一十八日、十字参　朝、種々御評議有之、今夜十一字比退出、

一十九日、今朝内田・田中入来、十字参　朝、今日弾正台ヲ被置之評議決ス、尹ハ御見合ニ而大忠門脇(重愛)・吉井(幸輔)両人ノ筋御内定四字退出、今夜吉井・石原入来、吉井止宿、

一廿日、今朝五位入来、十字参　朝、今日軍功賞典ノ評議有之五字退出、今日島五位(義勇)旅宿移リ替イタシ候、

一廿一日、十一字参　朝、

一今日諸藩且五等官以上府県ニ至ル迄祭政一致之事件、蝦夷開拓之件　御下問有之、弾正台ノ事ニ付退出ヨリ吉井江訪一泊、

一廿二日、吉井同道十字参　朝、

一開拓局其余久留米侯ノ〔賣貨事件〕議事有之、

一佐原志賀之介・相良倩斉江面会開拓之見込承ル、

一徳大寺卿ヨリ四位　宣下ノ命ヲ拝ス、

一廿三日、今朝佐原志賀之介、教導方長谷川深美・小野石斉等入来、十字参　朝、

一種々御評議有之、

一廿四日、今朝斉藤(利行)参、十字参　朝、今日府県版図返上ニ付、知藩事被召会計之件御下問有之、吉井入来、副島モ同断、内田・田中入来、

一廿五日、参　朝、

一十津川御処置且川合等之御処分等ノ事議有之、

一廿六日、七字参　朝、休暇ナシ、

一今日会計副知事(大隈重信)・判事等出席、諸藩江正金金札繰替被

仰付候議有之、

一三字退散、副島同道吉井江訪、囲碁相催候、

一廿七日、十一字参　朝、

一軍功賞典被宛行候草案、或ハ弾正台人撰、其外種々御評議有之、

一今夜副島・北島(㊋秀朝)・鮫島一商人入来、通商司等之事ニ付事情承リ候、

一廿八日、十字参　朝、中井入来、

一廿九日、参　朝、

今日田尻京江遣ス書状等遣シ候、

六月朔日

一無休日、十字参　朝、　小御所　出御、御目見被　仰付恐悦申上退出、副島同道大隈江退出ヨリ参、途中有故外国官江暫時立寄候、大隈氏江参、吉井・五代・中井等来会、

一二日、今朝内田・田中入来、十時参　朝、今日軍功之諸侯・参謀・軍監等江賞典被行、大広間　出御ニ而席詰イタシ候、退出ヨリ副島江参ル、

一三日、今朝十字参　朝、会計一条御草案尚熟議有之退出、

一四日、十字参　朝、四時比ヨリ吉井相訪、内田・田中参示談有之一泊、

一五日、十字参　朝、知藩事一条名目ヲ改候而已ニテハイカヽトノ論有之、諸藩ノ内実ヲ挙朝裁ヲ待候モノ或幼少ノ者等、外ヨリ知藩事被命候方大ニ可然、イカヽト輔相公ヨリ御論相立候、未決ニ候事、

一今晩岩倉卿御出、副島・吉井・中井入来、囲碁催イタ

シ候、

岩卿ニハ御密談之次第有之、

一六日、休日不参、吉井・中井同道副島江訪囲碁相催候、

岩卿モ四時ヨリ御出、

一七日、今朝村田子入来、石原子入来、今日ハ不参イタシ候、四字比ヨリ吉井入来、御国ノ建言ニ付遂示談候、

一八日、今朝岩倉家参殿、十一字参　朝、今日種々議論有之、五字比吉井同道御邸江参、内田・田中・村田・黒田取会、　朝廷江被召出候人物黜陟ノコト談合、

一九日、参　朝、

今夜吉井入来囲碁相催、半次郎・辰次郎・安治ト小松女参、

一十日、今朝三条家参殿、十一字参　朝、今夜副島入来囲碁相催、

一十一日、今朝三条家参殿、榎本(武揚)御処置ニ付云々御示談甚本意ニアラサルハ云々御答、知藩事一条モ云々申上ル、

岩倉家参殿、吉井江訪、五代江説得同人許諾ス、

一今日副島江訪、囲碁之約有之吉井・松方参、

一十二日、今朝黒田子参、十一字参　朝、知藩事一条等御評議有之、今夜赤塚(源六)子・松方子・石原子入来、

雲藩　飯塚修平

越後長岡　小林雄七郎

右両人郡県論ヲ以テ参ル、

一十三日、今朝甲斐国都留郡川口村富士山北口本宮社務外川多内

参ル谷元右衛門(史道之)入来、
十字参　朝、
今日会計民部云々ニ付廣沢談ス、

一十四日、十字参　朝、会計民部ノコトニ付副島来談、

一十五日、今朝北島時之(秀朝)介入来、参与中両説云々付忠告有之、今朝直様副島一同岩倉家参殿及言上候而、木戸江相訪示談同道参　朝、同夜副島入来囲碁相催、

一十六日、休日不参、今朝南部藩某・桑名伊東某・勾当某及諸生小倉・寺田外一人入来、
一副島江徳大寺卿御出御談之義有之参候、
一徳大寺談合終リ御出、吉井・副島モ入来囲碁相催候、

一十七日、十字参　朝、会計民部ノ件、待詔局規則改ノコト、藩政ノコト等議事有之、
一今日知藩事被　仰付候事、
一今夜諸生三人入来、

一十八日、十字参　朝、待詔局規則ノコト等議有之、且政体一条云々議有之、

一十九日、今朝内田入来、岩倉家参殿、十字参　朝、

一廿日、十字参　朝、

一廿一日、無休日十字参　朝、今日兵制一条ニ付大村(史永敏)被召段々御評議有之、且長・土・薩三藩精兵被召候義及大議論候、
一今夕副島江参、碁会也、

一廿二日、今朝肥藩末家某等入来、十字参　朝、段々御評議有之、今夕吉井・副島暫時入来尤碁会也、

一廿三日、十時参　朝、大村(史)・吉井出仕種々及議論、三藩兵隊

御召ハ御決定ニ候、兵制之御治定甚六可敷候、
一今夜松方へ訪小河〔一色〕等集会ス、

一廿四日、今朝副島入来、十時参　朝、兵制一条大議論有之、断然建論イタシ候、
一今夕海江田氏入来、京外情実齟齬之事多ク、　朝廷上ニテ初議ヲ立候通ニ候、

一二十五日、村田・石原等入来、勝房〔海舟〕子来臨、十二字参　朝、今日モ兵制一条議有之藩兵ヲ外ニシ、農兵ヲ募親兵トスルノ軍務官見込決テ不安心ニ付、有名ノ者被召議論被聞召候様申上候、凡相決候、
一今日、

一廿六日、無休日十字参　朝、条公依召参殿、人撰等ノコト御下問云々申上ル、今日京師ヨリ家族着、吉井・内田等入来、

一廿七日、十字参　朝、

一廿八日、十字参　朝、

一廿九日、十字参　朝、
今朝副島子入来、今夕村田・松方等入来、

一卅日十字参　朝、退出ヨリ内田氏相訪、

七月

一朔日、無休日、岩倉公参殿、人撰書附内々差上ル、断然以英決御変革ノコト十分申上ル、十一字参　朝、
一今日副島・吉井・松方・海江田入来囲碁打共参ル、

一二日、十字参　朝、英国王子〔ジュニック・オフ・エヂンボロー〕就来朝礼式ノ事等議有之、

一三日、十字参　朝、従岩倉卿兵隊ノ一条云々御示談承候ニ付、十分ニ御迫申上御議論申上候処御了解被為在、

五代免役ノ事等御受合相成候、退出ヨリ吉井江訪、副島モ入来、六字同道帰ル、

一四日、十字参　朝、政体規則ノコト等其余議有之、

一村田氏入来、七字ヨリ岩倉江参殿、人撰等ノコト御談有之、心事具ニ言上、

一五日、今朝十時参　朝、英国王子就来朝礼式等尚又議有之、

一英国王子就来朝草莽士等議定・参与面会相願、岩倉卿・板垣・副島・小子一同面会イタシ段々及説得候、

一六日、無休暇、今朝草莽士両人来、尚又礼式之事ニ付議論承リ断然返答ニ及候、十字参　朝、明日ハ御人撰ニテ明後日政体御変革之筋被相決候、今日退出ヨリ吉井江参、副島モ入来囲碁相企候、

一七日、今朝副島江参見込ノ紙面遣シ候、十一字頃依召参　朝、人撰ノコト御談有之候、弾正ヨリ名前書ヲ以申出候趣有之御評議有之候、今夜中井参、

一八日、今朝訪吉井兵隊ノコト云々承ル、二字参　朝、最礼服御用召也、

一御書附　一通

一御太刀　一腰

拵菊桐御紋赤銅七子地

小御所出御、於　御前拝領被　仰付、恐多、年来励精太儀思食候、尚前途努力セヨトノ　勅語下サレ、輔相卿ヨリ是迄不一方国事尽力太儀ニ被思食、今度散官ニ被　仰付候ヘ共、尚前途御大事ニ付、尚更努力イタシ候様云々　御沙汰ニテ御書附被渡、御太刀ハ弁事ヨリ御渡ニテ候、誠ニ恐縮ノ至リニ堪エス感泣無他、

一待詔院学士　宣下ノ御書附一通、麝香ノ間上席従輔相公御渡ニテ尚御口達ノ趣、是迄格別尽力今日ノ盛時ニ至リ候ハ、畢竟其方等ノ力ニ依リ候、尚今日転セラルトイヘトモ夫々人ノ揃候迄ハ別テ多端ノ折柄ニ付、

毎日出勤大政輔佐仕候様云々、
一木戸(孝允)同様ニ被　仰付候、
一板垣(退助)待詔院学士同断、
一後藤(象二郎)被免限リニ候、
一今日御政体被相改、
右大臣　三條(実美)右大臣
大納言　岩倉(具視)大納言
同　德大寺(実則)大納言
参議　副島(種臣)四位
病　前原(一誠)彦太郎
一三字退散、
一今夜五代入来、
一九日、
一今朝訪副島子・海江田子入来、十二字御用召申来、直ニ参　朝之上待詔院江出席、
一人撰其他有議事、
一明日外国談判之義ニ付、退出ヨリ大隈子江訪種々及説得御受相成候、
一十日、不参、昼后五代入来大隈一条云々、吉井・村田・黒田入来兵隊一条等示談、
一十一日、依召十二字参　朝、待詔院学士被免出仕ト被仰付候、
一今日外国談判一条評議有之、
一今朝肥前閑叟(鍋島直正)侯御出、開拓一条御談有之、
一今夜吉井氏江参中井来ル、
一十二日、外国就談判休日、今朝副島入来、海江田子入来、十二字過ヨリ同道中井江参リ、小舟登墨水吉井ト前原(一誠)ヲ訪留主、墨水泝リ納涼イタシ帰ル、
一十三日、今早朝村田子入来、十字寺(陶蔵)島入来会計一条示談、二字比参　朝、
一今日大風雨処々痛損多シ、四字比ヨリ鎮リ候、

一十四日、十字参　朝、今朝雲藩小村均兵衛外一人入来、今日八省太輔以上弁事等会計ノ議有之、議論紛々不至決定、今夜訪吉井、

一十五日、今朝大円寺参詣、寺島江訪会計一条談合帰、村田子・松方子入来、桑原某入来囲碁、吉井入来、

一十六日、今朝副島子入来切ニ忠告承候、最木戸ノ一派大ニ不平云々ノ趣承リ候得共、不可動ヲ以説論、

一九字参　朝、蝦夷開拓議事有之大綱相決ス、退出ヨリ副島江訪、寺島来ル制度ノ示談有之、吉井・中井来ル、今日勝〔安房〕来ル、松方・海江田入来、

一十七日、十字参　朝、澤卿(宣嘉)出席外国悪幣ノコトニ付難題之儀有之、外国会計ノ談判悪幣ノ内、工拙ヲ分融通イタシ候外無之云々ノ趣申出有之、今日ヨリ寺島為内談横濱江至ル、

一十八日、八字参　朝、大隈・伊藤参朝、尚悪幣ノコト議有之、今夕右大臣殿御出参議御受ノコト御手厚承ル、

一十九日、依召条公江参殿、今朝外務・大蔵・刑部・民部参議・弾正等集会、尚悪幣ノ一条評議有之内地悪幣通用差留、外国悪幣引替ノ義ニ決ス、今十一字ヨリ外国公使談判有之、

一退出后村田其外諸生数名入来、吉井入来、談判之都合宜キ趣承ル、

一副島子一寸入来、

一廿日、十字参　朝、参議御受ノコト右府公〔三条公〕ヨリ重々御沙汰承候得共、何分目的相立兼細々存慮申上御断申上候、退出ヨリ岩倉公江参殿就御引入種々言上仕候、

一廿一日、参　朝、今日参議ヲ被命候一条ニ付種々言上、廣沢ニモ小生御受仕候得ハ御受可仕トノ由ニ而、右府公無余儀御沙汰承リ、勿論不得止次第モ有之御受ニ断

決イタシ候、退出ヨリ吉井江訪副島モ参ル、

一廿二日、十字参　朝、板垣参議御受ノコト、且岩倉公御参ノコト等右府公江申上ル、今夕海江田入来、

一廿三日、今朝副島同道岩倉公江参上段々申上候、十字参　朝、

一今日参議宣下坊城大弁（俊政）ヨリ被相渡候、

一廣沢同様被宣下、

一松方・吉井・村田入来、

一廿四日、今朝岩公江参殿、御出仕ノコト尚又御進メ申上、凡御決定被成候、十字参　朝、

一退出后岡本監輔入来、唐太（樺）ヨリ今日着ニテ、彼地ノ近状承リ実ニ不堪驚駭候、白濱久太夫入来、

一廿五日、今朝旧会小林某来ル、十字参　朝、

一今晩松方、赤塚入来、

一廿六日、十字参　朝、英王子就参朝水師提督席順ノコト評議有之、退出ヨリ副島江参、

一諸生三人入来、今夜吉井入来、

一廿七日、今朝十字参　朝、王子就参朝習礼等有之、

一村田・黒田ヨリ兵部一条ニ付云々申立之趣有之云々申上候、

一今日両士入来種々示談ス、

一廿八日、今朝海江田参ル、訪副島九字参　朝、今日英（ア）王子（ルフレッド）参　内ニ付衣体衣冠ニテ相詰候、万事無御滞被為相済候、十字比退　朝イタシ候、此事件心痛ノコト候処、殊之外無事相済実ニ安心之至ニ候、今夕

一廿九日、今朝副島江訪候、十字参　朝、

八月

一朔日、今朝参　朝之上岩倉公初条公江立寄、大納言・

参議延遼館江王子為見舞行向候、食事等一同イタシ角力見物暮比引取候、

一二日、今朝十字参　朝、副島江立寄候、蝦夷開拓唐太(樺)一条御評議有之、杉浦江小出(秀実)談判ノ次第御聞糾相成候、

一三日、今日英王子横濱江引取候付、廣沢子同道延遼館江差越右府公(三条実美)御出相成居候、十二字出立ニ付軍艦(ガラテア)迄相送、尤兵部卿宮(嘉彰親王)モ御出ニ付王子案内ニテ船一見実ニ不堪感伏候、

一今夕廣沢・副島入来、前途目的ノコト熟論イタシ、廣士モ外ニ異論無之安堵致候、

一四日、今朝山岡(鉄太郎)入来、郷純造参、十字参　朝、今日大御目的之御評議有之凡建言通相決候、先々大慶也、今夕吉井江訪東久世公一条ヲ談議ス、

一五日、今朝黒田参ル、外務省御受ノコト段々及説得候処承知相成候、十字参　朝、開拓就御用途大蔵省ニ御議論候、十二字廣沢(真臣)・副島(種臣)同道兵部卿宮(嘉彰親王)ニ参殿、随従馬車ニテ一字過ヨリ相発五字少シ過横濱江着、九字ヨリ公使館ニ参ル、王子・公使其外来客多々、婦人相集舞ノ興有之、国振トハ大ニ替リ珍敷見物致候、

一六日、今朝横濱ヨリ馬車ヲ発、佐水(敬洲)迄一字比着、

一七日、今朝山岡入来、十字参　朝、大蔵民部出席月給等ノ御評議有之、今夕谷元兵右衛門入来、

一八日、今朝山岡入来、副島入来、十字参　朝、種々御評議有之、今日三邦丸出帆ニ付書状等遣ス、

一九日、今日卯刻ヨリ濱殿江行幸、

一八字ヨリ副島ニ相訪、岩殿参上運上所江イタル、岩公(岩倉具視)・閑叟公(鍋島直正)・澤公(澤宣嘉)・大隈(重信)・寺島也、十二字比ヨリ英公使(パークス)参唐太(樺)一条種々質問岩公応答也、三字比終濱殿ニ岩公・

閑叟公・沢公共ニ参ル、御園ノ風景可愛、於　御前御酒肴被下、且秋衣之御題ヲ賜、

かきりなきめくみの露をから衣
かけていく世の秋をかさねむ

五時退散、

一十日、十字参　朝、従今日
親臨議事被　聞食且御基則相立、政府目的之御書附拝見被　仰付列名仕候、蝦夷一条議有之、

一十一日、無休日、十字参　朝、蝦夷之評議有之尚又今朝条公参殿、北地出張断然奉願候、尤及決心候也、段々御評議有之御不決也、

一十二日、十字参　朝、今日開拓方大蔵等出席段々評議有之、
御前議事モ有之候也、今夜吉井・黒田参ル、

一十三日、十字参　朝、　小御所　出御御議事有之、

一十四日、今朝勝入来、十字参　朝、待詔院集議院基則并合併ノコト決ス、

一十五日、十字参　朝、開拓ノコト評議有之、退出后訪副島、吉井参ル、

一十六日、昼ヨリ訪吉井・白濱参ル五字帰ル、勝入来、副島入来、

一十七日、今朝小島入来、九字参　朝、十字　御評議出御被為在候、東京府大参事参　朝、府内窮民ノ一条評議有之候、

一十八日、今朝小島入来、丸山作楽(正路)蝦夷一条ニ付云々示談承ル、十字参　朝　御評議　親臨被為在丸山作楽ヨリ蝦夷開拓長官出張之義有之、

一退出后副島ヲ訪、何分政府目的貫兼候ニ付、屹ト御決断可被任人ニ被任候様有之度趣篤ト及示談候処、同意ニ付則同伴岩公エ参上十分忠告イタシ、只今通ニテハ前途目的不相立候ニ付、是非判然ト可被任人ニ御任シ有之度、今日徒ニ重禄ヲ食候儀実ニ不本意之旨反復申上候処、委曲御承知明日迄御熟考可被成ト之事也、

一十九日、九字参　朝、　小御所　出御有議事、従三字一同右府公エ参殿、廣沢・副島共ニ即今之政府御目的ニテハ迚モ見留不相付候ニ付、可被任人ニ被任候様何レノ筋判然ト一途御決断可有之旨及言上候、

一廿日、十字参　朝、　小御所　出御、御(衍カ)退出ヨリ又々今日右府公ヘ参殿、(岩倉具視)納言同様ニテ、開拓長官且窮民救助ノコト等御決議有之候、

一廿一日、不参、黒田入来、四字ヨリ勝(安房)エ訪、

一廿二日、十字参　朝、　御前評議被為在候、退出后吉井入来、

一廿三日、今朝十字参　朝、　御前評議有之候、蝦夷開拓種々紛説有之、段々勘考之趣有之建論イタシ候、谷元・丸山等江篤ト申達置候、

一廿四日、今朝東久世(通禧)公開拓長官町田被遣候事共、岩公江建論一封ヲ呈シ候、委曲御承知之趣也、一寸訪副島子東久世ノコト示談、

今日亡(東久世)北堂公正御忌日ニテ不参、従十字勝房州(義邦)入来、晩景吉井参、

一廿五日、十字参　朝、　御前評議有之、

一廿六日、十字参　朝、今日大広間

出御、六省被召出窮民救助之　詔書拝聞被　仰付、月給返上ノ義従右府公御談示一同御受有之、退出后四谷辺乗廻シ米穀毛上一覧イタシ候、格別損シ候処不相見

候、今夕吉井訪、

一廿七日、九字参　朝、　小御所
出御議事有之、東久世(通禧)開拓長官御受相成段々議事有之
候、退出ヨリ岩公亭江右大臣殿始メ出会有之候、

一廿八日、十字参　朝、　御前議例之通、今日政府御用
済右大臣殿・納言・参議常　御殿江被召、英王子参朝
等骨折思食候ト之　勅語被為在、御酒看賜リ殊ニ　天
酌ヲ以　御杯被下恐惶不可言、且御包物(小判五十両・御印籠一・羽二重一疋)
御手賜之候、
今日之事豈容易ナランヤ、卑賤之我輩
玉座ニ近侍シ、親シク　綸言ヲイタヽキ、莫大之恩賜
ヲ蒙リ反省仕候得共如夢之仕合、子孫タルモノ厚鑑ル
可キコト也、
今夕吉井江訪、

一廿九日、十字参　朝、　御前評議被為在候、

九月

一朔日、休日不参、二字ヨリ吉井江訪、

一二日、十字参　朝、　御前評議有之、

一三日、今朝岩倉公家参殿、十字参　朝、　御前評議有
之、退出后柳川両名入来、

一四日、十字参　朝、　御前評議有之、今夕訪副島子、

一五日、十字参　朝、　御前評議有之、

一六日、今朝暫時参　朝、吉井同道処々寛歩イタシ候、

一七日、十一字集議院出席、贋金一条御評議有之候、今
夕宮島(誠一郎)入来、黒田・吉井入来、

一八日、十字参　朝、　御前評議無之、今夕小倉入来、

於京師大村エ混雑乱暴ノコト相達、岩倉卿御使入来ニ付、吉井江示談有之参候、

一九日、為参賀参　朝、　出御無之、退散ヨリ吉井江訪同道大平宅エ参候、今日ハ日柄ニ付相催シ面白候、

一十日、十字参　朝、慶喜以下御処置ノ御評決有之候、出御無之、

一十一日、休日不参、勝子入来、

一十二日、今朝副島入来、十字参　朝、墺スタリヤ公使参　朝席詰イタシ候、退　朝后宮島(誠一郎)入来、

一十三日、十字参　朝、　御前評議有之、退出訪副島、

一十四日、十字参　朝、　退出ヨリ副島エ訪、今日慶喜以下処置前原異論云々、依而相談トシテ廣沢同道副島エ訪、

一十五日、十字参　朝、　御前評議有之、退出ヨリ廣沢同道副島エ訪、

一今朝前原エ訪、慶喜以下御処置云々ノ事件ニ付、篤及示談候処異論無之候、

一十六日、休日不参、今朝総徳院様(阿部家北堂)御使参ル、内田仲之(政風)助子昨夜着ニテ入来、黒田・吉井入来、内田ヨリ御国元左右委曲相達安心致候、

一十七日、今朝石原子入来、十字参　朝、　御前評議有之、且慶喜以下御処置ニ付榎本(武揚)一列云々右府公御論相立、今日段々議論有之候、

一十八日、今朝十字参　朝、　御前評議有之、今日モ従右府公御書翰ヲ以、榎本一列ハ佛談判之上ト決定候得共、最早凡榎本一列申ロハ相分居候間、佛談判ニ於テ

必ス子細有之マシク思食候ニ付、是非今日ニ御決評云々トノ趣也、今夕吉井・黒田入来種々遂示談候、

一十九日、十字参　朝、　御前評議有之、今日又々従条公御紙面、榎本一列佛談判ノ上ニ御処置可然、就テハ慶喜以下寛大御処置今日不被行候共、機会ヲ失スルト申スコトニモ有之マシク候間、三四十日延引イタシ可然トノ大意也、嗚呼此慶喜以下御処置御宥恕ノコト、大御目的上ヨリシテ初発ヨリ御決議ニテ取調相済候ニ、榎本一列延引ニ依テ此御処置モ御延引トノコト不得其意次第也、今夕副島入来種々歎息ノ談ニ及候、

一廿日、今朝岩公エ参上、十字参　朝、　今朝榎本事件慶喜以下云々ニ付、内々御談シ拝承仕候得共断然見込申上候、　御前評議有之、

一廿一日、今朝荒木・黒田入来、昼后吉井訪同行、目黒辺江乗廻シ候日暮ニ帰ル、

一廿二日、就　御誕辰為参賀、九字参　朝、　出御被為在恐悦申上退出ヨリ延遼館江行向、各国公使一同招請納言徳大寺・副島也、四字引取吉井江参ル、内田・田中等入来也、

一廿三日、十字参　朝、　御評議有之、退出后副島氏入来、

一廿四日、十字参　朝、　御前評議有之四字退出、

一廿五日、十字参　朝、　御前評議有之三字退出、

一廿六日、今日礼服御用召ニテ十字参　朝、大広間出御大納言徳大寺卿侍席、大弁坊城殿ヨリ御書付被相渡為賞典高千八百石下賜叙従三位候

宣旨被相渡候、実ニ恐縮之至ニ不堪候、

一右府公（三条実美）始岩公（岩倉具視）以下復古功臣賞典被相行候事、

一今夕吉井・内田・田中・石原入来、

一廿七日、集議院　行幸、海陸軍議事被聞召候、供奉相勤候、退出ヨリ徳大寺卿・岩公・鍋島侯江為御礼参上、

一廿八日、今朝勝入来、副島入来、十字参　朝、御評議有之、

一廿九日、十字参　朝、御評議有之、退出ヨリ条公邸江参上、納言・参議一同也、帰懸副島ヱ訪、

一卅日、今朝黒田入来、十字参　朝、　御前評議有之、退出ヨリ吉井江訪、

十月

一朔日、不参、今朝黒田入来、今日細工人夏雄召呼候、副島入来、

一二日、十字参　朝、　御前評議有之、退出后伊集院直右衛門(兼寛)入来、知事公(島津忠義)昨日神奈川御着之由、今夕吉井入来、

一三日、今朝金沢岩田信輔入来、十字参　朝、　御前評議ナシ退出后無事、

一四日、十字参　朝、　御前評議有之、

一五日、十字参　朝、　御前評議有之、今日知藩事公御着邸之旨申来候付参上、

一六日、休日不参、黒田・鮫島入来、昼后ヨリ黒田同道副島江参、

一七日、十日(字カ)参　朝、　御前評議有之、

一八日、就所労不参、伊集院・川村来ル、

一九日、不参、小牧子入来、

一十日、今朝吉井・副島・黒田入来、今夕村田・吉井・副島入来、

一十一日、不参、昼ヨリ副島入来、今夕碁打参、

一十二日、不参、黒田子入来、今夕寺島入来、

一十三日、不参、黒田入来、今朝副島子入来、

一十四日、不参、風雨、無来人、

一十五日、不参、今朝副島子入来、今日伊集院・村田・川村・黒田相招、今一層国ヨリ朝廷江尽スノ愚論相立各同意ニ候、

一十六日、黒田招キ尚村田・川村朝廷ェ進ンテ尽スノ義相托、尽力イタシクレラレ候様談ス、許諾、昼后吉井江訪形行示談イタシ候、今朝内田入来、

一十七日、今夕副島子入来、

一十八日、不参、黒田子入来、邸中村田等ノ一条云々ニ付、小生参クレ候様トノコトニ候、副島・吉井入来、

一今夕御邸江参候得共不及発言帰ル、

一十九日、伊集院・種子田（政明）・黒田入来云々承候、今又御邸江参、村田・川村江十分存慮申述候、村田ハ所労ニテ一応治療之上ヨロシク候ハヽ、直ニ御受可致トノコト、川村断然御受ニ決シ候、先安心ニ候、

一廿日、今朝副島入来、伊集院入来、小子進退ノコト等相談ス、今夕訪副島氏、

一廿一日、不参、副島子・吉井入来、囲碁打共参ル、東郷嘉一郎・堀清之丞（基）モ入来、

一廿二日、

一廿三日、

一廿四日、不参、今夕刻御邸江参、小子帰国ノコト等伊集院江談シ帰、今夕岩公御出ノ由、副島子江御出相成居候段申参候ニ付差越候、

一廿五日、伊集院・篠原（国幹）・黒田等入来、吉井モ同断、小子帰国一条各異論無之由、則今夕黒田・副島江参リ呉レラレ候筈ニ約シ候、

一廿六日、今日白濱入来囲碁、今夕副島子入来、黒田モ入来、

一廿七日、黒田入来、吉井入来川村一条云々談ス、

一廿八日、今夕副島子入来、小子進退一条云々内諭承知候、

一廿九日、不参、昼后黒田子入来、今朝副島子江一封遣ス、小子帰国ノコト不被行候付尚又及熟考候処、今日御国元ニ尽スコト能ハスンハ、小子待詔出仕江転シ木戸江至誠ヲ以示談、薩長合一ノ根本屹ト尽力致候方、当分ヨリモ　朝廷ノ御為メ可相成存込候間、是非待詔転勤ノ義相談申遣候処、今夕黒田迄成ラサル旨返詞有之候、

十一月

一朔日、今朝副島江参、尚又転勤之事及示談候得共同意無之、何レ小子ヨリ右府公江直談ニ及候筋相談シ帰ル、今夕又訪副島、

一二日、今朝条公江参上、小子転勤ノコト詳細趣旨申上候処、尤モ思食候得共、只今転勤ニテモ被　仰付候テハ大ニ人心ニ関係、又廣沢ニモ進退歎願ニ及候事ハ案中ニ候間、左様相成候テハ迚モイタシ方無之、先是迄ノ通奉職致候様云々拝承、仍テ一先従前ノ通可相勤旨

断然御答申上候、尤当六月御受申上候節御約束申上候趣ハ、御含置被下候様云々申上ル、黒田子入来、石原子入来、今夕御邸へ参リ伊集院等江形行申入置候、

一三日、今朝堀子入来、今日迄ハ不参イタシ候、今夕副島子入来、

一四日、今日ヨリ参　朝イタシ候、退出ヨリ大限江訪、示談アリトイヘトモ雑客故不能其儀帰、副島同行黒田子入来、唐太(樺)云々ノコトヲ談ス、

一五日、十字参　朝、　御前評議有之三字退出、退出掛訪木戸留主ニテ帰、今夕訪吉井、

一六日、休日不参、黒田入来、副島入来、二字ヨリ訪廣沢、副島・前原モ入来、

一七日、今日種子田(政明)・小沢(武雄)・大野(実義)子等入来、十字参　朝、退出掛吉井同道訪副島夜入過帰、黒田入来、同人進退ノコトニ付段々及示談、尚篤ト勘考イタストノコト也、

一八日、今朝黒田入来、九字集議院出席、衣服ノ制評論討議有之、徳大寺公御出席也、四字退出、今夜黒田入来、此内ヨリ段々進退ノ儀忠告イタシ、進テ尽力有之候様申入置候処、種々申入候筋厚汲取、此上ハ断然御受可仕段決答承候、

一九日、十字参　朝、退出后訪黒田子、寺島入来、

一十日、今朝黒田入来、十字参　朝、鉄道御開ノコト評決有之、今夜黒田・川村子入来、

一十一日、休日不参、副島同道訪吉井、囲碁ノ企有之、

一十二日、十字参　朝、　御前評議有之、退朝后無来人、

一十三日、今朝黒田入来、品川(実弥二郎)云々之義承候、十字参朝、

一十四日、十字参　朝、　御前評議有之、横井(小楠)暗殺ノ者断刑ノコト御評議有、退出后伊集院・川村・吉井・江夏子等入来、

御邸返上、兵隊帽子ノコト相談有之、

一十五日、今朝黒田入来、十字参　朝、今夜副島入来、

一十六日、休日不参、吉井子・黒田子入来、今夕副島・江東(実新平)子入来、

一十七日、今朝宮島入来、十字参　朝、弾正ヨリ横井暴挙ノ者御処置ニ付建論有之、其旨趣横井云々罪状アルニヨリ罪一等ヲ減スルノ趣也、然リトイヘトモ未決、

一十八日、十字参　朝、横井云々ノ事件ニ付愚存申出置候、退出ヨリ神田橋御邸江参村田・伊集院江云々示談、

一今日知事公(島津忠義)旅宿江御出被下候、留主中ニテ不都合ノ次第ニ候、今夕黒田子・勝氏入来、長藩横浜書生入来、

一十九日、今朝土肥(実匡)甲府知県事入来、小倉子入来、十字参　朝、御評議有之、退出ヨリ篠原子江訪弾正一条示談イタシ候、

一廿日、今朝田中・篠原入来、弾正一条云々返詞承候、十字参　朝、横井一条御評議有之、兼テ言上ノ通小子上京断然御決定ノ処御内定ニ候、今夕種子島・帖佐(実彦七)入来、

一廿一日、今朝休日トイヘトモ九字参　朝、弾正江横井殺害ノ者御処置御評議有之不相決候、昼ヨリ退出、

一廿二日、今朝勝氏・黒田子入来、勝氏(海舟)兵部大丞御受ノコトニ付及議論候、十字参　朝御評議有之、退出ヨリ

知事公就御召御邸江参、吉井・寺島其外大隊長・教佐・教導等同席也、

一廿三日、十字参　朝、佐々木(高行)参　朝、横井ノ一条御評議有之、今夕伊集院・川村・黒田・吉井子入来、

一廿四日、今日鹿児島知事公(島津忠義)就御発足早朝参上イタシ不参也、川村子・内田子同道向島辺乗廻候、今夕新嘗祭被為在候、長谷部卓爾・堀子入来、

一廿五日、今朝土肥権知事(謙蔵)入来、十字参　朝、今夕井上聞(馨)多入来、

一廿六日、休日不参、黒田子入来、同伴訪副島子、

一廿七日、川村子入来、山田(市之丞)云々一条示談有之、十字参朝、越后府新潟開港一条ニ付、民部・大蔵・外務等出席御評議有之、今夕石原氏入来、

一廿八日、今朝訪吉井、十字参　朝、今日御評議有之、今夕岩倉卿・吉井子・副島子入来、岩卿ハ今日前原ヨリ山田兵部省(顕義)御受一条云々言上スルヲ以テ、御示談トシテ御出有之候ニ付、愚存ノ趣申上候、

一廿九日、今朝川村入来、十字参　朝、横井一条ニ付弾正江御尋有之、今日十二字后ヨリ兵部省(和田倉門内・旧会津邸)一廓出火有之、三字比迄ニ鎮定イタシ候、黒田子入来、

一卅日、十字参　朝、御評議有之、今夕無来人、

十二月

一朔日、今朝岩公江参上ノ処御参　朝跡ニ相成、訪黒田子小子帰藩、木戸同行ノコトヲ談ス、岩公副島江御出ニ付相訪、小子愚存言上御異論無之、

一二日、今朝黒田入来、集議院出席、岩公御出、条公御談合ノ上、小子進退正月迄及延引候様云々御沙汰也、

然リトイヘトモ愚意ニ不適故直様参　朝、条公尚又委細申述候処、尚明日岩公其外御談ノ上御決答可被成トノコト故、則廣沢子江参、無伏臓相談シ候処同人異議無之、尚今夕中及熟慮相答可申トノ事也、

一三日、今朝副島子江参尚又篤ト及示談候、十字参　朝今日　御前評議有之、小子進退ノ事尚前原江及示談候処異論ナシ、岩公条公亭江御出小子帰藩ノ事御談シ、御内決被為在候段御紙面承知イタシ候、今夕訪木戸子、段々目的ノコト、且同行一条等細々示談ニ及候処、格別異議無之帰家、黒田参居篤ト及示談候、

一四日、十字参　朝、　御前評議有之、今夕副島子入来、

一五日、十字参　朝、　御前評議有之、今朝黒田子入来、退出ヨリ神田橋御邸江参、伊集院・川村・吉井子等一会、小子帰藩ノコトニ付示談ニ及候、

一今日於　御前岩倉卿ヨリ今般鹿児島江被差越候儀苦労思食候、兼テ大隅守〔久光〕御召相成居候得共、就所労上京延引之御願有之、不得止義ニ候得共、此后ノ実ニ御大事ト深被砕叡念、頻ニ　御依頼被思召事候付、是非来春ニ当リテハ上京有之候様可致尽力旨云々、従而西郷〔隆盛〕之処モ同断、兼テ御召ノコト候間、大隅守江随従是非上京イタシ候様、是又分テ尽力可致旨云々拝承御受仕候、

一六日、休日不参、今朝柴原甲府〔和〕大参事入来、川村子入来、二字ヨリ岩倉卿へ参殿種々御談申上候、今夕又訪黒田子云々示談、

一七日、今朝肥後子〔七左衛門〕入来、十字訪篠原〔国幹〕子参　朝御評議有之、篠原子参　朝相頼云々兵隊ノコト談置、今夕訪副島子、

一八日、十字参　朝、御評議有之、今朝品川〔弥二郎〕子参ル拝命ノ一条云々承ル、於宮中廣沢江一条打明シ示談、今夕

黒田子相招云々談ス、

一九日、副島子入来、十字参　朝、御評議有之、退出后内田子・田中子・鮫島子入来、

一十日、今朝黒田子入来云々ノ事決答有之、十字参　朝、御評議有之、今夕岩公御出、副島子入来種々御談有之、今夜半過京橋日本橋ノ間出火ニ付副島同道差越候、

一十一日、今朝肥後藩佐々木大参事(道元)、安場熊沢大参事(保和)入来段々相談承候、柳川十時十郎子モ入来、四字参　朝、今夕大神宮社内炎上ニ付　御遙拝有之相詰候、

一十二日、今朝木戸子入来種々示談イタシ候、一字参　朝、

御評議有之候、今夕石原子入来、

一十三日、今朝山岡(鉄太郎)子入来、三字参　朝、今日ハ近々就発足　玉座ニ被召、御酒肴賜リ候、今般就帰藩呉々御趣意相貫候様尽力、両老公(久光公・敬親公)出京イタシ候様云々尤木戸子同様罷出候条、条公御取伝ニ候、

一御火鉢一・御絹壱疋於　御前賜リ候、

一天盃頂戴最　天酌ヲ以頂戴イタシ候、誠ニ以恐縮至極ニ候、

一条公ヨリ於両人ハ先年来為　皇国不容易尽力、終ニ今日之盛業ヲ成シ実ニ御満足　思食候、尚前途大事ニ候間、精々勉励イタシ候様云々拝承恐縮イタシ候、今夕黒田子入来、

一十四日、不参、今夕副島子江参ル、吉井モ参ル、

一十五日、今朝木戸子入来候、十二字参　朝、今日ハ同席中於紀州邸条公・岩公・徳大寺公其外弁官中相招、退出ヨリ差越候、

一十六日、岩両公子入来、勝氏入来、昼后ヨリ条公江参

殿段々御懇話拝聞、夫ヨリ岩公江参殿、副島モ入来種々御趣意拝承イタシ候、

一十七日、不参、今朝伊集院子・川村子入来、徳大寺卿江参殿、今夕副島子・内田子・吉井子・黒田子・田中子・石原子・南部子等入来、

一十八日、今朝廣沢子・石原子・鮫島子等入来、十一字比馬車ニテ発途、梅邸（㊟蒲田梅屋敷）迄彦之進（四子）・達熊（筆蔵）・吉井倅（大久保長子）等為見送参ル、三字過同所打立暮時横濱江着、

一十九日、今朝渡辺大忠・松方知県事従長崎着港ニテ入来、耶蘇事件都合宜ク趣承候、木戸子旅宿江見舞、二字比亜メリカ飛脚船江乗込五時開帆、

一廿日、終日航海、

一廿一日、早天兵庫港着則上陸、税所江黒田・南部同道参候、今夜一泊、

一廿二日、十二字ヨリ乗船、大坂江四字着、伊丹七江旅宿、有川十右衛門子・木場子等入来、

一廿三日、今朝有川氏江立寄小松家江参リ、帰掛木戸子江訪留主ニテ帰ル、無程木戸子入来種々懇談イタシ候、六字ヨリ川登リ、

一廿四日、今朝伏見江着、兼春ニテ大山彦八（成美）子見舞有之、十一字比発足二字京着、岩下氏・新納氏・海江田子入来、

一廿五日、海江田子相招大村ノ罪人御処置ニ付、弾台ヨリ引留候儀有之、段々説得イタシ候、二字参　朝、長（㊟中御門経之）官公江云々示談ス、岩下家江参ル、今夕海江田子尚又大村事件懇談ニ及、

一廿六日、今朝宇田氏(淵)入来、昼后門脇大忠・新納子等入来、

一廿七日、今日終日不出、岩下氏入来、海江田子入来、大村罪人一条示談ノ義迚モ承伏難致旨決答有之、

一廿八日、大村罪人兎角断然処置ノ外無之、中御門卿江参上候処、東京ヨリ報知ノ御沙汰有之安心イタシ候、岩下氏江立寄参　朝イタシ、弥明日御処置ノ筋御決シ府江御達ノ運相成候、弾台ノ処置六ヶ敷候得共、海江田・門脇江懇々説得シ、漸クニ立合等イタシ候事ニ決答有之八字過帰ル、

一廿九日、今朝新納子入来、東京江ノ一封相認長官江相頼候、今夕岩下氏・鎌田子・新納子モ再来、今夕離杯久々振聞絃声頗ル愉快ヲ尽シ候、岩下氏・新納氏送別ノ歌有之返しのこゝろにて、

西の海の波の上より立そめて　世は長閑にも春の来ぬらん

一晦日、今朝岸良子・海江田子等入来、鎌田子モ入来、最滞在中数名佳人参居、離杯傾ケ二字比発足四字前伏水乗船、今夕一字着坂伊太七江旅宿、

明治三年庚午正月ヨリ

一元旦、天気快晴、春光稍々催シ、心身安舒、黒田氏入来同行木場子江訪、

歳　旦

烟擁江城曙色開　春芳占得一庭梅
官游今歳亦離闕　遙拝東方挙祝杯

一二日、晴、黒田子入来、鶴丸子・矢野子・木場・與倉(直人)子入来、昼后訪小松氏木場等囲碁催シ候、今夕黒田子入来、

一三日、今朝有川子・黒田子入来、昼后訪山口子、今夕

亦黒田入来、

一四日、木場直等入来、

一五日、木場同道兵庫江参ル、花鳥丸ヨリ四字開帆八時比着、今夕税所江一泊、

一六日、十字同船ヨリ帰坂、

一七日、今朝黒田入来、昼后小松家江訪、

一八日、昼后訪黒田子・木場子入来、

一九日、今日八字乗船雄飛丸御乗船四字比出帆、兵庫江着港、今夜碇泊、

一十日、十字開帆、

一十一日、二字比三田尻江着港上陸、〔案彦〕楫取氏江立寄当所一泊、

一十二日、今朝楫取子入来、十字比ヨリ発途山口江四字着湯田村江旅宿、今夕木戸子・寺内子入来諸生中入来、

一十三日、木戸子入来、平田・横山悦公子等入来、（㊟正太郎）（㊟島津忠済公）

一十四日、志广氏入来、木戸子入来、当所有温泉入浴、今夕訪木戸、杉木・野村氏等同会、木戸氏宅鴻嶺之本ニ新築、眺望最宜山水之風景閑雅頗逸興也、入夜月色暗淡上梅樹以賦一詩呈主人、（㊟靖）

風流本自属君堂　名嶺入窓水繞廊
誰識幽情此裏味　老梅花上月明香

一十五日、昼后於客館　〔長州侯〕知事公御逢、黒田同道且種々御示談有之、酒肴且縮緬三反、懸物一軸元信被下候、木戸・柏村子（信）等侍座、

一十六日、木戸子・寺内子・佐久馬子等入来、諸生一同入来、十二字過発途四字三田尻着、訪楫取子乗船十二字比解纜、

一十七日、風雪、田之浦投錨、

一十八日、十字開帆、

一十九日、十二字鹿児島着岸、直ニ御本丸二丸江出殿、拝謁不致、今夕類中客来雑沓、

一廿日、於二丸中将公知事公(島津久光)(島津忠義)拝謁、東京形勢且愚意詳細言上入候、後桂氏(久武)江訪黒田同道篤ト談合ス、今夕郡山(一介)老・中井入来、

一廿一日、不致外出、客来多々有之、

一廿二日、昼后伊地知正治江訪種々示談ニ及、今夕本田(史親雄)氏母公入来、

一廿三日、橋口氏・黒田子等入来、昼后菅廟・松原社墓参、訪得能子、今夕山口氏・税所等入来、

一廿四日、二丸江出殿　従二(久光)位公江拝謁、尚又御上京ノ御趣意相伺、何分即今御容体ニテハ御六ケ敷トノ趣ニ而一通申上退キ候、桂氏江訪候処、兎角此回ハ御上京ナクテハ被為済マシクトノ論ニテ、明日知政所ノ評議可有之トノ咄ニ而種々及示談候、今夕石原直子入来、

一廿五日、二丸江出殿拝謁云々言上、御上京一条知政所江御沙汰相伝候様承、則桂氏江及達命候、今日ハ原良別荘江得能・皆吉・大山・帖佐・中井等相携参リ候、今夕桂氏入来ノ由申参則帰宅、今日知政所評決ノ上一応知事公江言上ノ処、知事公御沙汰ノ趣キニ付、桂氏甚当惑ノ次第有之、為相談入来アリシ事件也、畢竟少々ノ行違ヨリ起リシコトニ候得共、誠ニ

大事ノ前小事ニテ於拙モ苦心不一方候、及鶏鳴帰ラレ候也、

一廿六日、今日出殿　知事公江謁シ、昨夜桂氏江御沙汰ノコトニ付内々思食相伺候処、別ニ御趣意不被為在候得共、云々トノ御事ニ候間、即今ノ形勢ヨリ利害得失条理ヲ以反覆御議論申上候処、理ニ於テ御了解ノ御容子ニハ候得共今日ハ先ツ退キ候、

一廿七日、今朝黒田子入来、出殿知事公江（島津忠義）謁、昨日ノ形行尚勘考イタシ候処、実ニ前途ノ御大事且即今ノ事モ則万事不相運誠ニ杞憂ニ堪ス候、乍去桂江我々ヨリ了解為致様モ無之甚込入候、如何可仕ヤトノ大意ヲ以詳細申上候処、見込御尋被為在候ニ付、今一応右衛門（桂）ヲ被召、御一言ノ行違ヲ解釈イタシ候様御沙汰被下、此上益感泣憤励仕候様御説論ノ外無之段申上候処、二丸公江申上思召寄不被為在候ハヽ、其通可致トノコトニ候ニ付、則二丸江参殿形行ヲ以申上候処御同意、又々知事公江其趣申上御決意ニ相成候間退キ候、

黒田子江立寄候、今夕山田・皆吉・藤井・石原等入来、今日桂御召ノコトハ樺山江（資休兵衛）御沙汰ニ而御使参候、

一廿八日、出殿、今日桂氏ヲ被召御直ニ御説諭被為在候処、同人モ感銘ニ而能都合安心イタシ候、

一廿九日、今朝野津（鎮雄）・中村（半次郎）・高島（鞆之介）・貴島（清）・黒田（了介）ノ諸士一会、軍務局云々ノコト遂示談候処、軍務局ノ論別而公論ニテ、罪ヲ臣下ニ帰シ奉謝ノ外無之トノコト也、午後桂家入来、今日政府ノ論相決御上京ノコト御進相成候処、中々御許容不被為在別而六ケ敷候由承ル、実ニ此事之成否ニ依前途ノ興敗ニ相懸候事故、誠ニ当惑之儀候○今夕得能子・中井士入来、

二月

一朔日、市来子（六左衛門）・里村（藤大夫）等為見元ノマヽ字本昼后黒田・中村入来、昼夜任言、

一二日、訪中井子・皆吉氏・郡山・山田氏見舞帰宅、伊地知正治子入来、今夜郡山(一介)老入来、

一三日、今朝橋口彦二子入来、昨日二丸公江云々ノコト申上、弥御上京御猶予御願之筋伺相成候段承候、黒田子江訪同道桂氏江参云々談、伊地知壮(貞馨)之丞江訪帰、

一四日、二丸江出頭　両公御揃之処江拝謁、御快気ニ被為向候ハヽ、是非御受御上京ノコト尽理言上御異論無之候、今日横山正太郎(安武)・岸良真二郎(兼養弟)両士、神戸丸乗船ニテ従長州報知之為帰藩、実ニ内論大混動大事之次第ニ候、桂家江参リ談合ス、出殿人数為救応被差出候筋治定、拙等モ木戸江談合ノ次第モ有之、、傍観イタシ信義不相立候ニ付、則踏込候処ニ決定イタシ候、今夕訪得能子、

一五日、二丸江出殿拝謁、昨日御治定ニ付見込申上候様トノコト故黒田一同形行言上、知政所江罷出見込談合イタシ候、今日伊地知壮子、黒田子入来、

一六日、今朝橋口与一郎子入来、長州江人数差出ノコト、西郷等一応御使者相勤候上御治定ノ由承候、今日郡山老・得能入来、石原子同断、

一七日、終日不出、皆吉五郎子入来、今夕中井子入来、黒田子同断、

一八日、同断、竪山郷之丞入来、燈明丸云々ノコト也、

一九日、今日昼后墓参白濱氏江相訪、

一十日、久保八郎・中井等入来、

一十一日、得能子就誘引同行税所氏江訪、大山郷(右衛門)子モ入来、

一十二日、中井子入来、

一十三日、藤井氏・石原氏・本山子・備後公子〔珍彦〕・安藝公〔忠欽〕子同行来臨、

一十四日、得能子入来、野津子入来、備後殿一条相談承候、

一十五日、野津子・備後殿・今和泉〔忠欽〕両公子入来、云々説得イタシ候、今日黒田子江参リ候、

一十六日、昼后本田子江訪候、

一十七日、今日得能子入来、西郷〔隆盛〕子等帰藩ノ由承、昼后同伴同人宅江参リ候、長州事件モ先干戈モ治リ諸隊降伏ニ及候由、此先不容易被察候、

一十八日、昨夜ヨリ中井子入来、今朝黒田子入来、大山子入来、今夕山田子・石原子等入来、

一十九日、今朝肥後藩ヨリ両士入来、二丸江出殿拝謁、備後子一条言上、御勘考可被為在ト之御事ニ候、御本丸江出殿イタス、

一廿日、不敢外出、得能子・郡山老〔一介〕・野津七二〔道貫〕子・高島子・黒田子入来、

一廿一日、晩景ヨリ得能子・桂子江訪、西郷子入来、

一廿二日、二丸江参殿拝謁、備後殿一条言上候得共、未御勘考付カセラレストノ御事ナリ、中井等同伴原良別業江参ル、

一廿三日、今朝森〔有礼〕子入来、今日神祭ニ改御遷座イタシ候、黒田・貴島・野津等暫時入来、今夕藤井氏・石原氏等入来、

一廿四日、今朝得能子等入来、同道二丸江出殿　両公江〔忠義・久光〕拝謁、備後殿〔珍彦旧名〕一条云々言上、追テ御返詞可被成トノ御事ニテ、子細相伺候得共御沙汰無之候、且又世上流布之御作一条相伺候処、段々
御激論ニ相成十分御真意拝承イタシ候、畢竟門閥一条等且知藩事之コト、迚モ是ニ而治リ相付候御見留無之、御政度ノ処ニ第一御不平云々実ニ不堪愕然、小子愚存ノ次第ハ不憚忌諱曲直ヲ明ニシ、名分ヲ正シテ及言上候、乍去不可言ノ御沙汰等有之不得止引退ヽ候、嗚呼今日ノコト何ノ因縁ナルヤ不存寄コト也、熟考イタシ候ニイカ程御迫リ申上忠言ヲ尽シ候テモ、只々云々ノ御逃詞而已ニテ詮立候義無之、先夫形召置候方却テ可然、最此上一体ノ処迚モ激ニ出候コトハ決而無之ト見込候間退キ候也、墓参等イタシ桂子江参リ同人丈ハ後日ノ為内々形行及密話候、同人モ同意也、西郷子江立寄候、今夕皆吉五郎子・藤井氏父子・石原子・中井子・海江田氏・おまつ殿入来ニ而及酩酊候、

一廿五日、今朝暇乞客来夥敷一々不記、桂家江長州御使ノコトニ付鳥渡参リ候、中井・野津・野崎〔平左衛門〕・淵辺〔幹平〕ノ諸子入来、藤井氏父子・石原子・白濱子母子・山田良子・皆吉五郎子・西田・皆吉氏等類客多々、例之通離杯ヲ酌ミ三字発途、岡部方〔与兵衛〕江立宿ニテ咸〔戒カ〕通江乗船、今夜天気不宜不致解帆候、

留　別

満城春色落花香　嬌々鶯声対夕陽
多少別魂誰得識　風前楊柳万条長

一廿六日、七字解帆候処天気模様不宜久志浦江碇泊、

一廿七日、今日迄モ滞船故郡山子・得能子・黒田子等一同上陸同所風景頗美、

一廿八日、早朝当所出帆、今晩四字過長崎江入津、

一廿九日、今早朝上陸山田屋店江旅宿、得能子同宿、野盛

村子[秀]・川上・森岡[昌純]・中江・東郷子等見舞有之、昼前歩行迎陽亭ヨリ藤屋ト云茶店江参ル、同所数子之催ニ依也、風景最モ宜シク各把杯愉快ヲ尽シ候、暮過引取候、

即吟数子ニ示ス

酒満高楼玉顔新　桃紅李白十分春
浮萍相合心如水　已欲夕陽興味真

一卅日、今日ハ旅宿江野村知事[宗七]、其余郡山老・川上・東郷・中江・黒田子等一会及酒興候、

三月中

一朔日、今日迄モ天気不宜解纜不調候、今日ハ清人高栄憑繞如両人ノ画人相招席画一覧面白候、川上・東郷・中江之数子モ入来、

一二日、昼后ヨリ笠野熊吉[熊]居江差越及逗留、最得能・川上同行佳人モ来ル、

一三日、風雨不止、川上子入来、

一四日、得能子・川上子同道福屋江差越洋料理給候、

一五日、今日迄モ天気不宜終日不出、

偶作

春深連日雨紛々　半嶺欲晴半嶺雲
一睡醒来猶未暮　故山何処望難分

又

黄鳥暁来和雨啼　落花点々委新泥
湿雲晴処半峰顕　古寺依山麥隴青

今夕川上子入来離杯相催、貞子終夜談話及徹夜、

一六日、今朝森岡子入来、八字ヨリ咸通丸江乗船十字発艦、天気平穏入夜航海ス、平戸瀬戸ヲ過ル已ニ日没ノ時也、

一七日、天気如昨日、今朝七字比過馬関田之浦ニ碇泊、

二字比解纜海上平和也、

船中戯作

舟上偶然夢又長　白雲蒼海望茫々
醉余戯喫香柚子　忽憶瓊江紅砂糖

得能子江示一笑ヲ催、紅糖ノ事実大ニ有故也、

一八日、航海今晩二字比着神戸、得能子同道上陸訪税所旅宿、

一九日、郡山氏等モ暫時上陸有之、直ニ乗船ニテ便船聞合候処、今夕五字ヨリ米利堅商船出帆之由、仍而一日逗留四字得能子同道到布引亭、栄女出相接、庭前桜梨花如雪戯賦与栄女

東風未和播州灘　雲影離々春猶寒
閑苑桜桃三尺雪　清香馥郁玉欄干

直ニ乗船五字開帆、此船火輪船ニテ不大動運速矣、

一十日、終日航海不出紀州領、

一十一日、今夕十一字比横濱着港、

一十二日、発足馬車ニテ通行、梅邸ニ而昼飯給へ四字東京旅宿江帰着、吉井・田中・黒田嘉子〔清綱〕等入来、

一十三日、就所労不参、副島子・黒田子・得能子・内田子等入来、今夕川村子入来、

一十四日、不参、黒田嘉子入来、昼后副島子江立寄、晩景ヨリ岩倉公江参殿種々御示談有之、尤二丸公御猶予願之復命申上候、且見込御尋ニ付
主上御輔佐ノコト根本タル旨云々、今日ハ天職ヲ御尽シ随テ右大臣・大納言其余諸省、各其職掌ヲ尽スヲ以云々申上候、

一十五日、不参、午后条公江参殿岩公同様申上候、今夕得能子入来一泊、

一十六日、黒田子入来、午后ヨリ得能子同道汐留ヨリ乗船向島花見イタシ、大七楼江登一日ノ遊興ヲ尽シ候、

一十七日、今朝副島子江立寄参　朝イタシ候、於　御前復命イタシ候、三字退出、江東子入来、今夕副島子江参、山田浅右衛門参、刀鑑定共有之、

一十八日、今朝堀子・伊集院子等・黒田子入来、参　朝、退出ヨリ条公邸江大納言参議一同会、集議院御評議有之見込十分申上候様承、

君徳培養之事、

人撰齊藤・副島

至尊天職十分ヲ以尽サセラレ候様、皇国前途ノコト此本立、従而三職各一層ノ憤発、就右府納言公益尊大固陋ノ弊ヲ脱却、身ヲ以先チ諸省ヲ御率ヒ、一定一和ノ基相立候様、民・蔵両省ノコト人撰ヲ以十分相助ケ、政府ヨリモ懇談ヲ尽大ニ一弊ヲ改候云々、

人撰吉井・林弾正（友幸）ノコト御変革云々、

右ノ大意建論種々御評議被為在、各見込モ異同有之不至一定晩景退散、今夕黒田・吉井入来、